

紀要

第3号
2021年2月

目次

| | | | |
|------------|---|-------------------------|----|
| I | 論文 | | |
| | <実践・調査報告> | | |
| | 富山県における外国人労働者を対象とした日本語教育の調査 | 田中 信之 濱田 美和 副島 健治 | 1 |
| | 外国人労働者向け日本語・日本文化公開講座の試み | 濱田 美和 田中 信之 | 11 |
| | 遠隔日本語クラスにおける Moodle を用いたオンライン定期試験 | 濱田 美和 | 20 |
| II | 年報（2019年4月～2020年3月） | | |
| | 1. 交流部門報告 | | 31 |
| | 2. 教育部門報告 | | 38 |
| | 日本語課外補講報告 | | 39 |
| | ライデン大学短期日本語研修プログラム報告 | | 46 |
| | 総合日本語コース報告 | | 52 |
| | 日本語プログラム授業アンケート 初級クラス | | 59 |
| | 日本語プログラム授業アンケート 中級クラス | | 62 |
| | 日本語プログラム授業アンケート 上級クラス | | 66 |
| | 日本語学習支援サイトRAICHO報告 | | 73 |
| | 3. 国際機構関連行事 | | 75 |
| | 4. 国際機構教員等担当業務 | | 78 |
| III | 資料 | | 81 |

富山大学国際機構

紀要

第3号
2021年2月



I 論文

富山県における外国人労働者を対象とした日本語教育の調査

田中 信之
濱田 美和
副島 健治

A Survey on Japanese Language Education for Foreign Workers in Toyama Prefecture

TANAKA Nobuyuki
HAMADA Miwa
SOEJIMA Kenji

要 約

本稿の目的は、企業を対象としたアンケート調査、および企業訪問調査を実施し、富山県における外国人労働者を対象とした日本語教育の実態を探ることにある。富山県下の企業を対象にアンケート調査を行った結果、(1) 本調査対象の企業は、製造業の中小企業の割合が高く、外国人労働者の在留資格は技能実習の割合が高く、国籍はベトナム、中国の割合が高いこと、(2) 外国人労働者が在籍する企業はほぼ半数で、日本語教育を必要とする外国人労働者は8割弱にのぼること、(3) 外国人労働者の日本語レベルは初級と未習をあわせると8割強となることがわかった。これらのことから、外国人労働者への日本語教育の必要性が窺えるが、日本語教育が必要な外国人労働者が在籍する企業のうち、約6割が日本語指導を実施していないことが明らかとなった。また、企業訪問調査の結果、中小企業において外国人労働者は残業など勤務時間が長く、日本語学習の時間を確保しにくいこと、企業側も日本語指導の実施を検討しつつも、実行に移せない実態が浮かび上がった。これらのことから、外国人労働者に対して大学が貢献できることを検討した結果、日本語学習のモチベーションを高めるために、日本人大学生との会話や日本文化を体験する講座の実施などを提案した。

【キーワード】 外国人労働者 日本語教育 アンケート調査 企業訪問調査

1 はじめに

国内で暮らす外国人への日本語教育を推進することは国や自治体などの責務とした「日本語教育の推進に関する法律」が2019年6月28日に公布、施行された。この背景には、新たな在留資格「特定技能」を盛り込んだ改正出入国管理法が施行されたことにより、外国人労働者の大幅な増加が見込まれることなどがある。

厚生労働省富山労働局のデータ¹⁾によると、2019年10月末現在、富山県の外国人労働者数は11,844人、外国人労働者数を雇用する事業所数は1,925か所で過去最高を更新しているという。このような状況の中、富山県はこれまでの多文化共生推進プランに「外国人材活躍」の観点を盛り込み、「富山県外国人材活躍・多文化共生推進プラン」を新たに策定している²⁾。また、富山県は企業・外国人の双方にとって大きな障害になっている「言葉の壁」を解消すべく、外国人材への日本語研修などを実施する企業に対して支援を行い、外国人材の確保・定着を目指すとしている。具体的には「外国人材雇用日本語研修等支援補助金」という形で、富山県内に事業所を有している中小企業または登録支援機関を支援している³⁾。しかしながら、補助対象予定者数や補助対象期間は限定的であり、今後の拡充が期待される。

今後外国人労働者はさらに急増することが予想されるが、どのように日本語教育を実施していくかが大きな課題となる。しかしながら、富山県において外国人労働者を対象とした日本語教育がどのように行われているか、その実態は明らかになっていないと言えない。そこで、まず外国人労働者にかかわる基礎調査が必要となってくる。

2 先行研究

これまで外国人労働者を対象とした日本語教育の実態を探る調査はあまり行われていない。アンケート調査やインタビュー調査を実施した先行研究に、見崎（2019）、荒島・吉川（2019）、中川・神谷（2019）がある。

見崎（2019）は外国人労働者に関するアンケート調査を行うことにより、建設技能および日本語能力に与える要因について分析を行った。アンケート対象は首都圏、関西圏の企業87社とし、外国人労働者445人分を送付し、53社、264人分の回答があった。日本語能力等の外国人労働者への質問は本人ではなく、雇用主が回答した。分析の結果、技能習得を向上させるためには日本語能力を伸ばすことが効果的であることが明らかとなった。また、日本語習得に与える影響については日本入国前に言語教育を受けたことは有意差がなかった。入国後言語教育を受けたことは日本語習得度が有意に高くなった一方で、雇用者が日本語指導をしていないことは日本語習得度が有意に低くなった。すなわち、雇用主の日本語指導意欲が重要であることがわかった。

荒島・吉川（2019）は監理団体の日本語指導員に対し、入国後の日本語講習についてインタビュー調査を行った。受け入れ企業に配属後の問題の一つとして、実習生の日本語学習のモチベーションがあるという。日本語学習へのモチベーションが低い実習生や、実習生への日本語教育の重要性を理解しない企業に対する解決策の一つとして「ビジターセッション」を挙げている。これは実習生の受け入れを考えている企業や地域住民など実習生に関心を寄せる人々が交流する場を設けることである。このような外部との接点を持つ機会の重要性を指摘している。

中川・神谷（2019）はベトナム人実習生12人を対象に日本語学習意識をインタビュー調査した。M-GTAを用いて分析した結果、【来日目的と日本語学習意識】【日本語学習環境の確保】【事業主、日本人スタッフとの信頼関係】【地域社会、職場環境への適応】【日本語学習上の困難点—技能実習生の立場から】という5つのカテゴリーが技能実習生の日本語学習意識に与える要因として取り出された。調査対象の農場では事務所内に週2回日本語教室を開設し、日本語コミュニケーションを図るための授業を行っており、事業者も実習生も【日本語学習環境の確保】に努めている。また、専任スタッフの通訳のほかに、先輩実習生が新人実習生の通訳や世話も引き受けてくれるため、日常会話は全く問題がないという。このような状況から、中川・神谷は介護・看護分野等、高度な対人コミュニケーション能力が求められる分野以外では、実習生にとって職場上必要な基礎的な日本語能力は、日本語教師がいなくても獲得できるのではないかと述べている。その一方で、将来の専門職獲得に向けた資格取得として、実習生には日本語能力試験が目標となっており、日本語学習支援の必要性を指摘している。

以上の先行研究から課題をまとめると、①実習開始後も日本語学習の機会を設けることと、その方法が重要である、②首都圏、関西圏ではなく、地方都市における外国人労働者への日本語教育を調査する必要がある、③外国人労働者の日本語学習へのモチベーションを高めるために、外部との接触を持つことが重要である、④外国人労働者に対して、日本語学習環境を確保しているか、どのような日本語学習上の困難点があるかを調査する必要がある、となる。

3 研究目的

本研究の目的は、企業を対象としたアンケート調査、および訪問調査を実施し、富山県における外国人労働者を対象とした日本語教育の実態を探ることにある。今後、外国人労働者を対象とした日本語教育に大学がどのように貢献できるかを検討する。

4 研究方法

4.1 企業へのアンケート調査

富山大学産学連携センターと関連する富山県下の企業203社を対象にアンケート調査を実施した（ア

アンケート調査票は資料1を参照のこと)。調査期間は、2019年11月6日～11月20日で、有効回答数は142社⁴⁾(回収率70%)であった。

4.2 企業への訪問調査

アンケート調査結果より2社を選定し、2019年12月12日と12月20日に1社ずつ訪問調査を行った。

5 結果と考察

5.1 企業へのアンケート調査結果

5.1.1 業種別・規模別の企業数

142社の業種は製造業が130社(90.3%)で大多数を占めた(図1)。従業員数は300人未満の中小企業が88社(62.0%)、300人以上の大企業が34社(23.9%)であり、中小企業数が大企業数を大きく上回っている(図2)。

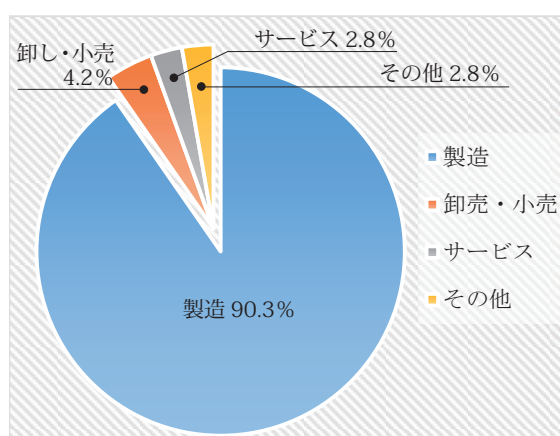


図1 調査対象企業の業種

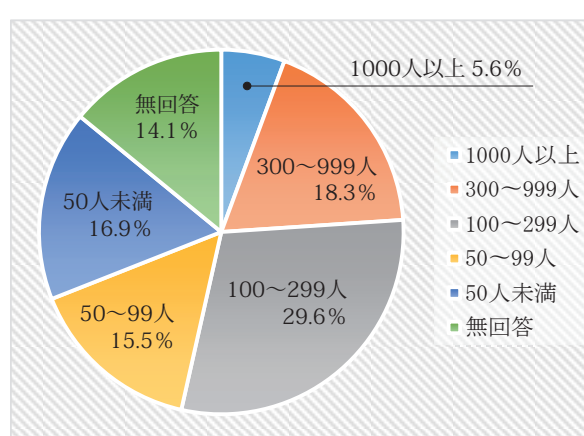


図2 調査対象企業の従業員数

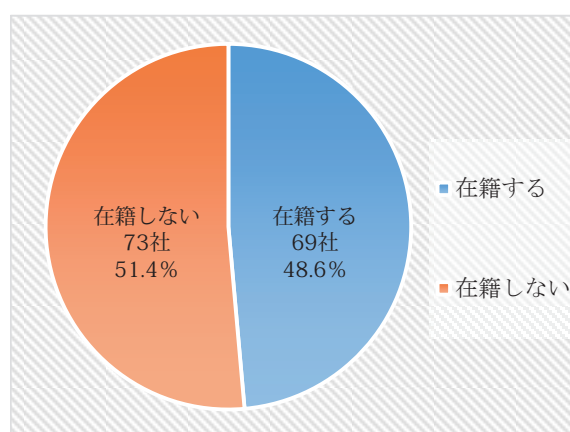


図3 外国人労働者の在籍する企業数

外国人労働者の在籍する企業は142社のうち69社(48.6%)で、ほぼ半数であった(図3)。69社の業種別内訳は製造業が66社(95.7%)である。従業員数別内訳は、300人未満の中小企業が37社(53.6%)であり、142社の結果と同様の割合となっている。厚生労働省のデータ⁵⁾では、産業別外国人雇用事業所の割合は製造業が49,385か所(21.4%)で最も高くなっている。厚生労働省富山労働局のデータでも、製造業が720か所(49.9%)であったことから、富山県は全国的に見ても、製造業の割合が高いことが

わかる。本調査の対象は富山大学の関連企業であるが、富山県の特徴とも言える製造業が大多数を占めている。

また、厚生労働省の同データでは、事業所規模別外国人雇用事業所の割合は従業員数30人未満が145,000か所（58.8%）と最も高くなっている。厚生労働省富山労働局のデータでも、全国のデータと同様に30人未満が1,111か所（57.7%）と最も高くなっているが、本調査では外国人労働者が在籍する中小企業は37社（53.6%）と割合が高いものの、50人未満が3社（4.3%）と小規模な企業の割合が非常に低くなっている。

5.1.2 在留資格別・国籍別の外国人労働者数

69社に在籍する外国人労働者数は921人であった。在留資格は技能実習が732人（79.5%）で最も多く、続く、技術・人文知識・国際業務が49人（5.3%）となっており、他を大きく引き離している（図4）。厚生労働省富山労働局のデータでは、技能実習は6,209人（52.4%）であり、本調査での割合が高いことがわかる。

また、国籍はベトナム人が429人（46.6%）で最も多く、次いで、中国人が194人（21.1%）、フィリピン人が167人（18.1%）であった（図5）。厚生労働省の同データでは、中国人（香港等を含む）が418,327人（25.2%）、ベトナム人が401,326人（24.2%）とほぼ同じ割合で、フィリピン人が179,685人（10.8%）となっている。ただし、技能実習生に限定すると、法務省のデータ⁷⁾では、ベトナム人が218,787人（53.2%）、中国人が82,370人（20.0%）、フィリピン人が35,872人（8.7%）となっている。本調査の対象は技能実習生が8割弱という割合から、法務省のデータと同様の傾向が表れていると言えるだろう。

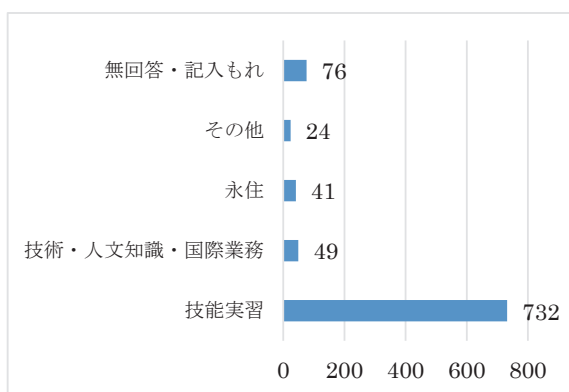


図4 外国人労働者の在留資格別人数⁶⁾

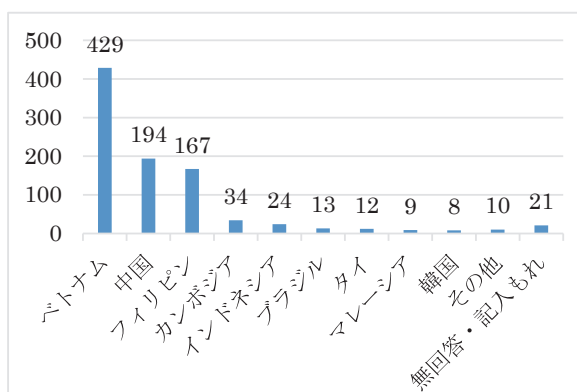


図5 外国人労働者の国籍別人数

5.1.3 外国人労働者に対する日本語教育

外国人労働者921人のうち、日本語教育を必要とする者は718人（78.0%）であった（図6）。日本語レベルは528人（73.5%）が初級で、88人（12.3%）が未習であり（図7）、日本語指導が必要であることが窺える。

外国人労働者が在籍する69社に仕事をする上での必要な日本語能力について「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能別にたずねたが、聞く能力は50社（72.5%）、話す能力は38社（55.1%）、読む能力は25社（36.2%）、書く能力は21社（30.4%）が「かなり必要だ」と答えている（図8～図11）。このように外国人労働者の日本語能力に対する企業の要求は高いと言える。JITCO（公益財団法人国際人材協力機構）の『講習の日本語指導ガイド』（p.15）では、「日本語指導の相談事例や調査から見ると、実習実施期間が考える『技能実習生に必要な日本語』は、作業に関する言葉を聞きとったり、日本人

と会話する力」と述べている。しかし、本調査の結果では、読む能力や書く能力が「全く必要ない」という回答はなく、「あまり必要ない」の割合も低いことから、企業は外国人労働者に対し、聞く能力や話す能力はもちろんのこと、読む能力や書く能力もある程度期待していることがわかる。本調査の対象者はベトナム人などの非漢字圏の外国人労働者の割合が高いことから、読み書き能力には「漢字」の読み書き能力の必要性も小さくないのではないだろうか。

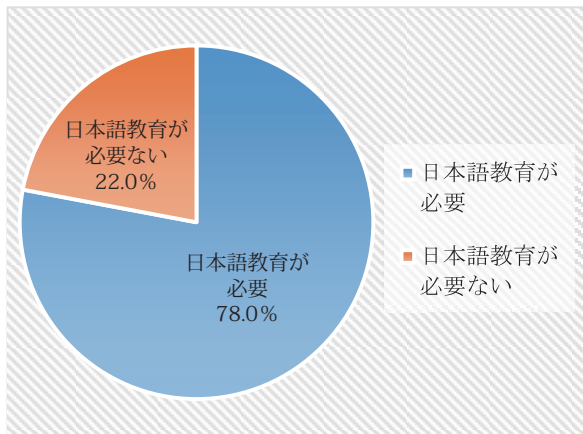


図6 日本語教育を必要とする外国人労働者数

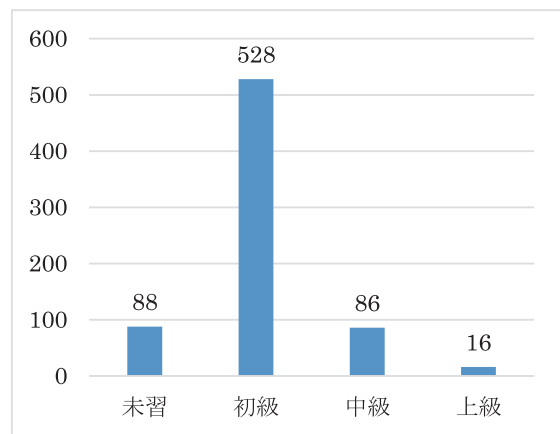


図7 外国人労働者の日本語レベル別人数

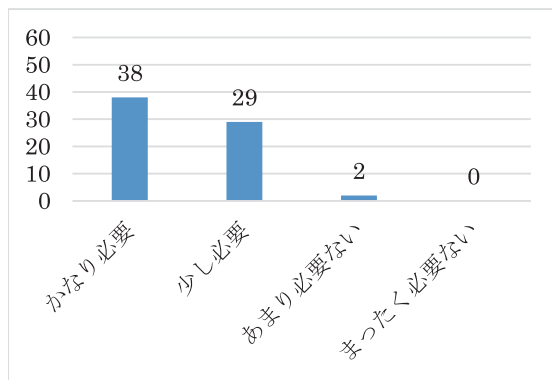


図8 仕事をする上で必要な日本語能力 (話す能力)

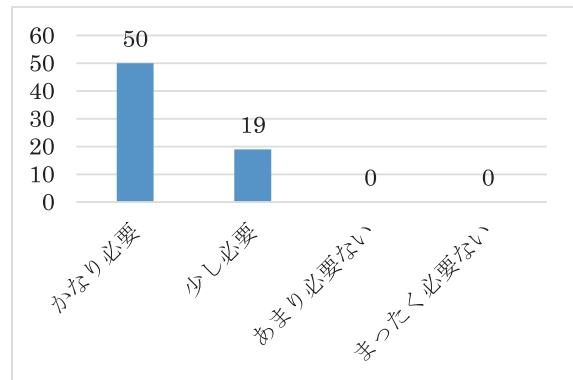


図9 仕事をする上で必要な日本語能力 (聞く能力)

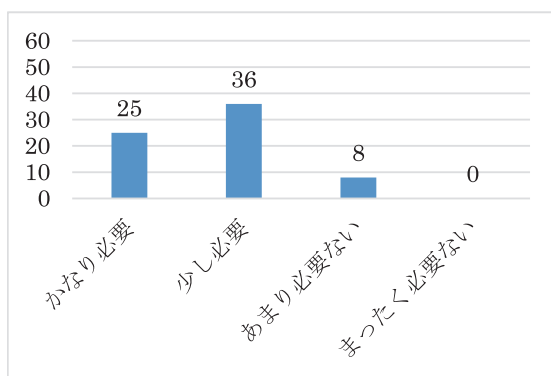


図10 仕事をする上で必要な日本語能力 (読む能力)

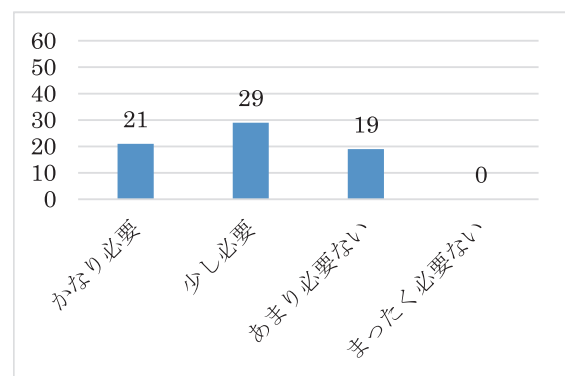


図11 仕事をする上で必要な日本語能力 (書く能力)

しかし、企業は外国人労働者に対し日本語能力を期待しながらも、69社中44社（63.8%）は日本語教育を実施していないことが明らかとなった（図12）。事業主にも日本語教育を実施する責務があることを明記した「日本語教育の推進に関する法律」に相反する結果である。首都圏、関西圏の企業を調査対象とした見崎（2019）では、53社のうち、日本語指導をしていない企業は20社（37.7%）であり、本調査の結果は高い割合と言えるだろう。中川・神谷（2019）は「実習生にとって職場上必要な基礎的な日本語能力は、日本語教師がいなくても獲得できるのではないか」と述べているが、見崎（2019）の調査結果から、技能習得を向上させるためには日本語能力を伸ばすことが必要であり、実習開始後も日本語学習の機会を設けることが重要ではないだろうか。

一方、社内で実施すると回答した企業においては、総務部・総務課（7社）、管理部・管理課（3社）、財務部、製造部などが日本語指導を担当している。それ以外にも、OJTのように各職場という回答も見られた。社内実施の企業15社を詳細に見ると、大企業（社員300人以上）は5社、中小企業（社員299人未満）は7社、社員数無回答の企業は3社である。このことから日本語教育の社内実施は会社の規模との関連性はそれほど高くないと言えるだろう。

外部委託は、監理団体（3社）のほか、民間の日本語教育機関、日本語学校、通信教育、日本語教師個人に委託するといった回答が見られた。見崎（2019）の調査結果には外部委託という回答は見られないことから、これも本調査結果の特徴の一つと言えるだろう。また、本調査および見崎（2019）では、地域の日本語教室に通わせているという回答は少なかった。これについては、勤務時間外に外国人労働者が本人の意志で日本語教室に通っている場合など、企業側が把握していない可能性もある。

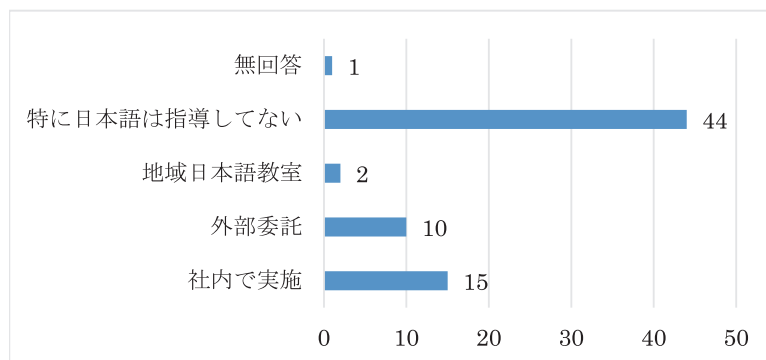


図12 企業の日本語教育実施状況（複数回答）

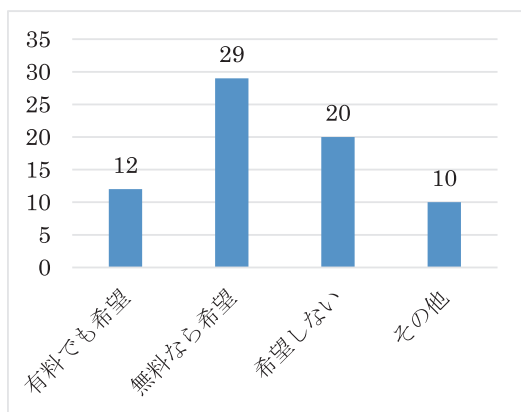


図13 富山大学の日本語講座の受講希望⁸⁾

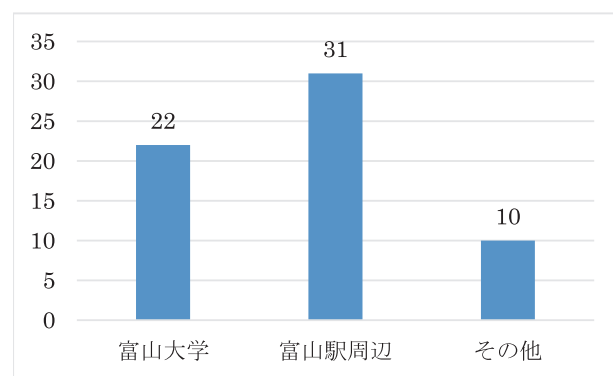


図14 公開講座の開催場所の希望（複数回答）

富山大学での日本語講座を開講した場合、受講希望するかを聞いたところ、69社のうち41社(59.4%)が希望すると回答した(図13)。その中で有料でも希望する企業は12社(16.9%)あり、日本語教育を実施したいが、人材やノウハウを持たないことが推測される。また、日本語講座の受講を希望しない20社を除く49社に対し、公開講座の開催場所についてもたずねたが、富山駅周辺が31社(49.2%)と最も高かった。その他には、「弊社」や「近隣施設」など、交通の便の良いところが回答されていた。本調査対象の企業は大多数が製造業であったが、工場の立地は郊外化が進んでおり、勤務後に富山駅や富山大学に向かうとすると、多くの時間を要すると考えられる。

5.2 企業への訪問調査結果

アンケート調査結果をもとに2社を選定し、訪問調査を行った。

中小企業のA社は実習生6人が在籍している。監理団体型の受け入れで、毎年2人が来日して実習についている。実習生は社員から厚い信頼を得ているという。担当の方に日本語指導について伺ったところ、実習生は残業が多く、休日出勤もあり、日本語学習に十分に時間を割くことができないが、社内での必要性の声が上がっており、検討中とのことであった。

一方、大企業のB社は企業単独型の受け入れを行っている。実習生8人が在籍し、いずれも現地採用社員で、帰国後は現地リーダーとしての役割が期待されている。日本語教育については社員が担当して、月に2回、日常会話などの指導が行われている。実習中、あるいは生活においても、日本語で話す機会が少ないため、日本語学習のモチベーションを維持することが難しいとのことであった。

このように日本語指導を実施していない会社では、必要性を認識しつつも実行に移せていない状況があることがわかった。上で述べたように、日本語講座を希望する企業が6割弱もあることから、何らかの機会を設ける必要がある。一方で、企業内で日本語指導を実施している場合も、日本語学習の動機付けを高めることに苦心していることわかった。また、上述のとおり、日本語講座の開催希望地について富山駅周辺が最も多かったが、残業も多いという勤務形態、富山市の郊外にある企業所在地を考えると、平日にどこか一か所で日本語指導を実施するのは非常に困難であると言える。

6 外国人労働者に対する日本語教育への貢献

企業へのアンケート調査および、企業訪問調査の結果をもとに、大学は外国人労働者に対する日本語教育にどのような貢献ができるであろうか。

まず、大学において日本語・日本文化講座を実施することが考えられる。これは日本語の授業を受けるという形ではなく、日本人大学生や留学生と会話をしたり、日本文化を体験したりするというワークショップ形式である。荒島・吉川(2019)が指摘しているとおり、日本語指導を受けていない実習生にとっては、日本人大学生や留学生との交流が日本語学習のモチベーションを高める機会となることが期待される。日本語指導を実施していない企業の外国人労働者を優先して検討するのが望ましいだろう。

次に、自律的な日本語学習を支援することである。平日の残業や休日出勤もあるという多忙な外国人労働者向けに、日本語 e-learning 教材の活用に関する調査・検討を行う。「2. 先行研究」で、外国人労働者に対して、日本語学習環境を確保しているか、どのような日本語学習上の困難点があるかを調査する必要があると述べたが、本調査では実施できなかった。自律学習を支援するにあたり、まずは外国人労働者の日本語学習状況を把握することが重要となるだろう。

最後に、外国人労働者と県の関係部署、日本語ボランティアをつなぐ役割である。助川・吹原(2017)では、大学の学生組織と役場が中心となって開始した日本語教室が紹介されている。この教室の成果として、「これまでに工場と宿舎と教会だけを生活の場として長期間日本で暮らしながら、日本人との交流がほとんどないインドネシア人に多く会ってきたが、この教室は外国人コミュニティと日本人社会を繋ぐ扉として重要な働きをしている。」(p.123)と述べている。本調査において、地域日本語教室

に通う外国人労働者は予想に反して多くなかった。助川・吹原（2017）の茨城県大洗町の成功例を参考に、持続可能な形を模索することが考えられる。

7 まとめと今後の課題

本研究は、企業を対象としたアンケート調査、および企業訪問調査を実施し、富山県における外国人労働者を対象とした日本語教育の実態を探ることを目的とした。富山県下の企業を対象にアンケート調査を行った結果、日本語教育を必要とする外国人労働者が8割弱もいることに対し、日本語教育を実施していない会社は6割強にもものぼる。地域として何らかの対応策が必要であることが明らかとなった。一方で、外国人労働者は残業、休日出勤があり、大学に通うことは困難であることもわかった。

このような成果から、①外国人労働者の日本語学習のモチベーションを高めるために、日本語・日本文化講座を試行すること、②日本語 e-learning 教材の活用に関する調査・検討を行うこと、③外国人労働者と県の関係部署、日本語ボランティアをつなぐ大学としての役割を検討することを提案した。「日本語教育の推進に関する法律」において、日本語教育の推進の目的の一つとして、「多様な文化を尊重した活力ある共生社会の実現」がうたわれている。本稿の外国人労働者に対する日本語教育の提案は第一歩にすぎないが、着実に進めていかなければならない。

謝辞 本研究は富山大学令和元年度学長裁量経費（教育研究活性化等経費）の助成を受けたものです。また、アンケート調査、並びに訪問調査において各企業のご担当者様には多大なるご協力を賜りました。心より感謝申し上げます。

注

- 1) 厚生労働省富山労働局のデータ「富山県における外国人雇用状況の届出状況（令和元年10月末現在）」
< <https://jsite.mhlw.go.jp/toyama-roudoukyoku/content/contents/000593169.pdf> >（2020年10月28日）
- 2) 富山県ホームページ「富山県外国人材活躍・多文化共生推進プラン」
< http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1018/kj00020882.html >（2020年10月28日）
- 3) 富山県ホームページ「外国人材雇用日本語研修等支援補助金のご案内」
< http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1303/kj00021913.html >（2020年10月28日）
- 4) 有効回答の企業の所在地は富山市が113社、射水市が28社、高岡市が1社であった。
- 5) 厚生労働省のデータ「『外国人雇用状況』の届出状況まとめ【本文】（令和元年年10月末現在）」
< <https://www.mhlw.go.jp/content/11655000/000590310.pdf> >（2020年10月28日）
- 6) 1社が在留資格の内訳を1人分多く記入したため、合計で922人となっている。
- 7) 法務省のデータ「令和元年末現在における在留外国人数について（公表資料）」
< http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri04_00003.html >（2020年10月28日）
- 8) 2社が「有料でも希望」と「無料なら希望」の両方を選択したため、合計で71社となっている。

参考文献

- (1) 荒島和子・吉川夏渚子（2019）「外国人技能実習制度における監理団体での日本語教育の役割—ある監理団体へのインタビューをもとに—」『日本語・日本文化研究』第29号, 139-156
- (2) 見崎要（2019）「外国人労働者の日本語能力が技能習得に与える影響—建設産業を事例として—」政策研究大学院大学まちづくりプログラム2018年度修士論文
- (3) 坂幸夫（2016）『外国人単純技能労働者の受け入れと実態—技能実習生を中心に—』東信堂
- (4) 助川泰彦・吹原豊（2017）「インドネシア人技能実習生の受け入れと日本語教育」田尻栄三編著『外国人労働者受け入れと日本語教育』ひつじ書房, 111-133

- (5) 中川かず子・神谷順子 (2018) 「北海道におけるベトナム人技能実習生の日本語学習意識と学習環境—多文化共生の視点からの考察—」『開発論集』第102号, 79-98
- (6) 濱田美和・田中信之 (2020) 「外国人労働者向け日本語・日本文化公開講座の試み」『富山大学国際機構紀要』第3号, 11-18
- (7) JITCO (公益財団法人国際人材協力機構) 『講習の日本語指導ガイド』
 < https://www.jitco.or.jp/download/data/nihongo_shido.pdf > (2020年9月9日)

資料1

外国人労働者向け日本語教育に関するアンケート

国立大学法人 富山大学 国際機構

1. 御社についてご記入ください。

①会社名 _____

当てはまる□に✓を入れてください。

- ◆業 種 製造業 サービス業 卸売業、小売業 建設業
宿泊業、飲食サービス業 その他 ()

- ◆従業員数 1000人以上 300～999人 100～299人 50～99人 50人未満

②外国人労働者数 合計 _____人

※外国人労働者数が0人の場合は、アンケートはここで終了です。

外国人労働者数が1人以上の場合は、以下の質問にお答えください。

表に外国人労働者の国別、在留資格別の人数をご記入ください。

◆出身国・地域別内訳

| | |
|---------|---|
| 中国 | 人 |
| ベトナム | 人 |
| フィリピン | 人 |
| ブラジル | 人 |
| ネパール | 人 |
| 韓国 | 人 |
| 台湾 | 人 |
| インドネシア | 人 |
| その他 () | 人 |
| その他 () | 人 |
| その他 () | 人 |

◆在留資格別内訳

| | |
|--------------|---|
| 技能実習 | 人 |
| 技術・人文知識・国際業務 | 人 |
| 技能 | 人 |
| 特定技能 | 人 |
| その他 () | 人 |
| その他 () | 人 |
| その他 () | 人 |

③日本語教育を必要とする外国人労働者数 合計 _____人

外国人労働者向け日本語・日本文化公開講座の試み

濱田 美和
田中 信之

A Trial Japanese Language and Culture Seminar for Foreign Workers

HAMADA Miwa
TANAKA Nobuyuki

要 約

富山大学国際機構では、2020年2月に外国人技能実習生向けの日本語・日本文化講座を試行的に開催した。2時間の講座で、富山大学の学生との会話、日本語教材の紹介、日本文化体験という流れで行った。受講者アンケートの結果から、講座に参加した技能実習生の多くが、動画サイトや学習アプリを利用したり日本語能力試験対策の問題集を使ったりしながら独学で日本語学習を行っていることがわかった。日本語学習の困難点として、先生がいなくて1人で学習する難しさや働きながら学習を継続する難しさに関するコメント、また、日本人との会話の難しさや漢字学習の難しさに関するコメントが多く見られた。本公開講座でよかったものとして7割以上の受講者が日本人学生との交流、留学生との交流、書道、茶道、日本語学習サイト・アプリの紹介、折り紙を選択しており、学生との会話、日本語教材の紹介、日本文化体験、いずれも一定の評価が得られた。

【キーワード】 外国人労働者 技能実習生 公開講座 日本語学習 日本文化体験

1 はじめに

厚生労働省富山労働局の2020年1月31日の発表によると、2019年10月末現在、富山県の外国人労働者数は11,844人、外国人労働者数を雇用する事業所数は1,925か所で、いずれも2007年に届出が義務化されて以来、過去最高を更新している。国別では、ベトナム3,968人(33.5%)と中国2,962人(25.0%)が多く、さらに、対前年伸び率においてもベトナムは27.1%増と最も高く、続いてインドネシア25.3%増となっている。在留資格別では技能実習6,209人(52.4%)が半数以上を占め、対前年伸び率も19.3%増と最も高く、富山県で外国人労働者が増加した要因としても、技能実習制度の活用により技能実習生の受入れが進んでいることが挙げられている。産業別では製造業が5,905人(49.9%)で最多となっている。

厚生労働省2020年1月31日発表の全国平均と比べると、全国においても国別の状況は中国(25.2%)とベトナム(24.2%)が上位2か国、対前年伸び率もベトナム(26.7%増)とインドネシア(23.4%増)が上位2か国となっている。富山県は全国平均よりベトナム人労働者の割合がやや高くなっていることがわかる。全国の在留資格別では技能実習は23.1%となっていて、富山県は技能実習生の占める割合が全国平均の倍以上と非常に高い。また、産業別では全国でも製造業が最多だが、全国では29.1%、富山では49.9%となっていて、製造業での受入れの多さも富山県の特徴として挙げられる。

富山県は全国を上回る速さで少子高齢化が進んでいて、特にものづくり人材の量的な確保の面で厳しい状況にあるとされている。製造業が盛んな富山県において、外国人労働者、特に技能実習生は今後ますます重要な役割を担っていこう。県でも2019年9月に従来の多文化共生推進プランに、「外国人材活躍」の観点を盛り込んだ「富山県外国人材活躍・多文化共生推進プラン」が新たに作成され、外国人が活躍する受入企業への支援も行われるようになってきている。県内の在留外国人が増加する中、大学においても地域の日本語教育への貢献を求める声が上がっている。そこで、富山大学の日本語教育にかかわるリソースをいかに活用できるかを探るため、外国人労働者(技能実習生)向けの日本語・日本文化講座を2020年2月に試行的に開催することにした。本稿では、本公開講座の概要および講座

受講者を対象に行ったアンケート結果を報告する。

2 公開講座の概要

本公開講座は初の試みであるため、受講対象を絞って実施することにした。以下、募集方法、実施内容の順に述べる。

2.1 募集方法

公開講座に先立ち行った富山県内企業 142 社の調査結果（田中・濱田・副島 2021）を基に、日本語能力が初級レベルの技能実習生（以下、実習生）を対象とした公開講座を、2020年2月15日（土）に試行することにした。公開講座の開催場所である富山大学五福キャンパスに近い企業を選び、当日に参加可能かどうか（勤務日でないか、社内行事がないか）を確認した上で、公開講座の案内（実習生の母語で作成）を送付して参加者を募った。事前申込みとし、申込み状況を見ながら会場の手配や資料の作成等の準備を進めた。

2.2 実施内容

2020年2月15日（土）に富山大学五福キャンパス共通教育棟 A22 教室で、表1のスケジュールで行った。

表1 スケジュール

| 時間 | 内 容 |
|-------|-------------------------------|
| 9:30 | 受付開始（留学生が大学正門から実習者を教室まで誘導） |
| 10:00 | 開会、日本語を話そう（日本人学生、留学生との会話） |
| 10:45 | 日本語教材（サイト・アプリ）の紹介 |
| 10:50 | 日本文化体験（茶道、書道、折り紙）、日本語教材（書籍）展示 |
| 11:55 | 受講者アンケート記入 |
| 12:00 | 閉会 |

国際機構の教員 2 人（筆者ら）が講師を務めた。ティーチングアシスタントとして富山大学の日本人学生 6 人および外国人留学生（以下、留学生）7 人（ベトナム 3 人、中国 3 人、インドネシア 2 人）の協力を得た。

富山県内企業 7 社（いずれも製造業）の実習生 27 人（ベトナム 16 人、中国 7 人、インドネシア 4 人）が参加した。

以下、当日のスケジュールの順に実施内容の詳細を述べる。

2.2.1 日本語を話そう

受講者を 6 グループに分けて会話を行った。各グループ、日本人学生がファシリテーター、留学生が必要に応じ通訳してサポートする分担としたが、日本人学生も留学生も会話に参加して、自ら積極的に話すよう指示した。また、受講者の多くは初級レベルの日本語能力を有することから、「やさしい日本語」¹⁾を用いて会話するよう事前指導を行った。教員 1 人が全体のファシリテーターを務め、グループで会話したあと、全体で共有するという流れで、①自己紹介（趣味、自分を動物にたとえると）、②グループ名の決定、③休日に行っていること、④最近楽しかったこと・うれしかったこと、⑤最近嫌だったこと・困ったこと、以上の 5 テーマで会話を行った。

2.2.2 日本語教材紹介

日本語学習に役立つサイト・アプリの情報リスト（ベトナム語版、中国語版、インドネシア語版）

を配布し、リスト中のいくつかのサイトの画面をプロジェクターで映して使い方などを説明した。そして、日本文化体験の時間に日本語教材の展示ブースを設け、日本語の教科書や問題集の展示のほかに、ノートパソコンとタブレット端末を各1台用意して、紹介したサイト・アプリを閲覧できるようにした。

2.2.3 日本文化体験

日本文化体験は教室内に茶道、書道、折り紙の3ブースを設け、受講者は自由に各ブースを訪れ、日本文化を体験するという内容である。茶道ブースでは日本人学生2人、書道ブースでは日本人学生1人と教員1人、折り紙ブースには日本人学生2人が体験講座の講師(茶道や書道教室等で学んだ経験有)を務め、留学生は同国出身の受講生をサポートする形で実施した。

茶道体験は、日本人学生が点てた抹茶を干菓子とともに味わうという内容である。お手前や作法の解説は、日本人学生が話した内容を留学生が適宜通訳して対応した。

書道体験は、まず、受講者各自が書きたい字や言葉を考え、日本人学生に伝える。次に、日本人学生が半紙に書いた手本を見ながら数枚の半紙で書く練習したあと、色紙に清書する。最後に色紙に遊印を押して作品を仕上げるといった内容である。

折り紙体験は、事前に準備した折り紙の作品の中から受講者が好きなものを選んで、その作品の折り図を見ながら自分で折るといった内容である。必要に応じて日本人学生や留学生が折り方の説明をした。

3 受講者アンケート

本公開講座開催の主な目的は、地域の外国人労働者の日本語能力と日本語学習のニーズを把握すること、そして、どのような公開講座が求められているのかを探ることである。そこで、受講者の日本語学習状況および本講公開講座への感想についてのアンケート調査を実施することにした。

3.1 実施方法

公開講座終了時に受講者に調査票を配布し、調査の趣旨を説明し協力を求めたところ、全員から同意が得られたため、その場で記入を依頼し、回収した。

質問内容は、質問1: いつ日本に来たか、質問2: 日本に来る前に何か月日本語を学習したか、質問3: パソコン、スマートフォンを持っているか、質問4: 日本に来てからどのような方法で日本語を学習しているか(①教科書、②パソコン、③スマートフォン、④テレビ、⑤その他、⑥勉強していない、以上の6選択肢から複数回答)、質問5: 日本語学習で困っていること(自由記述)、質問6: 公開講座でよかったもの(①日本人学生との交流、②留学生との交流、③実習生との交流、④日本語教科書の紹介、⑤日本語学習サイト・アプリの紹介、⑥茶道、⑦書道、⑧折り紙、以上の8選択肢から複数回答)とその理由(自由記述)である。以下、順番に結果を述べる。

3.2 分析結果

3.2.1 渡日時期

27人の渡日時期は2017年11月初め～2019年10月初めで、年別の内訳は2017年1人(3.7%)、2018年6人(22.2%)、2019年20人(74.1%)で、渡日して1年未満の実習生が7割以上を占めた。

3.2.2 来日前の日本語学習期間

来日前の日本語学習期間は、最短は3か月、最長は18か月だった。3か月7人(25.9%)、4～6か月10人(37.0%)、7～9か月5人(18.5%)、10～12か月4人(14.8%)、18か月1人(3.7%)で、学習期間半年以下が全体の6割強を占めた。

3.2.3 情報通信機器の保有状況

パソコン、スマートフォンを持っていると回答した人数は、パソコン12人(44.4%)、スマートフォン27人(100%)で、パソコンの保有率は5割を切ったが、スマートフォンは全員が所有していた。

3.2.4 来日後の日本語学習方法

質問4「日本に来てからどのような方法で日本語を学習しているか(選択・複数回答)」で最も多かった回答はスマートフォン20人(74.1%)、次が教科書18人(66.7%)だった。続いて、勉強していない3人(11.1%)、パソコン2人(7.4%)、テレビ番組1人(3.7%)だった(図1)。その他を選択した3人のうち2人はそれぞれ「会社の人と話します」「日本語のボランティアクラスで勉強しています」という回答で、1人は無記入だった。

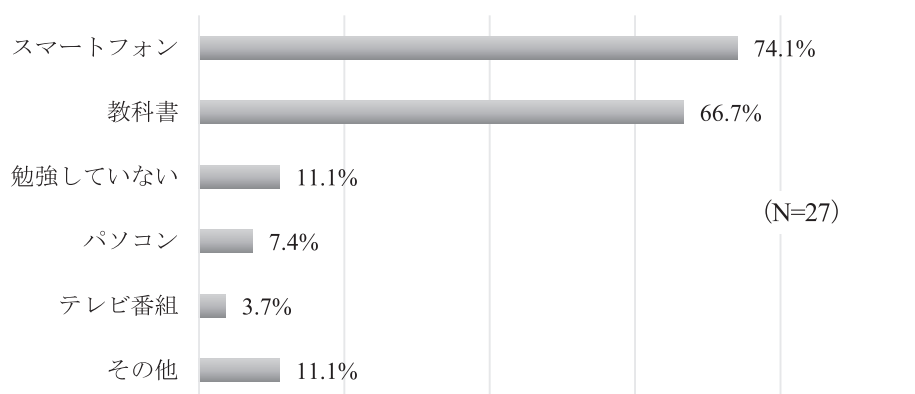


図1 来日後の日本語学習方法(複数回答)

複数選択者が多く、スマートフォンと教科書の両方を選択した人が13人、スマートフォンのみを選択した人が7人、教科書のみを選択した人が3人だった。パソコンを選択した2人はスマートフォンと教科書も選択していて、テレビ番組を選択した1人は教科書も選択していた。

3.2.5 学習リソース

質問4でスマートフォン、パソコンを選択した人にアプリ・サイト名、教科書を選択した人に教科書名、テレビ番組を選択した人にテレビ番組名を、それぞれ自由記述でたずねた。

スマートフォン、パソコンを選択した20人のうち10人がアプリ・サイト名を記載していた。「Mazzi」「YouTube」各3人、「DUNBMORI」「Kanji360」「NHK Easy News」「NHK」「Nihongo Benkyou」「Nihongo-Pro」「VnJPclub」「辞書」各1人だった。「Mazzi」「Kanji360」「VnJPclub」はベトナム人学習者向けの日本語学習アプリ、「DUNBMORI」はベトナム人学習者向け YouTube チャンネル、「Nihongo-Pro」はオンラインプライベートレッスンである。「辞書」はおそらく手書き機能を使っている漢字検索も可能な英和・和英辞書サイトの「jisho」。「Nihongo Benkyou」はNHK WORLD-JAPANが18か国語で提供している日本語学習コンテンツ「やさしい日本語」のインドネシア語版「Belajar Bahasa Jepang」のことだと思われる²⁾。

教科書を選択した18人のうち10人が書名を記載していた。『みんなの日本語初級』(スリーエーネットワーク)5人、『新完全マスター』(スリーエーネットワーク)3人、『日本語総まとめ』(アスク出版)、『耳から覚える日本語能力試験』(アルク)各2人、『新日本語の基礎』(スリーエーネットワーク)、『日本語能力試験N3』³⁾各1人だった。『みんなの日本語初級』と『新日本語の基礎』は初級の総合教科書、

『新完全マスター』と『日本語総まとめ』と『耳から覚える日本語能力試験』は日本語能力試験対策の問題集である。『耳から覚える日本語能力試験』と回答した1人は「N3」と日本語能力試験のレベルも記載していたが、ほかはレベルの記載はなかった。

テレビ番組名については記載がなかった。

3.2.6 日本語学習で困っていること

日本語学習で困っていることについて自由記述でたずねたところ、22人から回答が得られた⁴⁾。22人のコメントを分類すると、学習環境、会話・聴解、漢字学習の大きく3つに分けられる。これをまとめたのが表2である。

学習環境については先生がいなくて1人で学習する難しさ⁵⁾と仕事しながら勉強する難しさ、日本語については日本人との会話や漢字学習の難しさにかかわるコメントが多かった。

表2 日本語学習で困っていること

| | |
|----------------|--|
| 学習環境にかかわるコメント | <ul style="list-style-type: none"> ・ 働く時間が長いから、勉強する時間が少なくなる。ほとんど自分で勉強するので難しい。(ベ) ・ 時間が足りない。1人で勉強するのが難しい。(ベ) ・ 勉強方法がわからない。(ベ) ・ 先生がいなくて、勉強する雰囲気もない。(中) ・ 先生がいない。(中) ・ 難しい。難しい。とても難しい。(中) ・ 勉強する時間がなく、働くのは疲れる。(中) |
| 会話・聴解にかかわるコメント | <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本人と会話*(ベ) ・ 日本人と会話するのが難しい。(ベ) ・ 日本語の会話。(ベ) ・ 発音と会話が難しい。(ベ) ・ 話すのがはずかしい。(ベ) ・ 正しく発音できない。日本語を話すのがはずかしい。(ベ) ・ 聴解が難しい。日本人と話す機会がない。(ベ) ・ 日本語の発音が速くて聞き取れない。覚えられない。(ベ) ・ 相手の方が富山弁で話すから。(イ) |
| 漢字学習にかかわるコメント | <ul style="list-style-type: none"> ・ 漢字の勉強。(ベ) ・ 漢字が書けなくて覚えられない。(ベ) ・ 漢字と語彙と文法が覚えられない。(ベ) ・ kanji*(イ) ・ kanji ga wakaranai*(イ) ・ 漢字と文法が難しい。(イ) |

*を付したコメントは日本語で書かれたもので、それ以外は実習生の母語で書かれたものを日本語に翻訳した。(ベ)はベトナム人実習生、(イ)はインドネシア人実習生、(中)は中国人実習生によるコメントを示す。

出身国別による違いも見られた。表2の学習環境にかかわる7つのコメントはベトナム人実習生3人と中国人実習生4人によるもので、中国人実習生は参加者7人中3人が先生がいなくて1人で学習する難しさに言及していた。会話・聴解にかかわる9つのコメントはベトナム人実習生8人とインドネシア人実習生1人によるもので、日本語で話す難しさに関するコメントはすべてベトナム人実習生によるものだった。漢字学習にかかわる6つのコメントはベトナム人実習生3人とインドネシア人実

習生3人によるもので、インドネシア人実習生は参加者4人中3人が漢字学習の難しさに言及していた。

3.2.7 公開講座でよかったもの

質問6「公開講座でよかったもの（①日本人学生との交流，②留学生との交流，③実習生との交流，④日本語教科書の紹介，⑤日本語学習サイト・アプリの紹介，⑥茶道，⑦書道，⑧折り紙，以上の8選択肢から複数回答）」では回答者全員が複数の項目を選択していた。8項目すべてを選択した人が11人（40.7%），7項目選択3人（11.1%），6項目1人（3.7%），5項目3人（11.1%），4項目5人（18.5%），3項目3人（11.1%），2項目1人（3.7%）だった。

交流に関する項目（①②③），教材紹介に関する項目（④⑤），そして，日本文化体験に関する項目（⑥⑦⑧）の3つに分けて見てみると，回答者27人全員（100%）が日本文化体験に関する項目の中から1項目以上を選択していた。交流に関する項目については26人（96.3%），教材紹介に関する項目については21人（77.8%）が1項目以上を選択していた。

次に，8項目それぞれについて見ていくと，最も評価が高かったのは日本人学生との交流24人（88.9%）だった。2位は留学生との交流23人（85.2%），3位は書道22人（81.5%）で，上位3つは回答者の8割以上が選択していた。続いて，茶道21人（77.8%），日本語学習サイト・アプリの紹介20人（74.1%），折り紙20人（74.1%），実習生との交流16人（59.3%），日本語教科書の紹介15人（55.6%）という結果だった（図2）。

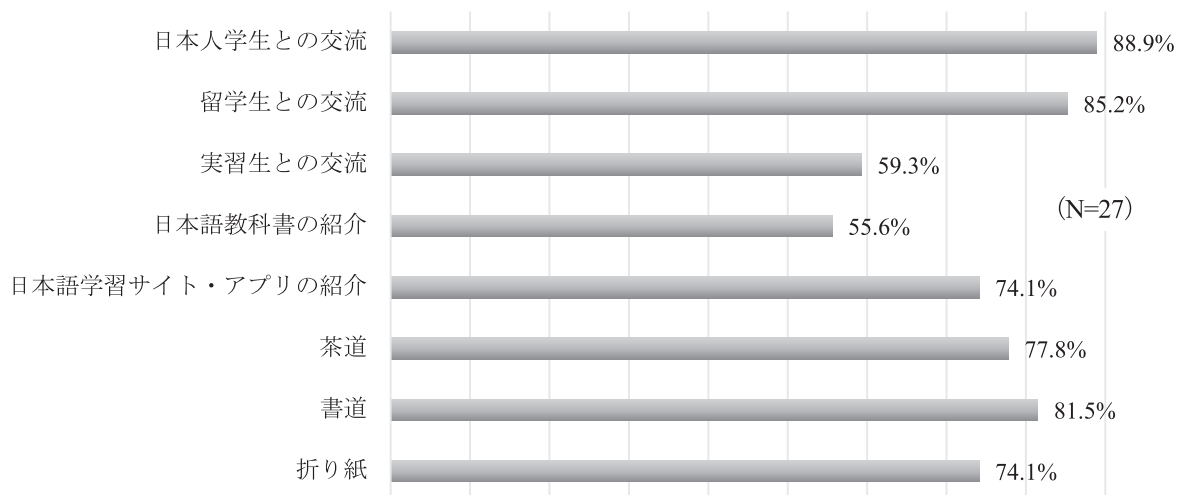


図2 公開講座でよかったもの（複数回答）

出身国別による違いも見られた。まず，日本人学生との交流，留学生との交流，実習生との交流の3つを取り出し比較すると，ベトナム人実習生は日本人学生との交流（93.8%）>留学生との交流（81.3%）>実習生との交流（68.8%），中国人実習生は日本人学生との交流（85.7%），留学生との交流（85.7%）>実習生との交流（42.9%），インドネシア人実習生は留学生との交流（100%）>日本人学生との交流（75.0%）>実習生との交流（50.0%）だった。ベトナム人実習生は日本人学生との交流，インドネシア人実習生は留学生との交流を最も高く評価していた。

日本文化体験については，ベトナム人実習生は茶道（93.8%）>書道（87.5%）>折り紙（81.3%），中国人実習生は書道（71.4%）>折り紙（57.1%）>茶道（28.6%），インドネシア人実習生は茶道（100%）>書道（75.0%），折り紙（75.0%）で，ベトナム人実習生とインドネシア人実習生は茶道，中国人実習

生は書道を最も高く評価していた。また、中国人実習生は上述の交流の評価と比べ、日本文化体験の評価は全体的に低く、特に茶道が低かった。

日本語学習教材の紹介については、ベトナム人実習生はサイト・アプリの紹介（81.3%）>教科書の紹介（56.3%）、中国人実習生はサイト・アプリの紹介（42.9%）、教科書の紹介（42.9%）、インドネシア人実習生はサイト・アプリの紹介（100%）>教科書の紹介（75.0%）で、ベトナム人実習生とインドネシア人実習生はサイト・アプリの紹介の評価が高いが、中国人実習生はサイト・アプリの紹介と教科書の紹介の評価に違いは見られず、いずれもほかの国の実習生と比べて低かった。

3.2.8 よかった理由

質問6「公開講座でよかったもの（選択・複数回答）」について、よかった理由を自由記述でたずねたところ、12人から回答が得られた。*を付したコメントは日本語で書かれたもので、それ以外は実習生の母語で書かれたものを日本語に翻訳した。

- ・このような講座をもっと開いてほしい。または、サークルがあったらいい。
- ・たのしかった*
- ・おもしろかった。
- ・日本人学生や留学生の日常生活がさらに理解できた。
- ・みんなと交流できて、日本についてたくさん勉強できました。
- ・みんなさんとはとてもしんせつだし ねっしんです*
- ・みんな親切です*
- ・留学生の態度がよかった。
- ・みんなと交流できて、日本の文化をたくさん勉強できました。
- ・日本人学生の態度が友好的でよかった。留学生も配慮してくれて、書道が楽しかった。
- ・日本の文化を紹介してくれたから。
- ・とてもいい講座で、いい一日でした。みんな親切で、やさしくて、日本語学習サイトがたくさんわかりました。

上述の通り質問6では全員が複数の項目を選択していたことから、特定の項目についてのコメントというよりも、公開講座全体に対するコメントや日本人学生と留学生の親しみやすい態度を評価するコメントが多かった。

3.3 まとめ

本公開講座は、初級レベルの日本語力を有する実習生を対象として行ったこともあり、今回の受講者アンケートから富山の实習生の全体的傾向を把握することはできないが、来日前の日本語学習期間は1年以下、6割強が半年以下で、来日後は大半が独学でスマートフォンや教科書で日本語学習を行っていることがわかった。スマートフォンでは「YouTube」と「Mazzi」（ベトナム人学習者向けの日本語学習アプリ）、教科書は『みんなの日本語初級』と日本語能力試験対策の問題集を使っている実習生が複数見られた。中川・神谷（2018）による農場で働くベトナム人実習生6人への聞き取り調査でも「今回の聞き取り調査で興味深かったのは、実習生の口から常にN3、N2など日本語能力試験の目標が出てきたことである。（中略）日本語能力試験N2、N1等中上級レベルの受験のため、＜漢字や文章読解を学習できる教材がほしい＞（実習生全員）との声もあった」（p.93）とあり、富山でも日本語能力試験合格を目指す実習生が一定数いると思われる。

日本語学習で困っていることとして、学習環境については1人で学習する難しさや仕事しながら継

続する難しさ、日本語については日本人との会話の難しさや漢字学習の難しさにかかわるコメントが多く見られた。

公開講座でよかったものとしては、日本文化体験については27人全員(100%)、日本人学生、留学生との交流については26人(96.3%)、日本語学習教材の紹介については21人(77.8%)が選択していた。公開講座の前半にグループに分かれて、日本語で会話しながら初対面の緊張感をほぐしたあと、後半の日本文化体験で日本人学生が講師、留学生がアシスタントを務め、実習生とともに文化体験を行う中で、さらに距離を縮めることができたのではないと思われる。日本語学習教材の紹介についてはほかと比べると評価が低かったが、今回の調査で日本語能力試験に関心を持つ実習生や、漢字学習に困難を感じる実習生がいることがわかったので、内容について再検討したい。

4 おわりに

本公開講座の実施により、大学で実習生の日本語学習を支援するための手かがりを見出すことができた。日本人大学生や留学生との交流を通じて、実習生に日本語で話す場を提供するという方法は、富山大学の学生にとっても実習生を通じて在留外国人や地域社会のことを知るいい機会だと思われる。アンケート調査の結果、日本語能力試験合格を目指す実習生がいることもわかったため、そのような実習生にどのような支援が可能かを検討していきたい。

付記 本公開講座は、富山大学令和元年度学長裁量経費(教育研究活性化等経費)「日本語教育推進法成立(6.21)を受けての、地域・外国人労働者むけ日本語公開講座の需要調査と試行」の助成を受けて開催した。

注

- 1) 「やさしい日本語」とは、外国人にわかりやすいように配慮した日本語のことである。最初は災害時のことばとして考案され(佐藤(1996))、その後、災害時以外でも「やさしい日本語」が注目されるようになった。出入国在留管理庁・文化庁が2020年8月に発表した「在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン」では、「やさしい日本語は、難しい言葉を言い換えるなど、相手に配慮したわかりやすい日本語のことです。日本語の持つ美しさや豊かさを軽視するものではなく、外国人、高齢者や障害のある人など、多くの人に日本語を使ってわかりやすく伝えようとするものです」とあり、対象を外国人以外にも広げて普及が進められている。
- 2) 助川・吹原(2017)でインドネシア人技能実習生への聞き取り調査をもとに、NHKが作成した日本語学習アプリ「Belajar Bahasa Jepang」(日本語の勉強)がインドネシア語によるFAQもあって使いやすいと評判であること、そしてこのアプリが茨城県大洗町における日本語研修で教材として使用されていることが紹介されている。漢字の辞書についても「Kanji Lookup」という手書き文字認識と英語訳機能のあるアプリが人気があると報告されていることから、「jisho」は「Kanji Lookup」を指す可能性もある。
- 3) 日本語能力試験N3の問題集のことだと思われる。
- 4) ほかの5人は、無記入3人、「今はない」1人、「天気」1人だった。「天気」はおそらく富山の生活において困っていると読み違えて書いたものと思われるため、分析の対象から外した。
- 5) 荒島・吉川(2019)では、技能実習生が受け入れ企業に配属されたあとの日本語学習は義務づけられていないため、入国後の講習で積極的に自律学習を取り入れたり、受け入れ企業に日本語学習の必要性を理解してもらい、eラーニング導入を勧めるなどして、実習生が自律的継続的に日本語学習に取り組めるように改善していく必要性について指摘されている。

参考文献

- (1) 荒島和子・吉川夏渚子（2019）「外国人技能実習制度における監理団体での日本語教育の役割—ある監理団体へのインタビューをもとに—」『日本語・日本文化研究』29, pp.139-156
- (2) 厚生労働省発表 令和2年1月31日「『外国人雇用状況』の届出状況【概要版】（令和元年10月末現在）」
<https://www.mhlw.go.jp/content/11655000/000590309.pdf>（2020年10月28日最終閲覧）
- (3) 厚生労働省 富山労働局発表 令和2年1月31日「富山県における外国人雇用状況の届出状況（令和元年10月末現在）」
<https://jsite.mhlw.go.jp/toyama-roudoukyoku/content/contents/000593169.pdf>（2020年10月28日最終閲覧）
- (4) 佐藤和之（1996）「外国人のための災害時のことば Easy Japanese の提唱とラジオの効用」『言語』第25巻第2号, pp.94-101
- (5) 出入国在留管理庁・文化庁（2020）「在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン」
<http://www.moj.go.jp/content/001327230.pdf>（2020年10月28日最終閲覧）
- (6) 助川康彦・吹原豊（2017）「インドネシア人技能実習生の受け入れと日本語教育」, 田尻英三編『外国人労働者受け入れと日本語教育』ひつじ書房, pp.111-133
- (7) 田中信之・濱田美和・副島健治（2021）「富山県における外国人労働者を対象とした日本語教育の調査」『富山大学国際機構紀要』第3号, pp.1-10
- (8) 富山県 平成31年3月策定「新・富山県ものづくり産業未来戦略 第2章 最近のものづくり産業を取り巻く環境と本県ものづくり産業の強み」
http://www.pref.toyama.jp/cms_pfile/00020241/01230140.pdf（2020年10月28日最終閲覧）
- (9) 富山県ホームページ>多文化共生の地域づくり http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1018/kj00013994-002-01.html（2020年10月28日最終閲覧）
- (10) 中川かず子・神谷順子（2018）「北海道におけるベトナム人技能実習生の日本語学習意識と学習環境—多文化共生の視点からの考察—」『開発論集』第102号, pp.79-98

遠隔日本語クラスにおける Moodle を用いたオンライン定期試験

濱田 美和

Online Examinations for Remote Japanese Language Classes Using Moodle

HAMADA Miwa

要 約

本稿は、中・上級「漢字」および上級「文法」の授業において実施した Moodle を用いたオンライン定期試験についての報告である。文法、語彙、漢字といった知識を問う試験は、教科書や辞書で調べるとすぐに答えを探ることができることから、遠隔での試験実施の場合、試験の公平性を保つにはさまざまな工夫が必要となる。そこで、Moodle の解答時間の制限機能やランダム問題表示を活用したり、文字データを用いずに画像で表示したり、出題内容を辞書等で調べるだけでは答えにくいものに変更したりするなどの対応を取って実施したところ、従来の教室での用紙配布による定期試験と受験者の得点分布について明らかな差は見られなかった。受験者からは試験時間が短かったという声やインターネットの接続状況があまりよくなかったという声も聞かれたが、全体的には支障なく実施できた。

【キーワード】 遠隔授業 定期試験 Moodle 漢字 文法

1 はじめに

新型コロナウイルス感染拡大により、2020 年度前学期の富山大学の授業は 4 月下旬に遠隔で開始した。国際機構の日本語プログラムについても全科目、Web 会議システム Zoom を用いて同時配信で遠隔授業を実施した。授業資料の配布や課題の回収等は、富山大学では LMS (Learning Management System, 学習管理システム) として Moodle が導入されていることから、日本語プログラムの全科目で Moodle コースを開設して対応した。国際機構の日本語プログラムは、初級、中級、上級、3 つのレベル別クラスを設けている。受講対象は全学の外国人留学生と外国人研究者であるが、中級、上級クラスの科目については日本語・日本文化研修留学生 (以下、日研生) および交流協定校からの短期留学生に対して成績評価を行う総合日本語コースとして提供している。そのほかの受講者は日本語課外補講としての受講で、成績評価は行わない¹⁾。総合日本語コースの成績評価方法は科目によって異なるが、筆者の担当する中級クラス「漢字 B1」と上級クラス「漢字 C1」「文法 C1a」「文法 C1b」の授業は定期試験の結果に比重を置いて成績評価を行っている。学期末試験を行う 7 月下旬から 8 月中旬には学生の入構も可能となっていたが、帰国便の関係で早期に帰国して自国から受講を継続する学生もいたことから、対面での試験実施は困難であると考え、Moodle の小テスト機能を用いた定期試験実施を試みた。遠隔での試験実施の場合、学生の不正行為を防止するための対策が必要となる。語学の試験において、文法、語彙、漢字といった知識を問う問題については、教科書や辞書で調べるとすぐに答えを探せることから、試験の公平性を保つにはさまざまな工夫が必要となる。本稿では、「漢字 B1」「漢字 C1」「文法 C1a」「文法 C1b」の 4 つの Moodle 定期試験の内容および試験作成において留意した点を述べたあと、遠隔でのオンライン定期試験の実施結果を報告する²⁾。

2 授業の概要

2020 年度前期の中級クラス「漢字 B1」と上級クラス「漢字 C1」「文法 C1a」「文法 C1b」の授業の

概要を表1に示す。いずれも1回90分×15週の授業で、教科書を用いた。毎回の授業では、Zoomで1時間前後教師が説明しながら導入・練習を行ったあと、教師が用意した資料(PDF, プレゼンスライド)を見ながら各自で教科書を用いて学習を進め、Moodleで課題を提出するという流れで行った。課題のフィードバックは学生個人へは主にMoodleのフィードバック機能を用いて行い、クラス全体で共有したほうがよいものは翌週にZoomで説明を行った。また、毎回の授業のはじめには前回の学習内容確認のために、Moodleで小テストを実施した。課題の提出状況は成績評価の対象としたが、小テストは評価の対象としなかった。定期試験は、「漢字B1」「文法C1a」「文法C1b」では学期半ばの第7～8週に中間試験、第14～15週に期末試験、2つの定期試験を実施したが、「漢字C1」では期末試験のみを実施した。

表1 2020年度前期授業の概要

| | |
|--------|---|
| 漢字 B1 | <p>【教科書】『INTERMEDIATE KANJI BOOK 漢字1000PLUS』Vol.1 (凡人社)</p> <p>【授業進度】毎週1課のペースで進め、教科書のすべての課を終了</p> <p>【定期試験】中間試験(第8週に実施) および期末試験(第15週に実施) 中間試験の範囲:教科書の第1課～第5課と復習1 期末試験の範囲:教科書の第6課～第10課と復習2</p> <p>【受講者】3人(出身国:ベトナム2人, タイ1人) (在籍身分:大学院生3人)</p> <p>【受験状況】中間試験は全員受験, 期末試験は2人受験</p> |
| 漢字 C1 | <p>【教科書】『使う順と連想マップで学ぶ漢字&語彙 日本語能力試験N1』(国書刊行会)</p> <p>【授業進度】毎週1ユニットのペースで進め、教科書(全6項目)の5項目を終了</p> <p>【定期試験】期末試験のみ(第15週に実施) 期末試験の範囲:教科書の項目1 自然・生物～項目5 経済・社会</p> <p>【受講者】11人(出身国:ブラジル3人, 中国, ロシア各2人, インドネシア, トルコ, チェコ, ベトナム各1人) (在籍身分:日研究生6人, 短期留学生3人, 研究生, 科目等履修生各1人)</p> <p>【受験状況】全員受験</p> |
| 文法 C1a | <p>【教科書】『TRY! 日本語能力試験N2 文法から伸ばす日本語 改訂版』(アスク出版)</p> <p>【授業進度】毎週1～2章のペースで進め、教科書のすべての課を終了</p> <p>【定期試験】中間試験(第7週に実施) および期末試験(第14週に実施) 中間試験の範囲:教科書の1章～7章 期末試験の範囲:教科書の8章～14章</p> <p>【受講者】7人(出身国:ベトナム, ロシア各2人, タイ, チェコ, 中国各1人) (在籍身分:短期留学生, 日研究生各3人, 大学院生, 科目等履修生各1人)</p> <p>【受験状況】中間試験は全員受験, 期末試験は6人受験</p> |
| 文法 C1b | <p>【教科書】『TRY! 日本語能力試験N1 文法から伸ばす日本語 改訂版』(アスク出版)</p> <p>【授業進度】毎週1章のペースで進め、教科書のすべての課を終了</p> <p>【定期試験】中間試験(第8週に実施) および期末試験(第14週に実施) 中間試験の範囲:教科書の1章～5章 期末試験の範囲:教科書の6章～10章</p> <p>【受講者】13人(出身国:中国5人, ブラジル3人, ベトナム2人, トルコ, チェコ, ロシア各1人) (在籍身分:短期留学生7人, 日研究生5人, 研究生1人)</p> <p>【受験状況】全員受験</p> |

3 Moodle の問題タイプ

定期試験では、Moodleの問題タイプのうち、表2に挙げた6つを使用した。作文問題以外は、採点は自動で行われる。

表2 定期試験で使用した Moodle の問題タイプ

| | | |
|-----|---------------|---|
| 選択式 | 多肢選択問題 | 複数の選択肢から答えを選ぶ。単一解答、複数解答どちらのタイプの問題も作成できる。 |
| | ミッシングワード選択 | ドロップダウンメニューで問題文の空所に当てはまる語句を選ぶ。 |
| | ドラッグ&ドロップテキスト | 問題文の空所に当てはまる文字や言葉を、答えのリストの中からドラッグ&ドロップで挿入する。 |
| | 組み合わせ問題 | 問題のリストと答えのリストが表示され、それぞれの問題に対する答えを一致させる。 |
| 入力式 | 記述問題 | 問題に対する答え（語句）を入力する。正解が複数ある場合、それぞれの答えに対して異なる評点を与えることができる。 |
| | 作文問題 | 与えられた課題に対して作文形式の答えを入力する。採点は手動で行う。 |

4 定期試験の内容

2020年度前期の中級クラス「漢字 B1」と上級クラス「漢字 C1」「文法 C1a」「文法 C1b」の定期試験(100点満点)の内容を表3～9に示す。いずれの試験も授業中に学習した内容を問うものであり、「文法 C1a」「文法 C1b」の Q7 の作文問題以外は、試験中に教科書や辞書の使用は認めなかった。

表3 2020年度前期中級クラス「漢字 B1」の中間試験（40分）の内容

| | 問題の内容 | Moodle の問題タイプ | 点数と問題数 | 表示方法 | 制限時間 |
|----|-------------|---------------|--------|------|------|
| Q1 | 漢字の読みを書く | 記述 | 1点×20問 | 1問ずつ | 6分 |
| Q2 | 同じ仲間の漢字を選ぶ | ドラッグ&ドロップ | 1点×12問 | 全問同時 | 4分 |
| Q3 | 漢字語の品詞を選ぶ | 多肢選択 (2択) | 1点×8問 | 1問ずつ | 3分 |
| Q4 | 対語を選ぶ | 多肢選択 (5択) | 1点×10問 | 1問ずつ | 3分 |
| Q5 | 文意に合う漢字語を選ぶ | ミッシングワード (3択) | 1点×12問 | 1問ずつ | 4分 |
| Q6 | 漢字を選んで熟語を作る | ドラッグ&ドロップ | 1点×8問 | 全問同時 | 3分 |
| Q7 | 文中の漢字語の形を選ぶ | ミッシングワード (3択) | 1点×10問 | 1問ずつ | 3分 |
| Q8 | 読みに合う漢字語を選ぶ | 多肢選択 (4択) | 1点×10問 | 1問ずつ | 3分 |

*Q5は類義語に関する問題、Q6は造語性の高い漢字に関する問題。

表4 2020年度前期中級クラス「漢字 B1」の期末試験（45分）の内容

| | 問題の内容 | Moodle の問題タイプ | 点数と問題数 | 表示方法 | 制限時間 |
|----|--------------|---------------|--------|------|------|
| Q1 | 漢字の読みを書く | 記述 | 1点×20問 | 1問ずつ | 6分 |
| Q2 | 漢字を選んで熟語を作る | ドラッグ&ドロップ | 1点×12問 | 全問同時 | 6分 |
| Q3 | 対語を書く | 記述 | 1点×10問 | 1問ずつ | 6分 |
| Q4 | 漢字を選んで熟語を作る | ドラッグ&ドロップ | 1点×12問 | 全問同時 | 5分 |
| Q5 | 漢字を選んで熟語を作る | ドラッグ&ドロップ | 1点×10問 | 全問同時 | 4分 |
| Q6 | 文中の漢字語の助詞を選ぶ | ミッシングワード (3択) | 1点×10問 | 2問ずつ | 3分 |
| Q7 | 文意に合う漢字語を選ぶ | ミッシングワード (2択) | 1点×15問 | 1問ずつ | 5分 |

*Q4は接辞的用法を持つ漢字、Q5は副詞的に使われる漢字、Q7は類義語に関する問題。

表5 2020年度前期上級クラス「漢字C1」の期末試験（40分）の内容

| | 問題の内容 | Moodleの問題タイプ | 点数と問題数 | 表示方法 | 制限時間 |
|----|--------------|--------------|--------|------|------|
| Q1 | 同音の漢字語を選ぶ | 多肢選択（3択） | 1点×20問 | 1問ずつ | 8分 |
| Q2 | 漢字の読みを書く | 記述 | 1点×10問 | 1問ずつ | 4分 |
| Q3 | 文意に合う漢字語を選ぶ | ミッシングワード（4択） | 1点×15問 | 1問ずつ | 6分 |
| Q4 | 文意に合う漢字語を選ぶ | ドラッグ&ドロップ | 1点×15問 | 5問ずつ | 6分 |
| Q5 | 漢字を選んで複合語を作る | ドラッグ&ドロップ | 1点×15問 | 5問ずつ | 6分 |
| Q6 | 漢字を選んで対語を作る | ドラッグ&ドロップ | 1点×10問 | 5問ずつ | 4分 |
| Q7 | 文中の漢字語の形を選ぶ | 多肢選択（4択） | 1点×15問 | 1問ずつ | 10分 |

*Q3は同音異義語、Q4は慣用句に関する問題。

「漢字」の試験問題はすべて決まった正答があり、Moodleで自動採点できる内容である。漢字を書く問題については、「漢字B1」の中間、期末試験ではZoomのホワイトボード機能を用いて別々に実施した。Moodleの試験結果に書きテストの結果を加えて100点満点となる。「漢字C1」では漢字の書きテストは行わなかった。

表6 2020年度前期上級クラス「文法C1a」の中間試験（60分）の内容

| | 問題の内容 | Moodleの問題タイプ | 点数と問題数 | 表示方法 | 制限時間 |
|----|----------------|--------------|---------------|------|------|
| Q1 | 文意に合う表現を選ぶ | 多肢選択（4択） | 1点×20問 | 1問ずつ | 7分 |
| Q2 | 語句を並べ替えて文を作る | ドラッグ&ドロップ | 1点×12問 | 1問ずつ | 6分 |
| Q3 | 前後を組み合わせて文を作る | 組み合わせ | 1点×10問 | 5問ずつ | 4分 |
| Q4 | 文意に合う表現を選ぶ | 多肢選択（2択） | 1点×20問 | 1問ずつ | 7分 |
| Q5 | 動詞等の形を変えて文を作る | 記述 | 1点×15問 | 1問ずつ | 7分 |
| Q6 | 文章中に入る表現を選ぶ | ドラッグ&ドロップ | 1点×13問 | 文章ごと | 6分 |
| Q7 | 5つの表現を用いて文章を作る | 作文 | 10点（1表現につき2点） | | 15分 |

* Q6は3つの文章（各文章4～5の空所）を用意。

表7 2020年度前期上級クラス「文法C1a」の期末試験（60分）の内容

| | 問題の内容 | Moodleの問題タイプ | 点数と問題数 | 表示方法 | 制限時間 |
|----|----------------|--------------|---------------|------|------|
| Q1 | 文意に合う表現を選ぶ | ミッシングワード（4択） | 1点×20問 | 1問ずつ | 7分 |
| Q2 | 語句を並べ替えて文を作る | ドラッグ&ドロップ | 1点×14問 | 1問ずつ | 7分 |
| Q3 | 前後を組み合わせて文を作る | 組み合わせ | 1点×10問 | 5問ずつ | 4分 |
| Q4 | 文意に合う表現を選ぶ | ミッシングワード（2択） | 1点×20問 | 1問ずつ | 7分 |
| Q5 | 動詞等の形を変えて文を作る | 記述 | 1点×15問 | 1問ずつ | 7分 |
| Q6 | 文章中に入る表現を選ぶ | ドラッグ&ドロップ | 1点×11問 | 文章ごと | 6分 |
| Q7 | 5つの表現を用いて文章を作る | 作文 | 10点（1表現につき2点） | | 15分 |

* Q6は2つの文章（各文章5～6の空所）を用意。

表 8 2020 年度前期上級クラス「文法 C1b」の中間試験（60 分）の内容

| | 問題の内容 | Moodle の問題タイプ | 点数と問題数 | 表示方法 | 制限時間 |
|----|-----------------|---------------|-------------------|-------|------|
| Q1 | 文意に合う表現を選ぶ | ミッシングワード（4 択） | 1 点× 20 問 | 1 問ずつ | 7 分 |
| Q2 | 語句を並べ替えて文を作る | ドラッグ&ドロップ | 1 点× 10 問 | 1 問ずつ | 5 分 |
| Q3 | 文の意味を選ぶ | 多肢選択（2 択） | 1 点× 5 問 | 1 問ずつ | 3 分 |
| Q4 | 文意に合う表現を選ぶ | ミッシングワード（2 択） | 1 点× 20 問 | 1 問ずつ | 7 分 |
| Q5 | 動詞等の形を変えて文を作る | 記述 | 1 点× 12 問 | 1 問ずつ | 6 分 |
| Q6 | 文章中に入る表現を選ぶ | ドラッグ&ドロップ | 1 点× 15 問 | 文章ごと | 8 分 |
| Q7 | 9つの表現を用いて会話文を作る | 作文 | 18 点（1 表現につき 2 点） | | 20 分 |

* Q6 は 3 つの文章（各文章 5 つの空所）を用意。

表 9 2020 年度前期上級クラス「文法 C1b」の期末試験（60 分）の内容

| | 問題の内容 | Moodle の問題タイプ | 点数と問題数 | 表示方法 | 制限時間 |
|----|-----------------|---------------|-------------------|-------|------|
| Q1 | 文意に合う表現を選ぶ | ミッシングワード（4 択） | 1 点× 17 問 | 1 問ずつ | 6 分 |
| Q2 | 語句を並べ替えて文を作る | ドラッグ&ドロップ | 1 点× 10 問 | 1 問ずつ | 5 分 |
| Q3 | 文の意味を選ぶ | 多肢選択（2 択） | 1 点× 8 問 | 1 問ずつ | 3 分 |
| Q4 | 文意に合う表現を選ぶ | ミッシングワード（2 択） | 1 点× 17 問 | 1 問ずつ | 6 分 |
| Q5 | 動詞等の形を変えて文を作る | 記述 | 1 点× 15 問 | 1 問ずつ | 7 分 |
| Q6 | 文章中に入る表現を選ぶ | ドラッグ&ドロップ | 1 点× 15 問 | 文章ごと | 8 分 |
| Q7 | 9つの表現を用いて会話文を作る | 作文 | 18 点（1 表現につき 2 点） | | 20 分 |

* Q6 は 3 つの文章（各文章 5 つの空所）を用意。

「文法」の試験問題はいずれも Q1～Q6 の問題は決まった正答があり、Moodle で自動採点できる内容である。Q7 は自由記述の作文問題で、試験終了後に教師が採点し、手動で点数を入力する。Q7 については、決まった正答がないため、教科書や辞書で調べたりインターネットで検索したりして解答することを許可した。

5 定期試験の作成にあたって留意した点

定期試験の作成にあたっては次の 7 点に留意した。第 4 点目以降は不正行為防止のための対策である。

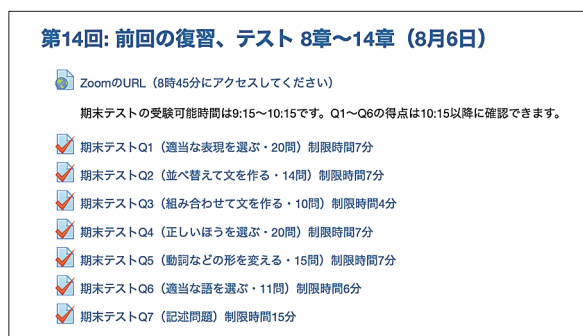


図 1 定期試験のトップ画面（文法 C1a）

第1に、試験の信頼性を確保するため、特に選択式の場合は出題数を増やすことが必要とされている。そのため、「文法 C1a」「文法 C1b」の Q7 の作文以外はすべて1問1点として、問題数を多くするよう心掛けた。

第2に、問題数を多くするには、1問あたりの解答時間を短くする必要がある。そこで、問題全体の3分の2以上を選択式、入力式は3分の1以下として、学生が短時間で解答しやすいよう選択式を多く取り入れた。そして、入力式の問題についても答えは文字数が少なく、短時間で入力できるように配慮した。

第3に、学生がはじめに各項目の問題内容など試験の全体を把握しやすいように、図1のように試験のトップ画面に問題の内容と解答時間を表示した。

第4に、項目ごとに細かく解答時間に制限を設けた。解答時間の設定は、毎回の授業で行った小テストにおいて、学生が解答にかけている時間を参考にして行った。細かく時間設定を行うことにより、学生は自分の得意な問題は早く終わらせて、残った時間に苦手な問題を教科書や辞書で調べて解答するといった不正行為を行いにくなる。

第5に、1度に画面に表示する問題数をできるだけ少なくし、項目内の問題はシャッフル機能を用いてランダムに提示されるよう設定した。そして1度解答したら前の問題には戻れないようにした。これにより、学生同士で相談して解答するといった不正行為を行いにくなる。

第6に、漢字の読みや語の意味を問う問題については、ポップアップ辞書（Web ページ上の語にマウスポインタを合わせると漢字の読みや語の意味が表示される機能）を利用したり、問題文や選択肢のテキスト（文字データ）をコピー＆ペーストして辞書で検索したりルビ機能を用いて漢字にふりがなを振るなどすると、短時間でも読みや意味が調べられる。そこで、文中の漢字語の読みや意味を問う問題を選択式で作成する際は、Moodle の問題タイプでミッシングワードを用いるようにした（図2）。多肢選択で問題を作ると、選択肢の語をコピー＆ペーストしたりマウスオーバーしたりしてすぐに調べられるが、ミッシングワードはドロップダウンメニューで選択肢が表示されるため、これらの機能が使いにくくなる。そして、多肢選択で問題を作る場合は、問題文や選択肢で取り上げる語をテキストではなく画像で表示して対応した（図3）。

第7に、作文問題については、対面実施の試験では1表現につき1つ短文を作る、あるいは前後の文脈に合わせ文を完成するといった出題を行っていたが、これらは短時間で例文をインターネットで検索できるため、オンライン試験には適していない。そこで、N2 レベルの「文法 C2a」では指定された5つの表現を用いて文章を作る問題、N1 レベルの「文法 C2b」では指定された9つの表現を用いて会話文を作る問題とし、出題の際にそれぞれ文章全体、会話文全体としてまとまりがある場合に加点することを明記した（図4）。そして、定期試験実施の際に、作文問題については辞書の使用やインターネットでの検索を許可した。

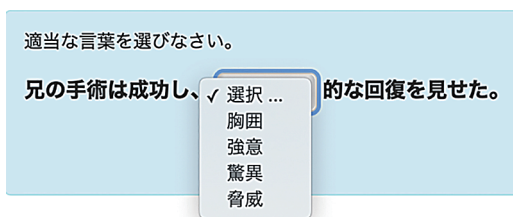


図2 ミッシングワード選択で作成した問題（漢字 C1）

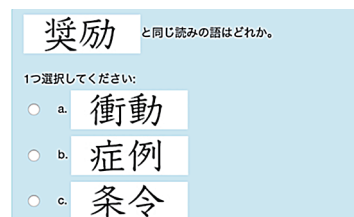


図3 多肢選択で作成した問題（漢字 C1）

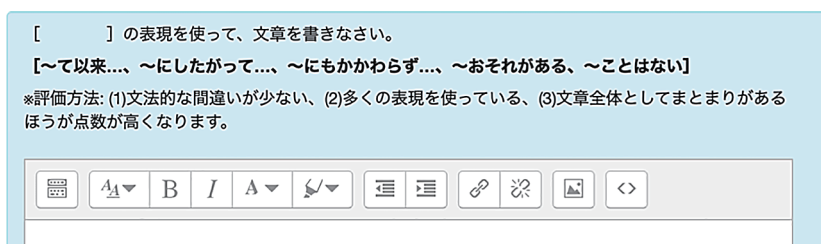


図4 作文問題（文法 C1a）

6 定期試験の実施結果

定期試験は開始時刻と終了時刻を設定し、全員が同時間帯に受験するようにした。問題発生時に対応しやすいように各項目の制限時間の合計より少し長めに試験時間を設定した。そして、学生が定期試験までに操作に慣れるよう、通常の授業においても Moodle のさまざまな問題タイプを用いて小テストを実施して備えた。

試験当日は、まず通常の授業と同じように授業開始時刻に Zoom で自宅にいる学生と接続し、前回の授業内容の復習をしたり質問を受けたりしたあと、定期試験について説明し、試験の開始時刻前に Zoom の接続を切るよう指示した。Zoom はデータ通信量が多く、通信トラブルが起きやすくなるためである。試験中問題が生じた場合は、Zoom に接続するか Moodle でメッセージを送るなどして連絡するように試験開始前に伝え、学生が受験している間は Moodle で表示される学生ひとりひとりの進行状況を確認した。「漢字 B1」の中間試験実施中に 1 人の学生から Q1 の終了後に Q2 にうまく進めないと Zoom で連絡があったが、学生の操作ミスによるものだったようですぐに解決できた。これ以外は支障なく実施できた。

定期試験の得点分布を表 10 に示す。いずれの科目も、例年の対面実施の試験結果と比べて大きな差は見られなかった³⁾。

表 10 定期試験（100 点満点）の得点分布

| | | 59 点以下 | 60 点台 | 70 点台 | 80 点台 | 90 点台 | 計 |
|--------|------|--------|-------|-------|-------|-------|------|
| 漢字 B1 | 中間試験 | | | 2 人 | 1 人 | | 3 人 |
| | 期末試験 | | 1 人 | | 1 人 | | 2 人 |
| 漢字 C1 | 期末試験 | 1 人 | 2 人 | 2 人 | 3 人 | 3 人 | 11 人 |
| 文法 Cla | 中間試験 | 1 人 | 2 人 | 1 人 | 1 人 | 2 人 | 7 人 |
| | 期末試験 | 1 人 | 1 人 | 1 人 | 2 人 | 1 人 | 6 人 |
| 文法 Clb | 中間試験 | | 4 人 | 6 人 | 3 人 | | 13 人 |
| | 期末試験 | | 3 人 | 4 人 | 6 人 | | 13 人 |

各項目の制限時間の設定が適切だったかを検討するために、受験者が解答に要した時間の平均および解答時間切れとなった受験者数、そして、解答時間切れの受験者が何問未記入となっていたかを表 11～17 にまとめた⁴⁾。たとえば表 12 の Q3 は、終了時間が来るまで試験問題に取り組んだ学生が 2 人いて、うち 1 人は未解答問題数 0、すなわち全問解答を終えていたことを、もう 1 人は 4 問未解答の問題があったことを表す。未解答問題数が 0 の場合は時間不足ではなく、解答後に時間をかけて見直しをしていた可能性もある。未解答問題数が 1 以上の場合、時間不足で未解答となったのか、答えがわからずに未解答だったかの判別はできないが、特に選択式の問題については時間不足で未解答になった可能性が高いと思われる。

表 11 「漢字 B1」 中間試験受験者の解答時間

| | 制限時間 | 平均解答時間 | 時間切れ | 未解答問題数 |
|----|------|----------|------|--------|
| Q1 | 6 分 | 3 分 14 秒 | 0 人 | - |
| Q2 | 4 分 | 3 分 23 秒 | 1 人 | 0 |
| Q3 | 3 分 | 1 分 00 秒 | 0 人 | - |
| Q4 | 3 分 | 2 分 28 秒 | 0 人 | - |
| Q5 | 4 分 | 3 分 13 秒 | 1 人 | 0 |
| Q6 | 3 分 | 2 分 45 秒 | 2 人 | 0, 0 |
| Q7 | 3 分 | 2 分 47 秒 | 1 人 | 0 |
| Q8 | 3 分 | 2 分 47 秒 | 1 人 | 0 |

表 12 「漢字 B1」 期末試験受験者の解答時間

| | 制限時間 | 平均解答時間 | 時間切れ | 未解答問題数 |
|----|------|----------|------|--------|
| Q1 | 6 分 | 2 分 47 秒 | 0 人 | - |
| Q2 | 6 分 | 5 分 55 秒 | 1 人 | 0 |
| Q3 | 6 分 | 6 分 00 秒 | 2 人 | 0, 4 |
| Q4 | 5 分 | 3 分 55 秒 | 1 人 | 0 |
| Q5 | 4 分 | 3 分 16 秒 | 1 人 | 0 |
| Q6 | 3 分 | 2 分 39 秒 | 1 人 | 0 |
| Q7 | 5 分 | 3 分 47 秒 | 0 人 | - |

表 13 「漢字 C1」 期末試験受験者の解答時間

| | 制限時間 | 平均解答時間 | 時間切れ | 未解答問題数 |
|----|------|--------|------|---------|
| Q1 | 8分 | 3分59秒 | 0人 | - |
| Q2 | 4分 | 2分26秒 | 1人 | 0 |
| Q3 | 6分 | 4分25秒 | 1人 | 1 |
| Q4 | 6分 | 4分21秒 | 3人 | 0, 2, 4 |
| Q5 | 6分 | 2分44秒 | 0人 | - |
| Q6 | 4分 | 2分30秒 | 2人 | 0, 1 |
| Q7 | 10分 | 6分51秒 | 0人 | - |

「漢字」の試験については、「漢字 B1」の中間試験 Q6（漢字を選んで熟語を作る，ドラッグ&ドロップ）と期末試験 Q3（対語を書く，記述），「漢字 C1」の期末試験 Q4（文意に合う漢字語を選ぶ，ドラッグ&ドロップ）と Q6（漢字を選んで対語を作る，ドラッグ&ドロップ）で時間切れが2人以上いる。「漢字 B1」も「漢字 C1」も対語に関わる問題で解答に時間を要していることが窺われる。対語の問題は，まず提示された語の読みや意味を考えたあとで，さらにその語と対になる語を考えなければならぬため，ほかの問題と比べて解答に時間がかかるのだろう。そして，問題タイプはドラッグ&ドロップが多い。ドラッグ&ドロップの問題は全問同時表示で，解き始めの段階で多くの選択肢から選ぶ必要があるため，1問ずつ表示され選択肢の少ない多肢選択やミッシングワードよりも，学生にとって難易度の高い問題については解くのに時間が必要なのだろう。

表 14 「文法 C1a」 中間試験受験者の解答時間

| | 制限時間 | 平均解答時間 | 時間切れ | 未解答問題数 |
|----|------|--------|------|---------|
| Q1 | 7分 | 6分5秒 | 2人 | 0, 1 |
| Q2 | 6分 | 5分34秒 | 3人 | 0, 0, 0 |
| Q3 | 4分 | 2分56秒 | 0人 | - |
| Q4 | 7分 | 5分32秒 | 0人 | - |
| Q5 | 7分 | 4分1秒 | 0人 | - |
| Q6 | 6分 | 3分18秒 | 0人 | - |
| Q7 | 15分 | 13分32秒 | 3人 | |

表 15 「文法 C1a」 期末試験受験者の解答時間

| | 制限時間 | 平均解答時間 | 時間切れ | 未解答問題数 |
|----|------|--------|------|--------|
| Q1 | 7分 | 5分31秒 | 1人 | 1 |
| Q2 | 7分 | 5分50秒 | 0人 | - |
| Q3 | 4分 | 3分16秒 | 1人 | 0 |
| Q4 | 7分 | 5分2秒 | 1人 | 0 |
| Q5 | 7分 | 4分59秒 | 1人 | 0 |
| Q6 | 6分 | 2分41秒 | 0人 | - |
| Q7 | 15分 | 13分24秒 | 4人 | |

表 16 「文法 C1b」 中間試験受験者の解答時間

| | 制限時間 | 平均解答時間 | 時間切れ | 未解答問題数 |
|----|------|--------|------|---------------------|
| Q1 | 7分 | 6分24秒 | 7人 | 0, 0, 1, 1, 2, 2, 5 |
| Q2 | 5分 | 4分27秒 | 2人 | 2, 3 |
| Q3 | 3分 | 1分53秒 | 0人 | - |
| Q4 | 7分 | 4分54秒 | 0人 | - |
| Q5 | 6分 | 4分50秒 | 4人 | 0, 0, 3, 3 |
| Q6 | 8分 | 4分50秒 | 0人 | - |
| Q7 | 20分 | 19分34秒 | 8人 | |

表 17 「文法 C1b」 期末試験受験者の解答時間

| | 制限時間 | 平均解答時間 | 時間切れ | 未解答問題数 |
|----|------|--------|------|------------------|
| Q1 | 6分 | 4分52秒 | 4人 | 0, 0, 2, 6 |
| Q2 | 5分 | 4分52秒 | 7人 | 0, 0, 0, 0, 0, 1 |
| Q3 | 3分 | 2分3秒 | 1人 | 0 |
| Q4 | 6分 | 4分34秒 | 2人 | 0, 0 |
| Q5 | 7分 | 5分32秒 | 3人 | 0, 0, 2 |
| Q6 | 8分 | 4分27秒 | 0人 | - |
| Q7 | 20分 | 19分45秒 | 8人 | |

「文法」の試験で時間切れとなった受験者が2人以上のものを整理すると、次の(1)～(4)に分けられる。

- (1) 文意に合う表現を選ぶ（多肢選択, ミッシングワード）
…「文法 C1a」中間 Q1, 「文法 C1b」中間・期末 Q1, 期末 Q5
- (2) 語句を並べ替えて文を作る（ドラッグ&ドロップ）
…「文法 C1a」中間 Q2, 「文法 C1b」中間・期末 Q2
- (3) 動詞等の形を変えて文を作る（記述）
…「文法 C1b」中間・期末 Q5
- (4) 複数の指定された表現を用いて文章・会話文を作る（作文）
…「文法 C1a」中間・期末 Q7, 「文法 C1b」中間・期末 Q7

(4)は自由記述の作文問題のため、終了時間が来るまで取り組もうとする学生が多いのは予想できるが、(1)～(3)については、解答時間を若干延ばすなどの見直しが必要かもしれない。(1)については、問題数の多さが影響している可能性もある。1問ずつ順番に解答して時間内に20問終える設定であるが、時間配分が不得手な学生の場合、最初のほうで時間をかけて考えているうちに残り時間が少なくなってしまう可能性もある。20問を10問ずつに分けて、それぞれに解答時間を設定するといった方法も考えられる。反対に、制限時間に比べて平均解答時間がかなり短いものについては、時間を短くしたほうがよいだろう。今回得られた結果をもとに各項目の解答時間の設定や問題の表示方法を再検討し、学生が自身の学習の成果を感じられるよう、試験の改善を図っていきたい。

7 学生からのコメント

前期の授業終了後に、「漢字」と「文法」の定期試験を受けた総合日本語コース受講者14人に、オンライン試験について問題がなかったかをたずねたところ⁵⁾、次のコメントが得られた。()は筆者による補足, []は学生の受講科目を示す。

- S 1: 大丈夫。余裕があった。N1取ってるから。[文法C1b]
- S 2: 私の場合は特にない。[漢字C1]
- S 3: 中間テストや期末テストの時間制限の問題はなく、時間は余裕があった。うちだと、小テストを受けるとき、問題があった。入力できない。保存できない。提出できない。[漢字C1, 文法C1a, 文法C1b]
- S 4: 期末試験は短いとは言えない。ちゃんと復習したら時間は十分だと思う。漢字の小テストはちょうどよかった。[漢字C1]
- S 5: 期末テストの時間はだいたい合っていたと思う。ゆっくりじゃないけど、教科書を見なければ時間内にできると思う。毎回の授業の小テスト、漢字、特に言葉を適切にフレーズに置く問題は短かったと思う。[漢字C1, 文法C1b]
- S 6: 中間テストや期末テストはちょうどいいと思うが、毎週のテストは古いパソコンでは、次の問題へ行くのに10秒ぐらいかかった。中間テストや期末テストは全体の時間が長かったから大丈夫だった。[漢字C1, 文法C1a, 文法C1b]
- S 7: 時間は大丈夫だが、タイムリミットが緊張して焦ったりして間違える。小テストの最後の問題のような問題（文意に合う漢字語を選んだり、漢字を選んで熟語を作ったりする問題）が考える時間が足りないと思う。Wifiは熱くなったり切れたりすることがあったが、期末試験のときは大丈夫だった。[漢字C1]
- S 8: 期末テストの時間は大丈夫だったが、小テストの時間は短かった。正しい文を選んで、N2は大丈夫だったが、全体的に文は読みやすく文を理解しやすいので。N1の文法は文を漢語も難しく、文の意味がわからなくて選ぶのが難しかった。漢字は読みと書きは大丈夫だったが、正しい漢語表現を文に入れるのは時間が足りなかった。[漢字C1, 文法C1a, 文法C1b]
- S 9: ちょっとぎりぎり。私にとってタイピングが必要な試験がちょっと…。[文法C1b]
- S10: 制限時間があって慌てて、ゆっくり考える時間がなくて。でも日本語能力試験もそうだから…。漢字の言葉を文に当てはめるのが特にもっと時間がほしかった。[漢字C1, 文法C1b]
- S11: 時間はきつかった。私の復習不足の原因もあるけど、私はゆっくり考えるタイプだから、時間

がない。焦る。次の問題へ行くとさっき間違っただと思っても、戻れない。自分でもどこを間違ったかわからなくなる。〔文法C1b〕

S12：私にとって厳しすぎる。漢字も文法も時間が厳しすぎた。先週は全部の試験がそろったから大変だった。中間テストはN2とN1がばらばらだった（文法C1aと文法C1bの試験実施日が中間試験は1週ずれていたが、期末試験は同じ日だった）から大丈夫だった。〔漢字C1, 文法C1a, 文法C1b〕

S13：もう少し長いほうがいい。思考の時間がときどき足りないかな。特に、選択の4つの中で1つ選ぶ問題。〔文法C1b〕

S14：全体的に短すぎた。1つずつの質問が次のページに行くのに時間がかかった。インターネットの環境がよくなかった。たぶん私のパソコンが調子が悪くてZoomも大変だった。〔文法C1a, 文法C1b〕

学生からのコメントの大半が試験時間に関するものだった。定期試験の時間について14人中8人(S1～8)は問題がなかった, 6人(S9～14)はぎりぎりだった, 短かったという回答だった。時間的に厳しかったと回答した6人は, 理由として, ゆっくり考える時間が足りないこと(S10, S11, S13), 試験準備が不足していた(S11, S12), 入力が得意でないこと(S9), インターネット環境がよくなかったこと(S14)を挙げていた⁶⁾。インターネット環境については, 試験実施中にZoomの接続を切ることによってある程度つながりやすくなったと思われるが, 一度にアクセスする学生が多いと接続しづらくなることも考えられる。受験者の多くはQ1→Q2→Q3→Q4…と順番に進めていたが, 中にはQ6→Q5→Q4→Q3…やQ2→Q3→Q4…→Q1のように進めた学生もいて, 試験終了後に理由をたずねたところ, ほかの学生と違う問題から始めたほうがインターネットの接続がうまくいくと思うからという回答だった。受験者が多い場合はQ1から始めるグループ, Q2から始めるグループというように試験前に解答順を指定する方法を取ってもよいかもしれない。

定期試験については問題がなかったと回答した8人のうち6人(S3～8)から, 小テストの時間が短かったというコメントが寄せられた。この理由として考えられるのは, 学生の準備不足とインターネット環境である。前者は, 定期試験は成績評価にかかわるため十分に復習してから試験に臨む学生が多いと思われるが, 毎週の小テストでは準備不足で考えるのに時間がかかるのではないと思われる。後者は, 定期試験実施中はZoomの接続を切ったが, 小テストはZoomを接続したまま受験しているため, 通信トラブルが起きやすかった可能性がある。前回の復習のための小テストについては, 受験時間の見直しや, 学生に小テスト受験後にZoomに接続させるといった方法での対応を考えている。

8 おわりに

コロナ禍において遠隔で公平な試験を実施できる体制の整備は不可欠である。Moodleの解答時間の制限機能やランダム問題表示を活用したり, 文字データを用いずに画像で表示したり, 出題内容を辞書で調べたりインターネットで検索したりするだけでは解答しにくいものに変更したりすることによって, 一定程度対応可能なことを確認できた⁷⁾。試験全体での制限時間に加えて, 項目ごとに細かく制限時間を設けて解答を送信しながら試験を進めていく方法は, 教師が各学生の試験の進行状況も確認しやすく, またネットワークのトラブルが生じた際も該当項目だけを再試験することもできるので, 遠隔での試験実施には適していると思われる。

今回 Moodleで行ったのは試験問題の作成だけで, 試験のフィードバックは誤答が多かった問題を中心に, 教師がZoomで説明するという方法で行ったが, 受講者が多い授業については対面授業と比べてZoomでは個別フィードバックを行いにくかった。今後は Moodleによる定期試験の個別フィードバックの充実を図りたいと考えている。

注

- 1) 日本語課外補講受講者も総合日本語コース受講者と同様に, 定期試験を受けたり, レポートを提出したり, 口頭発表を行っているため, 本稿では日本語課外補講受講者も含めて報告する。
- 2) 日本語学習者を対象とした漢字, 文法のオンライン試験として, 加納・魏(2019)で「WEB版漢字力診断テスト」, 島田他(2019)で「日本語文法認知診断Webテスト」について報告されている。これらは学習

者の漢字力や文法力を診断することを目的とした試験であり、成績評価のために行う日本語学習者向けオンライン試験に関する先行研究は文法、漢字以外を見ても数が少ない。篠崎（2011）では、N1レベルの文法を扱うブレンディッドラーニング授業において、PC教室での一斉実施で、Moodleで作成した中間試験と期末試験（各試験制限時間60分で150問解答）を行ったことが報告されている。ただし遠隔ではなくPC教室で一斉に行われた試験のため、不正行為防止の対応については特に触れられていない。

- 3) 「漢字B1」と「文法C1a」と「文法C1b」については、漢字の書き問題、文法の作文問題以外は、過去に実施した定期試験と同じような形式で、一部問題文や選択肢を入れ替え作成した。「漢字C1」は今回新しい教科書を採用したため、定期試験も新しく作成したが、できるだけ従来の試験と同程度の難易度になるよう配慮した。
- 4) 「漢字C1」と「文法C1a」については、表10の得点59点以下の学生のデータは分析の対象から外した。この学生はレベル的に中級クラスの受講が適当だったが、成績評価が必要ないということで受講を許可した学生で、定期試験ではほとんどが時間切れとなっていた。
- 5) インタビューの内容について説明を行い、同意が得られた受講者に対し、2020年8月11日（火）～14日（金）の間にZoomで1人ずつインタビューを行った。総合日本語コースについてのインタビューを行ったあと、筆者が担当した科目のオンライン試験についてたずねた。
- 6) 横内(2020)は、Moodleで実施した英語のReadingとListeningの期末試験の受験者に対して行ったWebアンケートの結果を報告している。教室で行われた試験であること、また、内容がReadingとListeningということで本稿のMoodleの定期試験とは異なるが、受験しづらかったと答えた学生が挙げた理由として、本稿と同様にタイピングが不慣れなことのほかに、Readingでは画面のスクロールで集中力が途切れること、英文に書き込みができないこと、Listeningでは周囲のタイピング音が気になることが挙げられている。
- 7) 今後さらなるIT技術やインターネットサービスの進化によって、遠隔での試験実施が行いやすい環境が整備される可能性もあるが、現時点では試験の公平性を高めるには、遠隔ではなく教室での実施が適切だと考えている。

参考文献

- (1) 加納千恵子・魏娜（2019）「漢字力診断テストによる日本語力の評価」, 李在鎬編『ICT×日本語教育—情報通信技術を利用した日本語教育の理論と実践』ひつじ書房, pp.166-177
- (2) 島田めぐみ・孫媛・谷部弘子・豊田哲也（2019）「日本語文法認知診断Webテスト」, 李在鎬編『ICT×日本語教育—情報通信技術を利用した日本語教育の理論と実践』ひつじ書房, pp.22-37
- (3) 篠崎大司（2011）「Moodleを活用したブレンディッドラーニングモデルの構築とその有効性—上級日本語文法を中心に—」『別府大学紀要』No.52, pp.1-10
- (4) 関正昭・平高史也編（2013）『日本語教育叢書「つくる」テストを作る』スリーエーネットワーク
- (5) 横内裕一郎（2020）「Moodleを用いた定期試験への学生の反応」『弘前大学教養教育開発実践ジャーナル』第4号, pp.117-123
- (6) 李在鎬編（2015）『日本語教育のための言語テストガイドブック』くろしお出版
- (7) J.D. ブラウン著・和田稔訳（1999）『言語テストの基礎知識』大修館書店
- (8) 富山大学総合情報基盤センター <https://www.itc.u-toyama.ac.jp> > 「Moodle インストラクタ用ガイド（富山大学版）」, 2020年10月29日最終閲覧



年報

2019年4月～2020年3月

1. 交流部門報告 (2019年4月～2020年3月)

バハウ サイモン ピーター
副島 健治

1 はじめに

富山大学留学生センター(1999年4月1日設置)が発展的に解消して、2013年10月1日に国際交流センターと名称を変え、従前の留学生センターの富山大学に在籍する外国人留学生に対する日本語教育、日本での生活と修学に関わる指導に加えて、外国人留学生と日本人学生との交流、地域との交流、富山大学の学生を海外に送り出すことなど、その役割や機能、特に専任教員の業務は大きく拡大した。そして、2018年4月の改革によって、現在の「国際機構」となり現在に至っている。

本報では、2019年4月～2020年3月における交流部門に関わる報告をする。

2 外国人留学生に対する修学・研究上、生活上及び異文化適応上の指導・助言、および富山大学の学生の海外留学にかかる支援

後期は教員の異動等があり実施できなかったが、前期においてはコンサルテーションアワーを毎週火曜日と木曜日に設定し、富山大学で学ぶ外国人留学生、海外留学を目指す学生への指導・助言を機構教員が行った。また、設定した日以外においても、学生の事情を考慮し相談を受けた。相談内容によって、必要があれば、各学部、留学支援課や学生支援課の「学生なんでも相談窓口」等と連携して対処した。以下、実施した実績を記す

相談者数は55人で、面談の件数はのべ125件であった。125件の内訳は、外国人留学生に対する指導・助言(30件)、日本人学生に対する指導・助言(90件)、その他(富山大学教職員、卒業生、地域住民等から)の相談への指導・助言(5件)であった。

海外留学相談については、機構棟1階の「談話室」に資料を置いて海外留学を希望する学生に情報の提供を行うとともに、海外への留学を希望する学生の相談にのっている。

海外留学を希望する学生の相談における主な希望留学先は、アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド、アイルランド、フィンランド、スイス、フランス、オランダ、ブルガリア、ポーランド、ハンガリー、タイ、フィリピン、マレーシア、韓国、台湾、中国、等であった。

相談者の内訳は以下の通りである。

相談者数：55人

(内訳) 人文学部(14人)、人間発達科学部(5人)、経済学部(6人)、理学部(11人)、工学部(8人)、都市デザイン学部(6人)、理工学教育部(2人)、医学薬学教育部(3人)

3 異文化間理解教育にかかる活動および外国人留学生と日本人学生の交流推進にかかる活動

(1) スタディ・エクスカージョン

国際機構主催で、毎学期、日本文化あるいは富山の文化への理解を深めるとともに外国人留学生と日本人学生との交流をはかる目的で、県内の文化施設等を見学するスタディ・エクスカージョンや訪問等を実施している。訪問先へは教員が引率した。富山市民俗民芸村の施設見学では、ボランティアの方お二人の案内(説明)を受けることができた。2019年度は、ライデン大学からの短期留学生のための活動を複数回実施した。

5月17日（金）のスタディ・エクスカーション実施後にアンケートを実施したが、アンケートの結果を見ると、「とても楽しかった」「また参加したい」などの感想が多く、「不満」と答えた者はゼロであった。また「他にいきたいところ」として立山、合掌造り、黒部ダムなど富山を代表するところを提案する意見も見られた。

2019年度は事情により前期にのみ実施した。

<実施日・見学場所>

2019年4月24日（水） 天気：雨
 となみチューリップフェア会場
 移動手段：チャーターバス

<参加者数>

ライデン大学からの短期留学生 10人
 教職員 3人
 合計：13人



2019年4月24日（水）
 （となみチューリップフェア会場にて）

<実施日・見学場所>

2019年5月17日（金） 天気：晴れ
 富山市民俗民芸村
 移動手段：徒歩

<参加者数>

外国人留学生 2人
 日本人学生 5人
 教職員 2人
 合計：9人



2019年5月17日（金）
 （富山市民俗民芸村にて）

<実施日・見学場所>

2019年5月29日（水） 天気：晴れ
 富山市役所：富山市長表敬
 富山ガラス工房：制作体験
 移動手段：富山ガラス工房のバス

<参加者数>

ライデン大学からの短期留学生 8人
 教職員 4人
 合計：12人



2019年5月29日（金）
 （富山ガラス工房にて制作体験）

<実施日・見学場所>

2019年6月19日(水) 天気: 晴れ
本学高岡キャンパス(和紙工芸制作, 学生交流)
移動手段: 大学シャトルバス

<参加者数>

ライデン大学からの短期留学生 3人
教職員 1人
合計: 4人



2019年6月19日(水)
(富山大学高岡キャンパスにて)

<実施日・見学場所>

2019年6月26日(水) 天気: 晴れ
人間発達科学部附属小学校訪問
移動手段: 徒歩

<参加者数>

外国人留学生 14人
教職員 1人
合計: 15人



2019年6月19日(水)
(富山大学附属小学校にて)

(2) ホームビジットとホームステイ

国際機構では、日本語研修コースで学ぶ研修留学生を対象として、異文化体験学習の一環として、日本の家庭に滞在するホームビジット(日帰り)またはホームステイ(1泊2日)を実施している。2019年度は、日本語研修コースの研修留学生がいなかったため実施しなかった。

(3) 外国人留学生と日本人学生の交流のためのパーティー

国際機構棟1階の談話室は外国人留学生と日本人学生が休み時間に昼食を食べながら語り合うなど、日常的な交流の場となっている。加えて、外国人留学生のサポートを活動の目的とする大学の学生サークル「パートナーズ」(後掲)が、日本人学生と留学生との交流のために下のような「交流会」を企画し実施した。

<日時・参加者数>

| | | |
|----------------|------------------------|--------|
| 2019年4月24日(水) | ウエルカムパーティー | 参加者30名 |
| 2019年7月3日(水) | ウェアウエルパーティー | 参加者45名 |
| 2019年10月30日(水) | ウエルカムパーティー&ハローウィンパーティー | 参加者40名 |
| 2019年12月18日(水) | クリスマスパーティー | 参加者35名 |

4 関係団体との連携と協力

(1) 地域における各種行事への協力

県内外で行われている政府や自治体、その他の公的機関等が実施する会議、行事等において、講演や会議出席などの協力の要請等があった場合は、教員あるいは留学生が協力をしている。

2019年度国際機構教員が直接参加した主な外部団体の行事

| 国際交流行事 | 期日 | 主催団体 | 内容 |
|--------------------------------------|-------------------------------|-------------|----|
| 高岡市国際交流協会総会 | 5月25日(土) | 高岡市国際交流協会 | 講演 |
| 内閣府「会議北方領土教育の加速のためのITCコンテンツの提言」有識者会議 | 11月2日(土) 2020年 2月11日(火) | 内閣府/日本教育新聞社 | 会議 |

学生の参加協力した国際交流団体および行事内容については、本誌の「2019年度外国人留学生と地域との交流状況」を参照されたい。

(2) 関係団体等との連携

国際機構と関係諸団体との連携と協力の関係は大変重要であり、そのような意味において、必要に応じて適宜情報交換している。

5 各種情報の提供

全学の留学生を対象に、留学生活に関わる情報を提供し、地域の交流団体等が主催する行事等の案内を国際機構棟1階の談話室に掲示している。

6 オリエンテーション

(1) 新規来日新入留学生のためのオリエンテーション

学部、総合情報基盤センター、国際部留学支援課、学務部学生支援課、キャリアサポートセンター等の協力により、各学部のオリエンテーションとは別に、新規来日留学生のためのオリエンテーションを実施した。学部新入留学生だけではなく、大学院留学生、さらに在学中で過去に本オリエンテーションに参加していない外国人留学生も対象とした。

[前期]

<実施日時・場所>

日時：2019年4月2日(火) 9:30～(部局ごとに終了)

場所：(五福キャンパス) 共通教育棟D11教室

(杉谷キャンパス) 看護学科研究棟11教室

(高岡キャンパス) B1棟116教室

<対象者>

2019年4月入学新入外国人留学生(非正規生含む全員)および在学中で、過去にオリエンテーションに参加していない外国人留学生

※ただし、過去にオリエンテーションに参加した学生(内部進学者等)を除く。

<参加者>

学部生： 33人(うち17人は非正規生)

大学院生： 27人(うち2人は非正規生)

計： 60人

<オリエンテーションの主な内容>

<全体> 9:30～10:50

- 1) 生活上の留意事項について (国際機構)
- 2) コンピュータ・ネットワークの不正利用, 知的財産等の取扱いについて
(総合情報基盤センター)
- 3) 学生なんでも相談窓口について (学生支援センター)
- 4) 就職支援について (学務部就職支援課)
- 5) 授業料納入, 授業料免除制度, 学研災等について (学務部学生支援課)
- 6) 各種奨学金, 国民健康保険料補助申請について (国際部留学支援課)
- 7) その他

<学部ごと> 11:00～12:00 (杉谷キャンパを除く)

[後期]

<実施日時・場所>

日時: 2019年10月9日(水) 16:30～(部局ごとに終了)

場所: (五福キャンパス) 共通教育棟D 11

(杉谷キャンパス) 看護学科研究棟 11 教室

<対象者>

2019年10月入学新入外国人留学生(非正規生含む全員) 在学学生で, 過去にオリエンテーションに参加していない外国人留学生

※ただし, 過去にオリエンテーションに参加した学生(内部進学者等)を除く。

<参加者>

学 部 生: 43人(うち39人は非正規生)

大学院生: 26人(うち20人は非正規生)

計: 69人

<オリエンテーションの主な内容>

内容は前期のオリエンテーションとほぼ同様。

(2) 学部新入生のための時間割作成オリエンテーション

入学後間もない学部新入留学生のために, 時間割作成の支援として, 学部ごとの先輩の留学生が各新入留学生に履修の仕方を個別にアドバイスするという形式でオリエンテーションを実施した。

<実施日・場所>

2019年4月4日(木) 15:00～16:30 共通教育棟1階C11教室

<対象者>

学部に新入学した留学生

<参加者数>

新入留学生 11人, 協力した先輩留学生 12人 (計: 23人)

7 富山大学の学生のグローバル人材育成にかかる活動

(1) 人間発達科学部の専門科目「国際交流活動論」の実施

2016年度, 2017年度, 2018年度に続き, 2019年度も後期において人間発達科学部の専門科目「国際交流活動論」(コーディネータ: 人間発達科学部 橋爪和夫教授)の講義を国際機構の教員が担当した。時期は7月10日(説明会)～8月7日の毎週水曜日と8月9日(金)の計15コマの集中講義を行なった。

講義内容は平成31年度のシラバスに詳しいが, いずれもグローバル人材育成に視点を置いた「日本

(語)文化」「留学」「異文化理解」をキーワードにしたものであった。特に受講者は卒業後、初等・中等教育に携わる可能性のある学生が多かったため、昨今の教育現場に外国人子弟が少なくないという状況を鑑みて、日本語教育の視点から講義する部分も多かった。

また、1コマを使って受講生と留学生の交流活動も行ない、さらにもう1コマを使って授業の一環として、JICA（国際協力機構）富山デスクの国際協力推進員の方による講演をしていただいたが、受講生にとって大いに刺激になった。講演の部分は1つの国際交流セミナーと位置づけ公開授業とした。

「国際交流活動論」の受講者数（全員が人間発達科学部の学生）および内訳は以下の通りである。

学年：4年生（1人）、3年生（3人）、2年生（9人）計：13人

(2) 国際機構主催国際交流セミナーの開催

2019年度においては、富山大学の学生のグローバルマインドの育成を目的として、2人の講師を招いて、以下のようなセミナーを実施した。

1. テーマ：“グローバルマインドの育成のために”
2. 趣旨：戦後最悪と言われる日韓関係を見据え、韓国と日本の両方の理解者として、日本と韓国の「空気」についてお話しいただき、また、今日の日本社会がすでに「多様性」の社会であることから、新しい「ダイバーシティ」というものの見方、考え方について専門家の話を聞き学ぶ。
3. 主催：富山大学国際機構
4. 協力：NGO ダイバーシティとやま
5. 対象：テーマに関心を持つ富山大学の学生（留学生を含む）、教職員。※学外からの参加も可。
6. 日時：2020年2月12日（水）14:00～16:30,
7. 場所：富山大学国際機構棟2階 講義室3
8. セミナー内容：

【第1部】14：00～15：00

講演（1）“韓国の空気、日本の空気”

南相英氏

（元・延世大学校語学堂講師、木工芸家）

【第2部】15：05～16：05

講演（2）“ダイバーシティ”というものの見方、考え方

宮田妙子氏

（NGO ダイバーシティとやま代表、特定非営利活動法人（NPO）富山国際学院理事長）

※ 第2部に引き続き、質疑応答 16：00 終了

9. 使用言語：日本語

10. コーディネータ：富山大学国際機構教授 副島健治

会場は国際機構棟2階の小規模の教室であったが、ほぼ満席であった。講演の後に質疑応答もあって、たいへん有意義なセミナーとなり、盛況であった。セミナーの様子は翌日の「北日本新聞」「北陸中日新聞」に記事が掲載された。

国際交流セミナー
グローバルマインド育成のために
2020年2月12日(水) 14:00～16:30
富山大学 国際機構棟2階 講義室3

第1部 “韓国の空気、日本の空気” 講師 南相英氏
元・延世大学校語学堂(ソウル特別市)講師、木工芸家

第2部 “ダイバーシティというものの見方、考え方” 講師 宮田妙子氏
NGOダイバーシティとやま代表、特定非営利活動法人(NPO)富山国際学院理事長

今、世界の潮流は Diversity
昨今の日本を取り巻く国際情勢は急速を深めており、韓国韓国との関係は戦後最悪とさえ言われます。このような中、長年韓国の大学で勉強をとり韓国社会を学んでこられた講師に、韓国と日本の両方の理解者として、そして韓国に生きる生活者として、その立ち位置を機軸とする視座から日本と韓国の「空気」についてお話しいただきます。

また、今日の日本社会は、外国人労働者受け入れ拡大などの潮を引くまでもなく、すでに「多様性」の社会そのものであり、それは今後さらに深化していくと思われまます。例えば、2019年ワールドカップ日本大会の日本代表チームの「ワナチーム」の精神は多くの人々に感動を与えました。そしてその代表チームのメンバー構成には驚きと感服したように、「日本・日本人」というような既成の概念はこれまでと異なる意味を内包しています。脱皮した新しいものの見方、考え方がいかに求められていると云えるでしょう。このような背景において、「ダイバーシティ」というものの見方、考え方について講師にお話しいただきます。

対 象 富山大学の学生(留学生を含む)、教職員、学外からの参加も可。
使用言語 日本語
【コーディネータ】富山大学国際機構教授 副島健治
【事前申込み】参加をご希望の方は、以下のEメールアドレスへ氏名・所属等をご記入の上、事前に申込みをお願いいたします。
申し込み先: cler@adm.u-toyama.ac.jp
【問い合わせ先】
富山大学 国際機構 事務局
TEL/Fax: 076-445-6106
主催: 富山大学国際機構 協力: NGOダイバーシティとやま

セミナーのチラシ（ポスター）



2020年2月12日（水）
国際交流セミナー

8 その他

(1) 国際交流の学生団体への助言

富山大学の国際交流の学生団体（名称「Partners」）の活動への助言を行った。

9 おわりに

国際機構は、その役割を果たすために本学の関係者をはじめとして、学外の諸団体、地域の方々の温かい理解と協力、多大な支援を頂いており、そのことについて、まずはこの誌面を借りて篤く感謝の意を表したい。

また、冒頭に述べたが、1999年4月に設置された富山大学の留学生センターが2013年10月に国際交流センターとなり、さらに2018年4月に全学的機能拡充のため国際機構と名称を改め、国際機構の長は富山大学の理事（国際担当）が直接担うようになった。留学生センターと呼ばれていた時期の従来の役割から全学的意味においての大学の国際戦略の役割を担うものとして位置付けられた。国際機構に課せられたミッションは大変重いと言えるが、その役割を果たすための課題も見えてきている。限られた人材と予算に向き合いながら、富山大学のグローバル化を見据え、未来に向かって全学的な見地から地道な努力をしていかなければならないといえる。

2. 教育部門報告 (2019年4月～2020年3月)

田中 信之
濱田 美和
副島 健治

国際機構では、富山大学に在籍する外国人留学生・外国人研究者のための日本語プログラムとして、日本語研修コース、日本語課外補講、総合日本語コース、これら三つを提供している。2019年度は、前期は日本語研修コースと日本語課外補講と総合日本語コースを開講したが、日本語研修コースは受講者1名が辞退したため、閉講することとなった。後期は日本語課外補講と総合日本語コースを開講した。

2019年度の日本語プログラム全体の受講者数は、前期が72人、後期が96人であった。各日本語プログラムでは専任教員がコーディネーターを務め、受講登録や成績に関わる業務を行った。また、日本語プログラムの科目の大部分は複数プログラムの合同授業となっているため、初級、中級、上級クラス別の担当者(専任教員)を設け、クラス運営を行った。毎日の授業内容と学生の出欠状況を記録・閲覧できる「授業記録システム」を活用して受講者の学習の進捗状況を把握し、日々の授業に取り組んだ。学期末にはクラス別に授業アンケートを実施し、日本語プログラム講師ミーティングにおいてアンケート結果を共有することにより、授業改善を図った。日本語プログラム以外には、留学生の日本語学習を支援するためのサイト「日本語学習支援サイト RAICHO」の運営を行った。

また、2019年度は二つの公開講座を開講することができた。一つは令和元年度学長裁量経費により、外国人労働者向けの日本語教育の調査を行ったうえで、日本語・日本文化講座を実施した。もう一つは、公益財団法人日本語教育学会と講演・ワークショップを開催した。テーマは「対話的評価活動を取り入れたクラス活動を考える―内省型ルーブリックの作成を通して―」であった。

以下、日本語課外補講、ライデン大学短期日本語研修プログラム、総合日本語コース、日本語プログラム授業アンケート、日本語学習支援サイト RAICHO の順に活動状況を報告する。

日本語課外補講報告 (2019年4月～2020年3月)

田中 信之

1 はじめに

日本語課外補講は、富山大学に在籍する外国人留学生及び外国人研究者であれば誰でも受講できるプログラムである。日常生活や大学での学習・研究活動に必要な日本語の習得を目指して、初級、中級、上級の3つのレベル別クラスを開講している。2019度は、前期(2019年4月～9月)と後期(2019年10月～2020年3月)にそれぞれ15週間開講した。

以下、2019年度の日本語課外補講の実施状況について報告する。なお、富山大学で実施されている日本語課外補講は、五福キャンパスにおいて国際機構が実施するものと、杉谷キャンパスにおいて医学部所属の日本語・日本事情担当教員が中心となり実施するものがある。本稿では2019年度に五福キャンパスで国際機構が実施した日本語課外補講について報告する。

2 受講者

前期は、初級クラスが16人(うち4人は中級クラスも同時に受講)、中級クラスが38人(うち4人は初級クラス、8人は上級クラスも同時に受講)、上級クラスが30人(うち8人は中級クラスも同時に受講)、計72人が日本語課外補講(ライデン大学短期日本語研修プログラム、総合日本語コースを含む)を受講した。72人の在籍身分別の内訳は、大学院生22人、特別聴講学生28人、研究生6人、特別研究学生6人、科目等履修生(県費留学生、日本語・日本文化研修留学生)6人、特別研究員1人、外国人研究員3人である。国・地域別の内訳は、中国28人、オランダ10人、台湾、タイ各5人、ベトナム、ロシア各4人、インド、韓国各3人、フィンランド2人、アメリカ、インドネシア、スロバキア、チリ、バングラデシュ、フィリピン、ベルギー、ラオス各1人である。また、所属別の内訳は、理工学教育部19人、人間発達科学部15人、人文学部13人、経済学研究科8人、経済学部7人、医学薬学教育部3人、芸術文化学部、人文科学研究科各2人、工学部、芸術文化科学研究科、人間発達科学研究科各1人である。

後期は、初級クラスが31人(うち1人は中級クラスも同時に受講)、中級クラスが19人(うち6人は上級クラスも同時に受講)、上級クラスが53人(うち6人は中級クラスも同時に受講)、計96人が日本語課外補講(総合日本語コースを含む)を受講した。96人の在籍身分別の内訳は、研究生28人、大学院生27人、特別聴講学生18人、特別研究学生9人、科目等履修生(県費留学生、日本語・日本文化研修留学生)9人、研究員4人、研究生(教員研修留学生)1人である。国・地域別の内訳は、中国59人、ベトナム9人、韓国7人、インド、ブラジル各4人、タイ3人、ロシア2人、インドネシア、台湾、チェコ、トルコ、パキスタン、バングラデシュ、フィリピン、マレーシア各1人である。また、所属別の内訳は、理工学教育部19人、工学部17人、人文学部15人、経済学研究科11人、経済学部9人、人間発達科学部、人文科学研究科各7人、医学薬学教育部5人、都市デザイン学部、人間発達科学研究科各2人、芸術文化科学研究科、水素同位体科学研究センター各1人である。

なお、協定校からの短期留学生については、ライデン大学からの交換留学生を除き、日本語課外補講中級・上級クラスで開講されている科目を総合日本語コースの科目として受講している(詳細は、総合日本語コース報告を参照のこと)。ライデン大学からの短期留学生は、ライデン大学短期日本語研修プログラム用に開講されている科目(特別指導)以外に、日本語課外補講中級クラスで開講されている科目をライデン大学短期日本語研修プログラムの科目として受講している(詳細は、ライデン大学短期日本語研修プログラム報告を参照のこと)。

3 授業担当者

2019年度前期は、国際機構専任教員4人（副島健治、田中信之、バハウ・サイモン・ピーター、濱田美和）、および、非常勤講師5人（高島智美、中河和子、水田佳歩、要門美規、横堀慶子）、2019年度後期は国際機構専任教員3人（副島健治、田中信之、濱田美和）、および、非常勤講師7人（高島智美、田上栄子、中野香保里、藤田佐和子、松岡裕見子、水田佳歩、要門美規）が授業を担当した。コーディネーターについては専任教員の田中信之が担当した。

4 授業日程

前期は2019年4月11日（木）～8月2日（金）を授業期間とした。曜日調整のため、5月9日（木）と7月12日（金）は月曜日の授業を行った。後期は2019年10月7日（月）～2020年2月7日（金）を授業期間とした。曜日調整のため、10月16日（水）と11月7日（木）は月曜日の授業、10月25日（金）は火曜日の授業、12月24日（火）は金曜日の授業を行った。また、12月25日（水）～1月6日（月）は冬季休業、1月17日（金）は大学入試センター試験準備日のため、2月4日（火）は曜日調整のため、と休講とした。

オリエンテーションは、前期は4月5日（金）、後期は10月4日（金）に開催した。前期は専任教員4人（副島健治、田中信之、バハウ・サイモン・ピーター、濱田美和）、後期は専任教員3人（副島健治、田中信之、濱田美和）がオリエンテーションを行った。オリエンテーションの案内は、国際機構のホームページに掲載する他、日本語、英語、中国語の3カ国語表記で作成した案内を五福キャンパス内の各学部及び国際機構棟談話室に掲示した。国際機構のホームページでは、時間割や授業概要（日本語、英語版を用意）の閲覧、そして、受講申請書をPDFファイルとしてダウンロードできるようにした。オリエンテーションでは、受講希望者一人一人と国際機構専任教員が面談し、受講者の日本語習熟度に応じたクラスを紹介し、受講申請書の提出により、登録を行った。ただし、来日時期が遅れる学生等については、各クラスの担当者（初級クラスは田中信之、中級クラスは副島健治、上級クラスは濱田美和）が面談を行った上で、開講期間の途中からの受講も認めた。

5 授業内容

5.1 時間割

前期は週36コマ、後期は週35コマ授業を行った。前期の時間割を表1、後期の時間割を表2に示す。

表1 2019年度前期 日本語課外補講（五福）時間割

| 曜 | 限 | 初級クラス | 中級クラス | 上級クラス | |
|---|---|----------------|-----------|---------------|-----------|
| 月 | 1 | | 文法 A1（横堀） | | |
| | 2 | | 文法 A1（横堀） | 表現技術 C1（濱田） | |
| | 3 | | | 聴解・会話 B1（横堀） | |
| | 4 | | | 漢字 B1a（濱田） | |
| 火 | 1 | | 文法 A1（要門） | 文法・読解 B1a（副島） | |
| | 2 | 生活日本語 A1a（バハウ） | 文法 A1（要門） | 文法・読解 B1a（副島） | 漢字 C1（濱田） |
| | 3 | | 漢字 A1（高島） | 漢字 B1b（水田） | 聴解 C1（要門） |
| | 4 | | | | |

| | | | | | |
|---|---|----------------|---------------|----------------|--------------|
| 水 | 1 | | 文法 A1 (要門) | 文法・表現 B1a (中河) | |
| | 2 | | 文法 A1 (要門) | 文法・表現 B1a (中河) | |
| | 3 | | | | 会話 C1 (高島) |
| | 4 | | | | 日本文化 C1 (中河) |
| 木 | 1 | | 文法 A1 (横堀) | 文法・表現 B1a (要門) | 文法 C1a (濱田) |
| | 2 | 生活日本語 A1b (副島) | 文法 A1 (横堀) | 文法・表現 B1a (要門) | 文法 C1b (濱田) |
| | 3 | | 聴解・会話 A1 (横堀) | 作文 B1a (田中) | 作文 C1 (要門) |
| | 4 | | | | 読解 C1 (田中) |
| 金 | 1 | | 文法 A1 (田中) | 文法・読解 B1b (副島) | |
| | 2 | | 文法 A1 (田中) | 文法・読解 B1b (副島) | |
| | 3 | | | 文法 B1 (田中) | |

* 1限 8:45～10:15, 2限 10:30～12:00, 3限 13:00～14:30, 4限 14:45～16:15

表2 2019年度後期 日本語課外補講 (五福) 時間割

| 曜 | 限 | 初級クラス | 中級クラス | 上級クラス | |
|---|---|----------------|---------------|----------------|--------------|
| 月 | 1 | | 文法 A2 (中野) | 文法・表現 B2a (田上) | |
| | 2 | | 文法 A2 (中野) | 文法・表現 B2a (田上) | |
| | 3 | | | 漢字 B2 (濱田) | 聴解 C2 (田上) |
| | 4 | | | | 漢字 C2 (濱田) |
| 火 | 1 | | 文法 A2 (田中) | 文法 B2 (中野) | |
| | 2 | 生活日本語 A2a (副島) | 文法 A2 (田中) | 聴解・会話 B2 (中野) | 表現技術 C2 (濱田) |
| | 3 | | 聴解・会話 A2 (藤田) | | 読解 C2a (田中) |
| | 4 | | | | 読解 C2b (藤田) |
| 水 | 1 | | 文法 A2 (田中) | 文法・読解 B2a (副島) | |
| | 2 | | 文法 A2 (田中) | 文法・読解 B2a (副島) | |
| | 3 | | | | 会話 C2 (要門) |
| | 4 | | | | 作文 C2 (要門) |
| 木 | 1 | | 文法 A2 (田上) | 文法・読解 B2b (副島) | |
| | 2 | | 文法 A2 (田上) | 文法・読解 B2b (副島) | 文法 C2 (濱田) |
| | 3 | | 漢字 A2 (高島) | 作文 B2 (濱田) | 日本文化 C2 (田上) |
| | 4 | | | | |
| 金 | 1 | | 文法 A2 (田中) | 文法・表現 B2b (松岡) | |
| | 2 | 生活日本語 A2b (副島) | 文法 A2 (田中) | 文法・表現 B2b (松岡) | |

* 1限 8:45～10:15, 2限 10:30～12:00, 3限 13:00～14:30, 4限 14:45～16:15

5.2 初級クラスの授業内容

初級クラスでは、前期、後期ともに、午前は月曜日から金曜日まで毎日2コマ連続で「文法」の授業を行った。午後は「聴解・会話」、「漢字」の授業を各科目とも週1回1コマ行った。また、毎日、日本語の授業に出席することが困難な学生のために、「生活日本語」を開講し、前期と後期ともに週2

コマ、授業を行った。

「文法」の授業週（10コマ）では、『みんなの日本語 初級』Ⅰ、Ⅱ第2版（スリーエーネットワーク）をメインテキストとして、教科書を1日1課ないしは2日に1課のペースで初級文型の導入及びその定着のための練習を行った。授業の最初に、『毎日の発音練習』（独自開発教材）を用いた発音練習、語彙テスト（前課のディクテーションを含む）も適宜取り入れた。

表3 初級クラス「文法」（『みんなの日本語 初級』）の授業進度

| | | | | | |
|-----|---------|-----------|------|---------|-----------|
| 第1週 | 1課～3課 | | 第9週 | 28課～30課 | |
| 第2週 | 4課～6課 | 1課～6課試験 | 第10週 | 31課～33課 | 26課～32課試験 |
| 第3週 | 7課～12課 | | 第11週 | 34課～37課 | |
| 第4週 | 13課～14課 | 7課～12課試験 | 第12週 | 37課～39課 | 33課～38課試験 |
| 第5週 | 15課～18課 | | 第13週 | 40課～43課 | |
| 第6週 | 19課～21課 | 13課～18課試験 | 第14週 | 44課～45課 | 39課～45課試験 |
| 第7週 | 22課～25課 | | 第15週 | 47課～50課 | |
| 第8週 | 26課～27課 | 19課～25課試験 | | | |

「聴解・会話」の授業では、初級クラス「文法」の時間に学んだ文法事項を定着させるため、『みんなの日本語初級 聴解タスク25』（スリーエーネットワーク）を中心に様々な聴解練習を行った。また、応用会話練習を行い、聞く力と話す力、コミュニケーション能力を伸ばすことを目指した。

「漢字」の授業では、『(新版) Basic Kanji Book Vol.1』（凡人社）をメインテキストとし、漢字を勉強するために必要な知識を身につけると同時に、漢字の読み書きが正確にできるようになることを目指した。

「生活日本語」の授業では、『Basic Japanese for Students はかせ』〈1〉（スリーエーネットワーク）をメインテキストとして、1回の授業で1課進むペースで初級文型の導入及び会話力を伸ばすための練習を中心に行った。

5.3 中級クラスの授業内容

中級クラスでは、前期は、「文法・表現」、「文法・読解」の授業を各科目とも週2日2コマ連続で各4コマ、「漢字」、「文法」、「聴解・会話」、「作文」の授業を各科目週1コマ行った。後期は、「文法・表現」、「文法・読解」の授業を各科目週2日2コマ連続で各4コマ、「漢字」、「文法」、「聴解・会話」、「作文」の授業を各科目週1コマ行った。

「文法・表現」の授業では、『ジェイ・ブリッジ』（凡人社）をメインテキストとして、3コマの授業で1課進むペースで、初級の文型や表現を整理、復習するとともに、中級の文型や表現を導入し、それらを大学生活で遭遇する場面や様々なトピックに合わせて、運用できるよう談話練習なども行った。

「文法・読解」の授業では、『日本語中級 J 301』、『日本語中級 J 501』（スリーエーネットワーク）をメインテキストとして、『日本語中級 J 301』は1日（2コマ）の授業で1課進むペース、『日本語中級 J 501』は2日（4コマ）の授業で1課進むペースで、それぞれ中級の語彙や文法事項を導入し、主に読解の力を伸ばすための練習を行った。

「文法」の授業では、『初級日本語文法総まとめポイント20』（スリーエーネットワーク）をメインテキストとして、初級文型の復習として整理・確認を行った。

「聴解・会話」の授業では、前期は「話すこと」に焦点を置き、ディスカッション、ショートプレゼンテーションなど、様々なタスクを行った。後期は、日本の社会や文化を題材としたニュース、友人同士、学生と教員、初対面の人同士の会話などを教材として使用し、聴解を中心に練習を行った。

「漢字」の授業では、『INTERMEDIATE KANJI BOOK 漢字 1000PLUS』Vol.1 (凡人社) を用いて、漢字・漢字語の読み方、書き方及び意味・用法の全体的な指導を行った。

「作文」に関しては、前期の授業では、自分の考えを、根拠を挙げて筋道を立てて書けるようにすること、文法・語彙・表現を適切かつ効果的に使用できるようにすることを目標とし、作文の基礎を学び、協働的作業も行いながら、論理的な文章が書けるように練習を行った。後期の授業では、『小論文への12のステップ』(スリーエーネットワーク) をメインテキストとして、論理的な文章を書くための構成や表現を学び、練習を行った。

5.4 上級クラスの授業内容

上級クラスでは、前期、後期ともに、「読解」の授業は前期週1コマ、後期は週2コマ行った。「文法」の授業は前期週2コマ、後期週1コマ行った。「作文」、「聴解」、「会話」、「表現技術」、「日本文化」、「漢字」の授業をそれぞれ週1コマ行った。

「読解」の授業は、前期は「読解C1」の1科目、後期は「読解C2a」と「読解C2b」の2科目を設けた。「読解C1」「読解C2a」は、協働的な活動を通して批判的に読む能力を身につけることを目標とし、テキストの理解を深め、クラスメイトへの理解を深め、自分自身の考えを深め、自分のことを振り返ることができるように練習を行った。「読解C2b」は『新完全マスター読解 日本語能力試験N1』(スリーエーネットワーク) をメインテキストとし、文章のしくみを理解し、細かい部分を正確に読み取る練習を行った。また、各人の漢字語彙力向上のサポートとして、語彙マップを用いての漢字語彙の導入、自宅学習後の小テストをクラス内で行った。

「文法」の授業では、前期は「文法C1a」「文法C1b」のレベル別の2科目、後期は「文法C2」の1科目を設けた。「文法C1a」では『TRY! 日本語能力試験N2文法から伸ばす日本語 改訂版』(アスク出版)、「文法C1b」では『TRY! 日本語能力試験N1文法から伸ばす日本語 改訂版』(アスク出版) をメインテキストとし、大学での学習、研究生活に必要な上級レベルの文法・表現について、演習形式で確認した。日本語能力試験の受験対策もあわせて行った。後期の「文法C2」では『日本語能力試験レベルアップトレーニングN1』(アルク) をメインテキストとして、前期と同様に演習形式で授業を行った。

「作文」の授業では、実際のレポートや論文を分析しながら、論理展開の仕方、構成、表現を学ぶことで、論理的な文章を書くための基礎力を身につけることを目標年、練習を行った。同時にレポート作成上のルールも学び、自身が選んだテーマでレポートを書き進め、そのレポートを提出した。

「聴解」の授業では、聴解教材とあわせて、テレビやラジオ、インターネットなど、様々なメディアを用いて、大学生活や日常生活に必要な聴解練習を行った。

「会話」の授業では、大学生活や日常生活で出会う状況での会話力を伸ばし、より適切に会話の目的が果たせるように練習を行った。また、専門において必要な口頭発話能力を伸ばす活動(発表、スピーチ、討論など)を行った。

「表現技術」の授業では、目上の人とのやり取りや、不特定多数の人に対して情報発信する際に必要となる、フォーマルな場で用いられる日本語の表現を確認した後、メールやメモなど日常的・実用的な文章の書き方やプレゼンテーション・スライドを利用した口頭発表の練習を行った。

「日本文化」の授業では、テレビ番組、アニメ映画、漫画、新聞・雑誌記事、自治体広報などの様々なメディアを使用して、現代日本の流れ、若者の声、教育問題、ジェンダーといった視点から現代日本社会の問題を考えた。

「漢字」の授業では、『漢字 1000PLUS INTERMEDIATE KANJI BOOK』Vol.2 (凡人社) を使用して、読み方、書き方及び意味・用法の全体的な指導を行った。

6 試験

初級クラス「文法」「聴解・会話」では、7回の定期試験を実施した。定期試験の内容は、筆記試験、聴解試験、会話試験である。初級クラス「生活日本語 a」及び「生活日本語 b」では中間試験と期末試験を、「漢字」では数回の確認テストと期末試験を実施した。

中級クラスでは、「文法・表現」「文法」「聴解・会話」「作文」はそれぞれ中間試験と期末試験を、「文法・読解」は3回の定期試験を実施した。「漢字」は毎回の授業での確認テストと2回の定期試験を実施した。

上級クラスでは、「読解 C 2b」「文法」「聴解」「表現技術」はそれぞれ期末試験を実施した。「漢字」は毎回の授業での確認テストと2回の定期試験を実施した。「読解 C 1」「読解 C 2a」「作文」「日本文化」は期末レポートを、「会話」「表現技術」「日本文化」は発表を課した。

7 カリキュラムについてのアンケート結果

日本語課外補講の受講者に対して、授業内容とカリキュラムに関するアンケート調査を前期と後期の授業期間中に実施したが、ここではカリキュラムに関するアンケート結果をまとめる。

カリキュラムに関するアンケート調査は、1人の学生が複数の科目を受講している場合も、1回のみ回答する形とした。表4に前期、表5に後期の結果をまとめた。なお、自由記述については、基本的に学生が記述したとおりに掲載している。

表4 前期のカリキュラムについてのアンケート結果（回答者 20人）

| | |
|-----------------------------------|--|
| 1. どこでオリエンテーションのことを知ったか (複数回答) | オリエンテーション出席者(16人) ・オリエンテーションの掲示を見た(5人) ・専門の先生にきいた(5人) ・国際機構の先生にきいた(2人) ・事務の人にきいた(1人) ・友だちにきいた(3人) ・その他(0人) |
| 日本語課外補講をどこで知ったか (複数回答) | オリエンテーション欠席者(5人) ・専門の先生にきいた(2人) ・国際機構の先生にきいた(0人) ・友だちにきいた(3人) ・事務の人にきいた(0人) ・その他(0人) ・無回答(0人) |
| 2. どのクラスに出席したか | 初級：6人 中級：5人 上級：10人 |
| 3. 授業科目数の希望 | 今のままでいい(20人)：初級6人，中級4人，上級10人 多くしてほしい(0人) 少なくしてほしい(1人)：中級1人 |
| 4. 授業科目の希望 | 今のままでいい(17人)：初級6人，中級4人，上級7人 新しい科目を作ってほしい：中級2人，上級2人 →見学，発音，今はわからない |
| 5. 来期の授業時間帯の希望 | いつでもいい(5人)：初級1人，中級2人，上級2人 専門の時間割がわからないので答えられない(5人)：初級1人，中級2人，上級2人 午前1・2限(6人)：初級2人，中級1人，上級3人 午後3・4限(4人)：初級2人，上級2人 その他(1人)：上級1人…(月金以外です) |

その他

- ・ All my Japanese teachers are so professional and patient, I will try my best study harder than last semester. (初級)
- ・ もっと日本文化を勉強したい。(中級)
- ・ 先生はとってもいいです (中級)
- ・ ときどき専門のゼミがあるから、授業にいけないから、すみません。(上級)

表5 後期のカリキュラムについてのアンケート結果（回答者 22 人）

| | |
|-------------------------------|--|
| 1. どこでオリエンテーションのことを知ったか（複数回答） | オリエンテーション出席者（16人） ・オリエンテーションの掲示を見た（3人） ・専門の先生にきいた（6人） ・国際機構の先生にきいた（2人） ・事務の人にきいた（3人） ・友だちにきいた（5人） ・その他（0人） ・無回答（1人） |
| 日本語課外補講をどこで知ったか（複数回答） | オリエンテーション欠席者（6人） ・専門の先生にきいた（3人） ・国際機構の先生にきいた（2人） ・友だちにきいた（0人） ・事務の人にきいた（1人） ・その他（2人）：前学期にオリエンテーションに参加しました1人、授業を取ったことがあります1人 ・無回答（0人） |
| 2. どのクラスに出席したか | 初級：11人 中級：5人 上級：6人 |
| 3. 授業科目数の希望 | 今のままでいい（20人）：初級10人，中級4人，上級6人 多くしてほしい（1人）：初級1人：ちょうかいのじかんをながくしてほしい。 少なくしてほしい（1人）：中級1人 |
| 4. 授業科目の希望 | 今のままでいい（21人）：初級11人，中級4人，上級6人 新しい科目を作してほしい（1人）：最近のこと，ニュース，テレビ番組についてのクラスがあつてほしいです。中級1人 |
| 5. 来期の授業時間帯の希望（複数回答） | いつでもいい（1人）：中級1人 専門の時間割がわからないので答えられない（10人）：初級5人，中級1人，上級4人 午前1・2限（7人）：初級4人，中級2人，上級1人 午後3・4限（2人）：初級3人，中級1人，上級1人 その他（1人）：上級1人…（帰国予定） |

その他

- ・授業の時間の希望は午前中がいい。午後は専門があります。（初級）
- ・Each lesson should have 2 days to learn.（初級）
- ・Listening skill should more practice.（初級）
- ・日本語をべんきょうするのはたのしいです。（中級）
- ・今回のコースはすばらしいと思います。そのおかげで研究を進めることができるようになったと思います。（上級）

オリエンテーション出席者は例年どおり，約7割で専門教員や国際機構教員，事務から情報を得ている。また，授業科目数の希望や授業科目の希望を見ると，現状を満足していることが窺える。ただし，聴解の授業数を増やしてほしい，時事的な話題を扱うクラスを新設してほしいなど，少数の意見も耳に留めておかなければならない。授業時間帯については，「いつでもいい」と「専門の時間割がわからないので答えられない」という回答が多かった。

8 おわりに

今年度後期は受講者数が96名と，100名に届くほど増加した。その一方で，一昨年度より授業数が減少しており，受講生のレベルに合った授業を実施することが難しくなっている。授業アンケートからは，現状の授業数や受講科目に否定的な意見は見られないが，学習者のレベルやニーズを把握し，初級・中級・上級の各クラスの適切な授業数，授業科目を常に模索していかなければならない。

ライデン大学短期日本語研修プログラム報告 (2019年4月～7月)

田中 信之

1 はじめに

ライデン大学短期日本語研修プログラムは、オランダのライデン大学からの交換留学生のために、2017年度4月に開設したプログラムである。通常、富山大学に交換留学生として来日する学生は、受け入れ学部で富山での生活に関する支援や助言を受けながら、国際機構で日本語課外補講若しくは総合日本語コースを受講し、日本語を学習する形となっている。ライデン大学からの留学生については、形式上は人間発達科学部の交換留学生ではあるが、生活・修学の責任を国際機構が持ち、3ヶ月間の短期日本語研修プログラムを設け、受け入れを行っている。

以下、3期目となった、2019年度ライデン大学短期日本語研修プログラムの実施状況について報告する。

2 受講者

2019年度ライデン大学短期日本語研修プログラムには10人の学生が参加した。国籍は全員がオランダであった。

3 授業担当者

2019年度は、国際交流センター専任教員4人（副島健治、田中信之、バハウ・サイモン・ピーター、濱田美和）、及び非常勤講師4人（中河和子、水田佳歩、要門美規、横堀慶子）が授業を担当し、専任教員の田中信之がコーディネートをを行った。

4 スケジュール

2019年度は、参加学生10人が4月8日に富山に到着し、7月6日にオランダへ帰国するというスケジュールであった。ライデン大学の学生は3ヶ月の短期滞在となるため、11週間でプログラムを組み、開講した。以下は主なスケジュールである。

| | | |
|-------|------------|------------------------------------|
| 2019年 | 4月 8日 (月) | 富山に到着 |
| | 4月 10日 (水) | 開講式, オリエンテーション, 学内案内 |
| | 4月 11日 (木) | 授業開始 |
| | 4月 24日 (水) | オランダ友好交流協会との交流: となみチューリップフェア訪問 |
| | 5月 29日 (水) | 富山市役所訪問・森市長との懇談 富山市ガラス工房訪問・制作体験 |
| | 6月 19日 (水) | 高岡キャンパス訪問, 和紙工芸制作, 学生交流 |
| | 6月 26日 (水) | 富山大学附属小学校訪問 |
| | 7月 2日 (火) | 高岡キャンパス訪問, 見学・学生交流 |
| | 7月 4日 (木) | 授業終了・修了式 |
| | 7月 6日 (土) | オランダへ帰国 |

5 授業内容

授業は、月曜日から金曜日まで1日2コマから3コマで、中級クラスの科目を受講した。必修科目は、「文法・読解 B1ab」、「文法・表現 B1b」、「聴解・会話 B1」、「漢字 B1a」、「作文 B1」の5科目とした。また、選択科目として「漢字 B1 b」、「文法・表現 B1a」、「文法 B1」の受講も可能とした。また、特別指導の時間も設けた。これは学生個人の学習状況やニーズに合わせた指導、生活上の問題への対応や相談を行うことを目的とした科目である。個別ないしはグループで指導を行った。以下の表1に時間割を示す。

表1 2019年度ライデン大学短期日本語研修プログラム時間割

| | 1限 (8:45～10:15) | 2限 (10:30～12:00) | 3限 (13:00～14:30) | 4限 (14:45～16:15) |
|-----|--------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 月曜日 | | | 聴解・会話 B1 (横堀) | 漢字 B1a (濱田) |
| 火曜日 | 文法・読解 B1a (副島) | 文法・読解 B1a (副島) | 漢字 B1b (水田) | |
| 水曜日 | 文法・表現 B1a (中河) | 文法・表現 B1a (中河) | | |
| 木曜日 | 文法・表現 B1a (要門) | 文法・表現 B1a (要門) | 作文 B1 (田中) | |
| 金曜日 | 文法・読解 B1b (副島) | 文法・読解 B1b (副島) | 文法 B1 (田中) | |

*網掛けは選択科目、それ以外は必修科目である。

*特別指導は、担当教員が学生と相談の上、曜日・時限に設定した。

各科目の授業内容は、「日本語課外補講報告」の「中級クラスの授業内容」を参照していただきたい。「特別指導 B1」は、専任教員4人（副島健治、田中信之、バハウ・サイモン・ピーター、濱田美和）がそれぞれ2人ないしは3人の学生を担当し、学生の希望や必要に応じて、個別若しくはグループで指導を行った。

6 成績評価

ライデン大学短期日本語研修プログラムにおける成績評価は、必修科目（「文法・表現 B1a」、「文法・読解 B1ab」、「聴解・会話 B1」、「漢字 B1a」、「作文 B1」）の点数をまとめ、総合成績を出す形とした。

「文法・表現 B1a」、「聴解・会話 B1」と「作文 B1」では1回の定期試験を、「文法・読解 B1ab」では2回の定期試験を実施した。「漢字 B1a」は毎回の授業での確認テストと1回の定期試験を実施した。これらの5科目の点数から総合成績を出した。

選択科目については、総合成績とは別に、学業成績通知書に評価を記載した。「特別指導 B1」については、評価は行わず、出席率を学業成績通知書に示す形とした。

7 プログラムについてのアンケート結果

ライデン大学短期日本語研修プログラムの参加者に対して、授業内容及びプログラム改善のために、プログラム全体に関するアンケート調査を行った。このアンケートには、プログラム全体、日本語の上達度、授業科目数、特別指導、国際機構のサポート体制等について尋ねる質問項目を用意した。

以下、表2にアンケート結果をまとめた。なお、自由記述については、基本的に学生が記述したとおりに掲載しているが、間違いに応じて適宜修正を加えた。

表2 ライデン大学短期日本語プログラムについてのアンケート結果 (回答者 10 人)

| 質問及び回答結果 (延べ数) | 自由記述 |
|--|---|
| <p>1. プログラム全体 とても満足 (0 人) 満足 (5 人) 普通 (5 人) 少し不満 (0 人) 不満 (0 人)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ It was very fun and educative, but the reality is that the level of classes did not always seem to connect to well to the Leiden curriculum (either too hard or too easy.) ・ It was educational and fun. Sadly my health wouldn't allow me to come frequently to the classes, but the classes that I could follow were very fun. ・ The lessons really had varying degrees of difficulty. I often didn't feel like I was learning anything from the lessons and was only there in order to better my listening skills on account of the teacher's Japanese (mostly in the beginning). I didn't feel like all the tests necessarily matched the lessons. With this I refer to the fact that some tests were either strangely easy or suddenly difficult (difficult mostly due to a sudden jump in the amount of teachings that needed to be learned and remembered for the test). ・ I feel like the focus on vocabulary could have been better. Since we hardly use Japanese in the Netherlands, a large part of the difficulty is actually having a limited vocabulary and trouble remembering many words. Words we looked at in the lessons were often not used after one particular lesson, which made me forget them often. Meanwhile, the words we did have to learn for a couple of small tests were usually not useful. There was for example the word 'contrasting colour'. I get that this might be useful in some situations, but for people still learning the language, the effort of remembering would be much better spent on learning words we could actually use in daily life. ・ The language program was quite the challenge for me since the education system/learning system is quite different than the one in the Netherlands. Because there is a big focus on remembering different grammar structures and kanji, but not much focus on applying it in real life. |
| <p>2. 日本語の上達度 とても上手になったと思う (1 人) 上手になったと思う (1 人) 少し上手になったと思う (8 人) あまり上手にならなかったと思う (0 人) ぜんぜん上手にならなかったと思う (0 人)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ Of course it got better, definitely because I have been in Japan for 3 months, but the truth is also that being here has taught me that I still have a long way to go. ・ 自信が大きくなりましたが、新しい文法を使いませんでした。 ・ In the end I feel like I have learned more from speaking a lot with Japanese people than by some of the classes. ・ While I believe I am much better now at having a conversation with someone, I am often still searching for words or considering which grammatical construction would be best for me to explain what I want to say. I must say that there is a great improvement in how I feel about talking now. I used to get kind of stressed because the Japanese language is kind of an unfamiliar territory for me, making it so that I sometimes shut out what it is someone is saying purely because I was kind of stressed out by the language. I have that a lot less now, only when people for example give a speech I get sort of nervous because I can't follow the pace of a person speaking fluently on subjects I am not all that familiar with in terms of vocabulary. I am trying to become better, and I certainly believe that the large amount of talking the teachers do in the lessons has helped my understanding. Since basically all Japanese people I've met are very nice, I am also not afraid to make mistakes whilst talking, which has helped me practice. I do wish in the lessons there had been a little more opportunity for speaking with Japanese people, but I understand that this would be difficult to arrange with a large group. The kaiwa lessons in which we had to speak with Japanese people did motivate me to try to improve my speaking, since everyone in the group was counting on you to keep conversing. ・ I still have a long way to go, but I believe I have made some important steps in my time here in getting used to the language as well as just improving myself through trial and error. ・ I did learn new grammar structures but wasn't able to apply them to real life situations. A small amount of the kanji I have learned over the last 3 months have appeared all around the city of Toyama and outside Toyama, so I was able to apply my new learned words in real life and was able to read them. The thing that probably improved to most is my conversation skill in Japanese. Not only did I gain more confidence in speaking Japanese, but I'm also able to speak Japanese with people and make them understand what I'm saying. Something I wasn't really able to do before I came to Toyama. |

| | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ Because the focus of the program and the lessons seemed to be on training vocabulary, there wasn't enough time to focus on grammar and practice with the grammar. I feel like I only became a little better because of my improved listening and writing skills. ・ いつどこでも日本語が使えるから。 ・ I've gained a bit more confidence in conversations. |
| <p>3. どのスキルが上達したか 聞くこと (2人) 話すこと (8人) 読むこと (0人) 書くこと (1人) その他 (0人) *1名の学生は「聞くこと」と「話すこと」の2つを選択していた。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ It says to only choose 1, I understand, but I chose listening and speaking because I believe these skills are both part of the "conversation" skill. Being here has removed many worries about actively using Japanese from person-to-person. The daily requirements to use the language, whether it be in class, with (Japanese) friends, or even in the supermarket has definitely had a positive effect on both listening and speaking. ・ 聞くことは最も勉強しなければならない。私にとってよく他の人々は話しすぎた。人々が様々話し言葉を使うとき、その言葉がわからなかったからミスコンが起きた。でもこれは私の日本語能力の不足と思う。 ・ I have more confidence in speaking now, which also was my main goal. ・ Since no one could really speak English, I was forced to try my best at Japanese. Due to no real life practice, my speaking skills were pretty bad before coming to Japan. Now I do always try to keep up with speaking Japanese and I'm also not scared to try even though I might make mistakes. I've become more accepting of my speaking skills and have had to practice them a lot so they have definitely improved most. ・ The thing that probably improved to most is my conversation skill in Japanese. Not only did I gain more confidence in speaking Japanese, but I'm also able to speak Japanese with people and make them understand what I'm saying. Something I wasn't really able to do before I came to Toyama. |
| <p>4. 授業科目数 ちょうどいい (8人) もっと多いほうがいい (0人) もっと少ないほうがいい (2人) どの授業がなくてもいいか 文法・表現 B1a (1人)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 文法読解と文法表現の違いをあまりわからなかった。もしかしたら、この授業を合併しなくてはいけなから。 ・ The number of classes is fine in my opinion. |
| <p>5. 特別指導 とても役に立った (2人) 役に立った (4人) 普通 (3人) あまり役に立たなかった (1人) ぜんぜん役に立たなかった (0人)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 困る時、本当に便利だと思います。 ・ Hamada-sensei helped me out when I needed it and also made sure I was okay and had a good time. ・ The mentor meetings we've had were mainly there to check how are Japanproject was going and to tell about the different places we've been to. They weren't extremely necessary in my opinion but they did make sure we connected with our teachers/mentors. ・ 普通の話ばかりした。 |
| <p>6. 何か困ったことや心配なことがあった時、特別指導の先生に相談したか はい (8人) いいえ (0人) 困ったことや心配なことはなかった (2人)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ Due to the Japanproject, we lost quite a bit of time which could have been spent on making homework or go to other places in Toyama. |
| <p>7. 国際機構のサポート体制 とても満足 (3人) 満足 (6人) 普通 (1人) 少し不満 (0人) 不満 (0人)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 他の留学生は日本で勉強することがよく分かりますから、サポート体制は満足でした。 ・ Everyone was always very nice and prepared to help, which made me feel very welcome. ・ At the time of the leakage in my apartment, I was helped quite quickly by contacting my student tutor and Kurimoto-san. They both helped me out quite a lot and quick as well. The business cards we received from the teachers were also very handy in contacting them. ・ 栗本さんの相談は大変よかった。 |

| | |
|---|--|
| <p>8. 授業以外で参加した活動について</p> <p>①オランダ友好交流協会会員との交流・となみチューリップフェア参加 とても満足 (3人) 満足 (6人) 普通 (0人) 少し不満 (0人) 不満 (0人) 欠席 (1人)</p> <p>②市役所訪問・富山ガラス工房制作体験 とても満足 (5人) 満足 (3人) 普通 (0人) 少し不満 (0人) 不満 (0人) 欠席 (2人)</p> <p>③高岡キャンパス訪問 とても満足 (3人) 満足 (1人) 普通 (0人) 少し不満 (0人) 不満 (0人) 不参加 (6人)</p> <p>④富山大学附属小学校訪問 とても満足 (6人) 満足 (2人) 普通 (0人) 少し不満 (0人) 不満 (0人) 不参加 (2人)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・あのニュースのことはちょっと急であったと思う。びっくりした! ・It was very pretty and interesting, but the interview was a bit embarrassing. ・I think it's really cool that we got the opportunity to go there and I was surprised at how happy everyone seemed that we were there. While the fair was not all that special to me since we have a lot of tulips in the Netherlands, the people there really made it worthwhile. They really had a way of making you feel like honored guests and they were all really nice people! ・I would have loved to go on more trips outside the lessons, but due to Japanproject we didn't have that much time to go on more trips. ・The unexpected presence and interviews of the press made the trip a little less relaxed. ・市役所で丁寧を使わなければなりません。 ・I thought it was heartwarming that the mayor received us so warmly and that the Dutch flag was hung on display outside. It was a little nervewrecking for me since I was afraid I would mess up my Japanese, and the mayor's speech was a bit hard for me to follow, but I felt very welcomed by these people. It was clearly visible they tried their best to prepare for our visit and they also took time out of their day to receive us and I thought that was really really nice. Couldn't have asked for a more welcoming experience. ・The glasfactory made my heart sing. I can't believe I got to do that! I think I don't need to elaborate on how much fun this was for me, since I don't think there's a single picture from that day where I'm not smiling like crazy. That was an incredible opportunity with, again, many nice people and I love that I got to take my own design home! ・Both were very enjoyable. I was quite nervous at the Mayor's office, but both the Mayor's visit and the Glass factory were an experience to never forget. Would love to go back to the Glass factory. ・Sadly I was a little late for this activity, but the enthusiasm with which everyone did their best to explain their work to us was truly great. I was really impressed by all the amazing art and I really liked how everyone took their time to answer all my questions. ・To me Takaoka Campus felt like my dream university. I was very happy I could go there and experience what it was like to go there. I'm also very happy that I can go again tomorrow. ・美術ばかりだから興味がない。 ・小学校訪問の時、病気でしたから、増田先生と他の小学校に行きました。本当に楽しかった。 ・私にとってこのような旅行で日本の生活について一番勉強になった。チューリップフェアや市役所訪問と一緒にこのような旅が未来にもっと行ってください! ・The children were really sweet and enthusiastic! It was a lot of fun to talk to them! ・I really enjoyed the time at the middle school and it was also very interesting in seeing how a Japanese Middle school is run. The children were very excited to get to know us and play games with us. I would definitely recommend the people of next year to join this activity. |
| <p>9. その他、国際機構の日本語研修プログラムについて気がついたことや感じたこと</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・I have mentioned this a few times, but the level isn't quite compatible to what we have learned before. It did not always connect too well. In the end I am however happy with all we have learned and done. ・It was a lot of fun! I'm glad I was assigned a wonderful tutor, Miuna, who helped me a lot and who went out to do fun things with me and classmates. I'm also very happy I was able to join the scuba diving club. Because of that I met many wonderful people and was able to get my license and really feel like I was part of the club. My personal guidance teacher Hamada-sensei also helped me out a lot and was really nice to me. I was able to learn a lot and become more confident in my conversation skill because of all of the great people I have spoken with. I really made many wonderful memories and new friends and thanks to the program this was made possible. ・I think the lessons were usually too long. While we had 3 hour lessons, I didn't feel like we made much progress in those hours. The lessons should either have been shorter or more useful. I don't believe it's necessary to spend an hour and a half solely on checking homework. |

| | |
|--|--|
| | <p>・ I feel like the amount of words that the teachers expected us were too much along with the classes. We all felt like we were overwhelmed at times by the sheer number of vocabulary words that we needed to know with every test. The number of classes were good, but with the added workload of so much vocabulary and so many tests in these three months, I felt like I would have been better off with more grammar and less words, because I'm not going to remember all of them. I think it's a shame because I really enjoyed the lessons but I only improved a little with this way of teaching.</p> |
|--|--|

授業以外の活動や特別指導，国際機構のサポート体制については，高い評価が得られた。授業以外の活動は自由記述を見ても，学生にとって貴重な機会になったことが窺える。今年度は全員参加と自由参加の活動を分けたことにより，学生は興味のある活動に参加することができたと思われる。これも満足度が高まった一つの要因ではないだろうか。

一方で，プログラム全体の評価では「満足」と「普通」が半々であり，自由記述には厳しい意見も見られた。ライデン大学と富山大学の授業の一貫性の欠如や，授業内容と試験の難易度の格差を指摘するコメントが見られた。また，語彙学習についてビリーフが学生と担当教員で異なることも浮き彫りとなった。

8 おわりに

ライデン大学短期日本語プログラムの3年目が終了した。1，2年目の反省を踏まえて改善を図った結果，プログラム自体が軌道に乗ったと言えるのではないだろうか。しかしながら，上で述べたように，学生の率直な意見から日本語の授業を改善する余地は残されている。今後もライデン大学教員・留学担当者，国際機構教員，国際機構非常勤講師との連携を密にし，プログラムをより良いものにしていきたい。

総合日本語コース報告 (2018年10月～2019年8月)

濱田 美和

1 はじめに

総合日本語コースは、日本語・日本文化研修留学生のために、2004年10月に開設した日本語プログラムである。富山大学の外国人留学生全体の中で、日本語・日本文化研修留学生の占める割合は低い。そのため、本コースの授業科目はいずれも日本語課外補講上級及び中級クラスとの合同授業として開講している。2005年9月に初めて本コースの修了生を送り出し、2018年10月に15期目の学生を迎えた。

以下、2018年度秋期(2018年10月～2019年2月)及び春期(2019年4月～8月)の総合日本語コースの実施状況について報告する。

2 受講学生

2.1 日本語・日本文化研修留学生

「2018年度富山大学日本語・日本文化研修留学生プログラム」に参加した学生は4人で、秋期、春期ともに総合日本語コースを受講した。学生の出身国・地域はインドネシア、チリ、ベトナム、ベルギー各1人で、所属は人文学部と人間発達科学部各2人だった。

総合日本語コースの授業科目として、2018年度は秋期に上級9科目と中級6科目、春期に上級9科目と中級7科目を提供した。総合日本語コースの授業科目は必修科目ではないが、本学の日本語・日本文化研修留学生プログラムの修了要件の一つとして、学部や教養教育の授業科目及び総合日本語コースの授業科目の中から各期8科目以上の履修が義務づけられている。2018年度の日本語・日本文化研修留学生の総合日本語コースの受講状況は11科目が2人(1人は秋期5, 春期6, もう1人は秋期4, 春期7), 9科目(秋期5, 春期4)が1人, 8科目(秋期4, 春期4)が1人だった。

2.2 協定校からの短期留学生

総合日本語コースは、日本語・日本文化研修留学生のために開設した日本語プログラムであるが、2006年10月より、本学との学術交流協定に基づく短期留学生も総合日本語コースに参加可能となり、中級レベル以上の日本語力を有する短期留学生は総合日本語コースを受講している。短期留学生については、留学期間が1年の学生が大半であるが、一部半年の学生がいること、また、留学期間が1年の学生についても秋期、春期のいずれかの期のみを受講する学生もいることから、期ごとに受講状況を述べる。

受講者数については、秋期は17人で、出身国・地域別の内訳は中国が9人、台湾が3人、韓国とロシアが各2人、ベトナムが1人、所属別の内訳は人文学部が8人、人文科学研究科が3人、経済学研究科が2人、経済学部、人間発達科学部、工学部、人間発達科学研究科が各1人だった。春期は20人で、出身国・地域別の内訳は中国が7人、台湾が5人、韓国が3人、ロシアが3人、アメリカとベトナムが各1人、所属別の内訳は人文学部が9人、経済学研究科が4人、経済学部が3人、人間発達科学部2人、人文科学研究科と人間発達科学研究科が各1人だった。

履修科目数については、秋期は7科目が1人, 5科目が2人, 4科目が2人, 3科目が4人, 2科目が1人, 1科目が7人, 春期は8科目が1人, 7科目が6人, 6科目が1人, 5科目が2人, 4科目が4人, 3科目が2人, 2科目が1人, 1科目が3人だった。

3 担当者

秋期は専任教員3人（副島健治、田中信之、濱田美和）、及び、非常勤講師6人（高島智美、田上栄子、中河和子、中野香保里、藤田佐和子、要門美規）、春期は専任教員3人（副島健治、田中信之、濱田美和）、及び、非常勤講師5人（高島智美、中河和子、水田佳歩、要門美規、横堀慶子）が授業を担当した。いずれの期も専任教員の濱田がコースのコーディネートをを行った。

4 スケジュール

秋期は、2018年10月9日（火）～2019年2月8日（金）を授業期間、2月12日（火）～2月18日（月）を補講期間とした。12月25日（火）～1月4日（金）は冬季休業、1月18日（金）は大学入試センター試験準備日のため、休講とした。また、曜日調整のため、11月21日（水）と1月15日（火）は月曜日、11月22日（木）は金曜日の授業を行い、2月4日（月）は休講とした。春期は、2019年4月11日（木）～8月2日（金）を授業期間、8月5日（月）～8月9日（金）を補講期間とした。曜日調整のため、5月9日（木）と7月12日（金）は月曜日の授業を行った。

学期ごとにコーディネーターの濱田がオリエンテーションを行った。実施日は、秋期は2018年10月4日（水）、春期は2019年4月4日（木）である。オリエンテーションでは、学生に各授業科目の目的、理解達成目標、授業計画等を掲載した授業概要の冊子（授業概要は国際機構ホームページ上にも掲載、Web版は日本語と英語での閲覧が可能）を渡し、コースの内容、各授業科目の詳細について説明を行った。春期のオリエンテーションでは、履修の際の参考となるよう、秋期の学業成績通知書を学生に渡している。履修登録は授業開始後2週間以内に行い、履修登録を行った授業科目について学期終了時に成績を出すシステムとしている。

5 授業内容

総合日本語コースは、上級及び中級レベルの日本語課外補講の授業と合同で授業を行っているが、日本語課外補講は成績評価が必要でないため、授業科目によっては必要に応じ、総合日本語コースの受講者だけに別課題や試験を課すなどの方法を取っている。科目別の授業概要は表1の通りである。科目名にCのついた授業は上級レベル、Bのついた授業は中級レベルである。多くの科目が秋期と春期で同一の授業概要（目的）となっているが、上級レベルの授業については、秋期に履修した科目を春期に続けて履修できるように、授業で取り上げるトピックやタスクの内容は期ごとに変えている。

表1 総合日本語コース授業概要（2018年10月～2019年8月）

| 授業科目名 (開講曜限)[担当] | 授業概要 |
|--|--|
| 秋期：読解 C2a (火4)[藤田] | 文章全体の意味を捉えたり、文章の細かい部分を読み取る練習をすることにより、大学での学習や研究に必要な日本語の基本的な読解能力と日本語能力試験に合格するために役立つ力を身につける。『新完全マスター読解 日本語能力試験 N1』(スリーエーネットワーク)を主教材として使用する。 |
| 秋期：読解 C2b (木4)[田中] 春期：読解 C1 (木4)[田中] | 大学での研究活動に必要な専門書、論文の読解能力の養成を目指して、様々な話題に関する文章を読み、仲間との対話を通して内容の理解を深める。さらに、新聞・雑誌記事や教養書を要約し、その内容をグループで討論することによって、批判的思考力を身につける。 |
| 秋期：文法 C2 (木2)[濱田] 春期：文法 C1a (木1)[濱田] 文法 C1b (木2)[濱田] | 大学での学習、研究に必要な上級の文法・表現を整理し、多くの練習問題を解きながら習得する。日本語能力試験受験対策も行う。秋期は『日本語能力試験 レベルアップトレーニング 文法 N1』(アルク)、春期は文法 C1aで『TRY! 日本語能力試験 N2 文法から伸ばす日本語 改訂版』(アスク出版)、文法 C1bで『TRY! 日本語能力試験 N1 文法から伸ばす日本語 改訂版』(アスク出版)を主教材として使用する。 |

| | |
|--|--|
| 秋期：作文 C2 (月 3)[田上] 春期：作文 C1 (木 3)[要門] | 論理的な文章を書くために必要な構成、表現、文法の基本を学び、学習した項目を用いてまとめた文章を書くことで、レポートや論文を書くための基礎力をつける。文章を書く練習にはコンピュータを使用する。 |
| 秋期：聴解 C2 (水 3)[要門] 春期：聴解 C1 (火 3)[要門] | 大学で講義を聞いたり、演習や研究会に参加したりする際に必要な聴解力や、日常生活に必要な聴解力を身につけるために、様々な種類の聴解練習を行う。日本語の聴解教材とあわせて、テレビやラジオ、インターネットなど、様々なメディアを用いた練習を行う。 |
| 秋期：会話 C2 (火 3)[高畠] 春期：会話 C1 (水 3)[高畠] | ロールプレイ等での会話練習を通して、大学生活や日常生活で出会う場面や状況での会話力を伸ばす。また、人や物、経験など様々なトピックについて日本語で的確に説明・描写する力、意見や感想を述べる力を養う。 |
| 秋期：漢字 C2 (月 4)[濱田] 春期：漢字 C1 (火 2)[濱田] | 日常生活や大学の講義で用いられている漢字・漢字語の意味を理解し、正しく読み、書き、使う力を身につける。『INTERMEDIATE KANJI BOOK 漢字 1000PLUS』 Vol.2 (凡人社) を主教材として使用する。 |
| 秋期：表現技術 C2 (月 2)[濱田] 春期：表現技術 C1 (月 3)[濱田] | 目上の人や初対面の人とやりとりする、あるいは、不特定多数の人に対して情報発信する際に必要となる、フォーマルな場で用いられる日本語の表現、日常的・実用的な文章の書き方、日本語での口頭発表のスキルを習得する。 |
| 秋期：日本文化 C2 (水 4)[中河] 春期：日本文化 C1 (水 4)[中河] | 留学生として日本社会を分析する試み(情報の読み取り、整理など)を TV 番組、新聞・雑誌記事、自治体広報などの様々なメディアを用いてする。日本社会を読み解くための身の回りのリソースを活用する手だてを与え、そこから得たものを日本語で発信する力を養成する。 |
| 秋期：文法・表現 B2a (火 1・2) [高畠], b (水 1・2)[中河] 春期：文法・表現 B1a (水 1・2) [中河], b (木 1・2)[要門] | 指定されたトピックについて自分の力で話を組み立てていくことを通して、大学生活・日常生活に必要な中級の日本語能力を身につける。『ジェイ・ブリッジ』(凡人社) を主教材として使用する。 |
| 秋期：文法・読解 B2a (木 1・2) [副島], b (金 1・2)[中野] 春期：文法・読解 B1a (火 1・2) [副島], b (金 1・2)[副島] | 様々なトピック内容の読み物を日本語学習の教材とし、大学での学習や研究に必要な日本語の言語能力の基礎力をつけ、同時にトピックの内容などを通して考える力を養成する。『日本語中級 J301』、『日本語中級 J501』(スリーエーネットワーク) を主教材として使用する。 |
| 秋期：文法 B2 (月 1・2)[副島] 春期：文法 B1 (金 3)[田中] | 初級の文法を復習しながら様々なトピックの読み物を読み、中級への足がかりとなる文法を学ぶ。また、大学での学習や研究に必要な考えをまとめる力を養うために、各トピックについての作文課題などを通して書く力を養成する。『中級へ行こう』(スリーエーネットワーク) を主教材として使用する。 |
| 秋期：作文 B2 (木 3) [濱田] 春期：作文 B1 (木 3) [田中] | 自分の考えを根拠を挙げて筋道立てて書けるようになること、また、協働的な活動を通して自律的な書き手となることを目指して、作文の基礎を学んだあと、意見文、要約文、説明文を書く練習を行う。 |
| 秋期：聴解・会話 B2 (火 3)[副島] | 中級の文法事項や語彙の習得を意識しながら、日本の大学で学生生活を送るうえで必要となる日本語能力の中で、特に聴く力を身につける。友人同士、学生と教員、初対面の人同士の会話を聞き取る練習をしながら、口語的な表現への理解を深め、それらを場面や人間関係に応じて使えるよう練習する。 |
| 春期：聴解・会話 B1 (月 3)[横堀] | 中級レベルに必要なオーラル・コミュニケーション能力を伸ばすことを目的として、話すことに焦点を置き、ディスカッション、ショート・プレゼンテーションなど様々なタスクを行う |
| 秋期：漢字 B2 (月 3)[濱田] 春期：漢字 B1a (月 4)[濱田] | 日常生活や大学の講義で用いられている漢字・漢字語の意味を理解し、正しく読み、書き、使う力を身につける。『INTERMEDIATE KANJI BOOK 漢字 1000PLUS』 Vol.1 (凡人社) を主教材として使用する。 |
| 春期：漢字 B1b (火 3)[水田] | 日常生活や大学の講義で用いられている漢字・漢字語の意味を理解し、正しく読み、書き、使う力を身につける。『新版 BASIC KANJI BOOK』 Vol.2 (凡人社) を主教材として使用する |

*1 限 8 : 45 ~ 10 : 15, 2 限 10 : 30 ~ 12 : 00, 3 限 13 : 00 ~ 14 : 30, 4 限 14 : 45 ~ 16 : 15

*1 回 90 分 (上級レベルの全科目、文法 B1、聴解・会話 B2・B1、作文 B2・B1、漢字 B2・B1ab) あるいは 180 分 (文法・表現 B2ab・B1ab、文法・読解 B2ab・B1ab、文法 B2) の授業を全 15 回行っている。

なお、学生による授業評価アンケートは、日本語課外補講上級及び中級クラスとまとめて実施した。授業評価アンケートの結果については、日本語プログラム授業アンケートを参照いただきたい。

6 成績評価

成績評価の方法については、成績評価の基準を授業概要に明記するとともに、オリエンテーションでも説明している。この基準をもとに授業担当者が、秀（90点以上）、優（80点～89点）、良（70点～79点）、可（60点～69点）、不可（59点以下）で判定を行うが、総合日本語コースの授業科目については単位が出ないことになっている。8月（留学期間が半年の学生については3月）に成績を記した履修証明書の発行を国際機構長名で行った。

7 学生からの評価

前述の通り、各授業科目に関する授業評価アンケートは日本語課外補講とまとめて実施し、これ以外に、総合日本語コース全体についてはインタビュー調査（実施日：2019年1月29日（火）～30日（水）、2月7日（木）、7月29日（月）、7月30日（水）～8月1日（木）、調査対象：2018年度日本語・日本文化研修留学生（4人）、協定校からの短期留学生（18人））を行った。この結果を表2に示す。

表2 総合日本語コースインタビュー調査結果

| | |
|---------------------|--|
| 1. 総合日本語コース：科目について | <ul style="list-style-type: none"> ・十分だった。(20人) ・中級クラスでは聴解の授業が全然なかった。日本人と会話して、それは本当に楽しかったけど、聴解の練習がなかった。 ・日本人と交流できる授業があると思う。 |
| 2. 総合日本語コース：レベルについて | <ul style="list-style-type: none"> ・ちょうどよかった。(10人) ・大丈夫だったけど、「文法・表現 B1a」はちょっと簡単だった。 ・ちょうどよかったと思う。「文法・表現 B1a」は易しかった。ほかの学生と日本語のレベルが違い、ほかの学生が理解できるように日本語でディスカッションするのが難しかった ・ちょうどよかったと思う。「文法・表現 B1a」は易しかったが、「会話 C1」は難しかった。 ・中級はちょうどよかった。特に復習みたいになった。上級はちょっと難しいけど、いろいろ役に立った。 ・中級のはじめはちょっと簡単だった。上級はちょうどよかった。 ・中級のはじめはちょっと簡単すぎたと思った。上級はちょうどよかった。上級の文法を C1a と C1b、N2 と N1 の2つから選ぶのはいいと思う。 ・日本語能力試験に適当だった。ちょうどよかった。 ・私にとって、ちょうどよかったと思う。たとえば漢字 C2 の授業では、クラスで勉強する漢字の 20% ぐらいしか知らなかったので、私にはちょうどよかった。 ・上級は自分の能力が低かったのが難しかったが、他の人にとってはちょうどよかったと思う。 ・上級クラスもちょっと易しかった。 ・上級クラスもちょっと易しすぎた。 ・上級クラスでもっと難しい内容を勉強したい。 |
| 3. 科目選択の際に重視したこと | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の弱い点を伸ばすことができるような科目を選んだ。(7人) ・自分があまり詳しく知っていない、難しいことについて、もっと勉強したらいいと思って選んだ。 ・自分の日本語がうまくなるような授業を選んだ。 ・自分が学びたい内容を選んだ。 ・自分が学びたい内容とテストのやり方で選んだ。 ・シラバスを見て、レポートと試験が少ないものを選んだ。 ・日本語能力のレベルと授業内容で選んだ。 ・いろいろな点から勉強したいから、いろいろな種類の授業を選んだ。N2を受けたいから「文法 C1a」を選んだ。 ・自分が必要なものと時間割で選んだが、週2日行かないといけないクラスは大変だった。 ・コミュニケーションの力を伸ばせる授業を取ろうと思ったけど、専門の時間割とあわなくて、時間割を考えて選んだ。 |

| | |
|------------------------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ毎日たくさんの科目を選びたかったけど、たとえば専門があるとき選べなかったの、それで自分のレベルとは違う「文法・表現 C1a」を選んだ。それ以外は自分の日本語のレベルにあわせて選んだ。 ・いろいろな種類の授業を取りたかった。表現も文法も聴解も読解も学びたかった。「文法 C1a」を選んだのは能力試験に合格したいから。自分の苦手な点、話す力をのばすため、「会話 C1」の授業を選んだ。 ・科目を選ぶときは、バランスについて考えた。母国の大学では、授業で書くチャンスが少なかったから、作文を選んだ。聴解と会話の授業については、ここは日本だから日本人とチャンスが多いから選ばなかった。最初に学部の先生から5科目取るように言われて5科目取ったが、もう1つ聴解も取ればよかったと思う。 ・母国の大学の日本語の先生が選んでくれた。 ・授業に出てみて、先生がやさしくて説明がわかりやすいから選んだ。 ・母国の大学で単位が交換できるように、名前が似ている科目、たとえば、読解、会話、文法を選んだ。 |
| <p>4. 自身の日本語力について</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・聴く能力が大変伸びた。 ・ちょっとアップした。今もまだ十分に話せないが、テレビ番組を見て、聞き取れるようになった。 ・ちょっとアップした。ゼミで先生と話すときは、だんだんわかるようになった。 ・聴く能力が伸びた。文法もたくさんわかるようになった。 ・聞き取り、言葉の数、文法の力が伸びた。 ・伸びたと思う。聴く力がついた。日本人の友達と簡単な会話ができるようになった。 ・特に聞き取りが伸びた。全体的なニュアンスがわかるようになった。そして、日本語の中にある日本文化を理解することもできるようになったと思うし、適切な日本語を選ぶようになった。最後に、漢字もちょっと読めるようになった。 ・会話と聴解能力が伸びた。 ・会話と日本人と話す力が伸びた。 ・特に会話がすごく伸びた。 ・少し伸びた。日本に来る前は日本語でしゃべる自信がなかったけど、日本に来て自信がついてきた。 ・伸びたと思う。最初はあまり話すことができなかった。いろいろな友だちと日本語で話しながらだんだんうまくなったと思った。話す力がついた。 ・日常会話の力が伸びた。語彙も増えた。 ・もちろん話すことが伸びた。日本に来る前、話すとき自信がなかったが、今は自信がある。そして、読むことも伸びた。 ・ぜったい会話力、あと漢字とか伸びた。 ・伸びたと思う。みんなより上手ではないけど、日本語を話す能力、そして、日本でいろいろな発表があるので、発表する力が伸びた。 ・話すことも読むことも伸びた。今、テキストを速く見て、意味がわかるようになった。以前は難しかったけど、伸びたと思う。 ・話す、聴く、読む、書く、全部、伸びた。 ・敬語のレベルが伸びた。会話もどんどん慣れてきた。 ・読むこと、漢字とか、伸びた。 ・伸びたと思う。テキストを読むとき、日本に来る前は、日本語でメールが来たら、Google 翻訳に入れて母語に翻訳して読んでいたが、今は日本語で読むのが怖くなくなった。わからないことはまだたくさんあるが、恐れず辞書を引いて読むようになった。 ・読解と作文とレポートを書く能力が伸びた。 |
| <p>5. 富山での留学生活について</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・楽しかった。 ・来てよかったと思う。日本の勉強をするため、留学するのは一番いい方法だと思うので、ちょうどよかった。 ・私はこの留学で日本に初めて来たけど、富山大学は本当にいいと思う。いろいろあって、富山県のいろいろなところへ行って、富山への留学はよかったと思う。 ・よかった。静かな環境とか授業とか全部よかった。 ・もともと空気がきれいな地方に行きたかった。そして、家賃も安いのが一番大事で、この点でも富山はよかった。 ・楽しかった。富山の自然が多いところが好きだ。友達と遊んで、いろいろな国の友達ができた。 ・よかった。富山にはいろいろなきれいな景色がある。たとえば、環水公園や、黒部などとてもきれいだ。みんなやさしい。友達と一緒に遊んだ。アカペラのサークルも楽しかった。 ・本当によかった。富山は住みやすい。大学の寮も住みやすい。全部といいと思う。授業とか。いろいろな活動があるとか。 ・本当に満足している。この大学では日本語の授業だけでなく、専門の授業もあって、日本人といっしょに授業を受けられるチャンスがあるから。 |

| | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・私はずっと大きい町に慣れているんだけど、富山の静けさはちょうどよかった。特に勉強できる環境としてよかった。家賃も安いのもよかった。たまたま東京に行けるのもよかった。 ・富山は自然がいい。緑がいっぱいある。毎日山が見えるのがいい。私のふるさととは山がなくて、山を見たいときは観光地へ行かないといけませんが、今はただで毎日山を見られる。富山大学の図書館には本もたくさんあって、とても便利だった。書庫にも論文の資料がたくさんあって、論文を書くためにとても役に立った。 ・最初はさびしかった。今は慣れたので楽しかった。 ・よかった。富山のいい静かな環境があるから、富山を選んだ。最初は友達とかいなくて、自分にとって新しいことがたくさんで大変だったけど、だんだん生活に慣れてきて、今は日本の生活のほうがよくなった。 ・母国での私の普通の生活とずいぶん違った。母国ではストレスがすごくあった。どんな将来かわからなくて、これでいいのかと考えて、落ち込むことが多かったけど、日本に来てストレスがなくなった。日本にいるのは半年だけだから、むだにしないようにと思って、新しい人と会って、4つのサークルに入って、一期一会という感じで生活していた。落ち込む暇がなかった。日本に来て、少し性格が変わったかもしれない。もっと明るく前向きになったと思う。 ・楽しかった。自分の国ではなく、外国で生活することが全部新しく楽しかった。外国で生活するのは初めてだった。困ったことは交通。自転車がなくなってから、借りていた自転車を返したあと、一緒に歩いてもらったりして、周りの人に迷惑をかけた。 ・よかった。寮からスーパーがもっと近かったらよかったけど、他には困ったことはなかった。富山は田舎だから、近所のお年寄りが「おはようございます」と言ってくれたのがうれしかった。 ・富山はいいところだ。とても静かなところで、生活しやすい。でも、東京とちょっと距離が遠いので、料金と時間がかかるのが不便だと思う。 ・よかったことは奨学金がもらえることと、チューターがいっぱいて助けてもらえることと、寮の家賃も安いので金銭的にもいいと思う。でも、富山は田舎なので、旅行したいと思ったら、時間と費用の問題があった。専門では課題がいつもあるから、それがちょっと大変だった。 ・冬はとても不便だったが、富山は友達、先生、バスの運転手もやさしかった。 ・最初は富山がどんなところか全然わからなくて、来て田舎でびっくりした。富山は景色がきれいなところだ。冬のときはすごく大変だった。雪は初めてで、寒さも苦手で大変だった。それに、交通が大変だった。あちらこちらに行くのが車がないと不便だった。富山のいいところは、田んぼの緑がとてもきれいで、自然がきれいなこと。そして、白エビがとてもおいしかった。 ・不便なところは電気料金がとても高いことで、1か月の電気料金が国の6か月分だった。いいところは、私は富山以外に東京、大阪、北海道などに行ったが、富山の人は他のところの人よりとてもやさしかった。ここで留学したのはよかった。 ・一番困ったのは、住んでいる会館が学校からちょっと遠かった。学校まで15～20分かかかるので、雨または雪が降ると、歩くしかないのが、ちょっと辛い。よかったことは、コンビニでバイトをしたので、いろいろな友達ができ、日本人の友達も外国人の友達もできた。専門の勉強はほとんど図書館で行ったので、ゼミでの友達ではできなかった。 |
|--|---|

まず、コースの開講科目数については大半の学生が十分だったという回答だったが、中級クラスの受講者から聴解の練習が少なかったという指摘があった。中級クラス「聴解・会話」は、以前は聴解と会話の各技能に重点を置いた授業を週2コマ開講していたが、予算の問題から週1コマ開講となり、聴解の練習に十分に時間が取れなかったことが影響としていると思われる。

次に、コースのレベルについては全体的にはちょうどよかったという回答が多かったが、易しかった、難しかったという声も聞かれた。これまで中級クラスと上級クラスの間レベルのクラスを希望する学生が多かったことから、今回初めて春期の上級クラス「文法」の授業をレベル別に2科目開講したところ、学生からの評価もよかった。ただ、上級クラスについては易しかったという声も聞かれ、よりレベルの高い授業を希望する学生も複数見られた。

科目選択の際に重視した点として多かったのは、自身の弱い点を伸ばそうと考えて選んだという回答が最も多く、他には時間帯、自身の興味、内容といった回答も複数見られた。

自身の日本語能力については大半の学生が伸びたと答え、特に聞く、話す力の伸びを挙げる学生が多く、日本に来て、自身の日本語能力に自信が持てるようになったというコメントも複数見られた。

最後に、富山での留学生活については、静かな環境、豊かな自然、生活のしやすさ、人々のやさしさをよさとして挙げる学生が多かった。一方、困った点としては、交通の不便さを挙げる学生が多かった。

8 おわりに

総合日本語コースは、第12期より上級クラスに加えて新たに中級クラスの提供を始め、今回第15期はその4年目である。総合日本語コースは上級クラスの受講者が多く、第15期についても秋期は上級クラスが18人、中級クラスが4人（うち1人は上級クラスも受講）、春期は上級クラスが17人、中級クラスが12人（うち5人は上級クラスも受講）と、上級クラスのほうが多かったが、春期については中級クラスの受講者も多く、これまでで最多であった。短期留学生の多くは9月末に来日し、1年間富山で留学生活を送るが、第15期は4月に来日した留学期間半年の短期留学生で総合日本語コース中級クラスを受講する学生が例年よりも多かった。今後も4月来日の学生が増えるようであれば、春期中級クラスの授業内容を検討していかなければならないだろう。中級、上級クラスともに、以前よりも学習者の日本語力、ニーズが多様になっており、それらにどう対応していくかが一番の課題である。今後もコース受講者の日本語力やニーズをアンケート調査やインタビュー調査を通じて詳細に把握しながら、よりよいコース提供の在り方を探っていきたい。

日本語プログラム授業アンケート 初級クラス (2019 年度)

田中 信之

初級クラスは、2019 年度前期と後期にそれぞれ「文法 A」,「聴解・会話 A」,「漢字 A」,「生活日本語 A a」,「生活日本語 A b」の 5 科目を開講した。前期は 7 人、後期は 21 人が受講した。前期、後期ともに日本語課外補講の受講生であった。

各学期末に受講者に対して授業改善のためのアンケートを行った。アンケートは科目ごとに実施し、授業の内容、難易度、進度、教材、教え方について 5 段階評価と自由記述で回答を求めた。この他に、学生自身の出席状況と欠席理由、予習復習の状況についても質問した。

以下、表 1 に 2019 年度前期、表 2 に 2019 年度後期の集計結果をまとめた。1 人の学生が複数の授業科目に答えているため、括弧内の人数はいずれも延べ人数を表す。評点は 5 段階評価で、値が大きいほど良い評点であることを示す。「とてもよかった」を 5 点、「よかった」を 4 点、「ふつう」を 3 点、「あまりよくなかった」を 2 点、「ぜんぜんよくなかった」を 1 点として、その平均点を出したものである。

なお、自由記述の日本語の表記や助詞等の間違いは修正して掲載した。

表 1 2019 年度前期初級クラスの授業内容についてのアンケート結果 (回答 7 人)

| 質問項目 (回答者数) | 評点 | 自由記述 |
|--|-----|---|
| 1. 授業内容 とてもよかった (17 人) よかった (0 人) ふつう (0 人) あまりよくなかった (0 人) ぜんぜんよくなかった (0 人) | 5.0 | ・ The content of the class is completely satisfactory and delivering the subject in very appropriate manner. (文法 A1) |
| 2. 授業のレベル ちょうどよかった (3 人) よかった (4 人) ふつう (0 人) あまりよくなかった (0 人) ぜんぜんよくなかった (0 人) | 4.4 | ・ Irregular to class sometimes feel the level is high. (文法 A1) |
| 3. 授業の進度 ちょうどよかった (3 人) よかった (3 人) ふつう (1 人) あまりよくなかった (0 人) ぜんぜんよくなかった (0 人) | 4.3 | ・ With the time level is increasing gradually and the progress of the class is good. (文法 A1) |
| 4. 教科書・プリント とてもよかった (6 人) よかった (1 人) ふつう (0 人) あまりよくなかった (0 人) ぜんぜんよくなかった (0 人) | 4.9 | ・ Providing teaching material in digital format may help the student in better way. It can be helpful for student to study at any time and there is no necessity of carrying the soft copy. (文法 A1) |
| 5. 教え方 とてもよかった (7 人) よかった (0 人) ふつう (0 人) あまりよくなかった (0 人) ぜんぜんよくなかった (0 人) | 5.0 | ・ Based on student Japanese level sensei's are teaching and making the student to understand the topic within the time duration. (文法 A1) |

| | | |
|---|---|---|
| 6. どのくらい出席したか 80%～100% (5人) 60%～80% (1人) 40%～60% (1人) 20%～40% (0人) 0%～20% (0人) | - | 欠席した理由 ・専門の授業やゼミがあったから (2人) I couldn't put my 100% percent as sometimes I'm busy with the research work. (文法 A1) ・アルバイトがあったから (1人) ・病気のため (0人) ・その授業に興味がなかったから (0人) ・その他 (0人) |
| 7. 予習・復習をしたか かなりした (4人) すこした (2人) ぜんぜんしなかった (1人) | - | |

その他

・I think that each of my teacher is perfect, everyone has his/her special but Useful teaching method, what they have to do is just keep their way, thank you very much. (文法 A1)

表2 2019年度後期初級クラスの授業内容についてのアンケート結果 (回答21人)

| 質問項目 (回答者数) | 評点 | 自由記述 |
|---|-----|--|
| 1. 授業内容 とてもよかった (11人) よかった (8人) ふつう (2人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人) | 4.4 | ・内容はよくわかります。(文法 A2) ・おもしろかったです。(文法 A2) ・ある教師はとていいでした。でも、ある教師の授業は効率はちょっと大変でした。(文法 A2) ・Content was good. (聴解・会話 A2) ・Content of the class are easy to understand. (聴解・会話 A2) ・もっと ちょうかいれんしゅうがほしいです。(聴解・会話 A2) ・授業内容はおもしろいです。(漢字 A2) |
| 2. 授業のレベル ちょうどよかった (7人) よかった (10人) ふつう (3人) あまりよくなかった (1人) →むずかしすぎた ぜんぜんよくなかった (0人) | 4.1 | ・まいにち、dictation にぶんを翻訳したいです。いま、ことばだけがたらないと思います。For example, given a sentence in English, and ask us to translate into Japanese. (文法 A2) ・A little difficult for the people who was not enough preparation. (文法 A2) ・Level of the class is not too difficult for students. (聴解・会話 A2) ・A little difficult, but its ok. (聴解・会話 A2) |
| 3. 授業の進度 ちょうどよかった (8人) よかった (12人) ふつう (1人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人) | 4.3 | ・Progress of the class is not too fast but I think 2 days for 1 lesson is better. (聴解・会話 A2) ・毎週、全部の習った字を spelling したほうがいいです。先生はそのじのよみかたをいったとおり、かきます。(漢字 A2) ・練習の時間はちょっと少ないです。(漢字 A2) |
| 4. 教科書・プリント とてもよかった (12人) よかった (7人) ふつう (1人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人) 記入なし (1人) | 4.6 | ・ちょうかいの練習がたくさんほしいです。(聴解・会話 A2) ・しゅくだいがほしいです。(聴解・会話 A2) ・Materials are easy to learn. (聴解・会話 A2) ・Teaching materials are very good. (聴解・会話 A2) |
| 5. 教え方 とてもよかった (14人) よかった (7人) ふつう (0人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人) | 4.7 | ・ある教師はとていいです。(文法 A2) ・More chance as students communication each other. (文法 A2) ・ときどき、先生は文法を説明するとき、わかりません。もっと詳しく説明したほうがいいと思います。(文法 A2) ・ちょうかいの準備時間があまりありません。(聴解・会話 A2) ・Students can practice with each other. だいすきです。(聴解・会話 A2) ・Teaching method is easy to understand. (聴解・会話 A2) ・先生はとて親切な人で、教え方がとていいです。(漢字 A2) ・Soejima sensei is very kind teacher. He is cooperative. Method of teaching is perfect as well. He knows how to deal with foreign students. (生活日本語 A2) |

| | | |
|---|---|---|
| 6. どのぐらい出席したか 80%～100% (14人) 60%～80% (5人) 40%～60% (0人) 20%～40% (1人) 0%～20% (0人) 記入なし (1人) | - | 欠席した理由 ・専門の授業やゼミがあったから (12人) ・アルバイトがあったから (1人) ・病気のため (4人) ・その授業に興味がなかったから (0人) ・その他 (3人) …Some classes are not efficient. (文法 A2) ・Busy with exams. (文法 A2) ・はっぴょうがあります。(文法 A2) |
| 7. 予習・復習をしたか かなりした (10人) すこした (10人) ぜんぜんしなかった (1人) | - | ・Busy in research. Busy in exam of admission. (文法 A2) ・うちで準備するために、ちょうかいの本を紹介してください。(聴解・会話 A2) |

その他

- ・listening の練習が多い。(文法 A2)
- ・かわがもう少し機会になります。(文法 A2)
- ・なんでもいいです。(文法 A2)
- ・I think each lesson should has 2 days to learn. (文法 A2)
- ・“Listening & Speaking A2” should be 2 days a week. (聴解・会話 A2)
- ・Teacher is patient and nice. ありがとうございます。(聴解・会話 A2)
- ・授業時間が増えたほうがいいです。1時間半はたりません。(聴解・会話 A2)
- ・先生にどうもありがとうございました。おつかれさまです。(漢字 A2)
- ・もっと生活で使うことばをよく教えてください。(漢字 A2)
- ・宿題をよくチェックしてください。(漢字 A2)
- ・I started this class as zero Japanese knowledge. But at the time of completion I've learnt much about Japanese language, Japanese culture and nature of Japanese people which is very kind. I realized it was my best decision to come to Japan by knowing all about Japan from this class. (生活日本語 A2)

2019年度は前期、後期、どちらも高い評点が得られたことがわかる。とりわけ、「授業内容」と「教え方」の評点が高くなっている。自由記述を見ると、肯定的な意見が多数を占めているが、授業内容では、詳細な文法説明や、授業の効率性を求める声も見られた。また、今年度の学生のコメントから、授業を増やしてほしい、もっと練習がしたいなど、動機付けの高さが窺えた。今後も、学生の期待に応えられるよう授業の改善を図りたい。

日本語プログラム授業アンケート 中級クラス (2019年度)

副島 健治

2019年度日本語プログラム(中級)を受講した受講生は、前期においては、課外補講25人(うちライデン大学からの短期研修留学生10人)、総合日本語コース13人(日本語・日本文化研修留学生2人、協定校からの交換留学生11人)、計38人であった。後期においては、課外補講12人、総合日本語コース8人(日本語・日本文化研修留学生1人、協定校からの交換留学生7人)、計20人であった。

そして前期、後期のそれぞれの日本語プログラム(中級)が終了する時期に、受講した学生に授業アンケートを実施した。そのアンケートの結果について報告する。ただし、ライデン大学からの交換留学生については、別途報告があるので、ここでは除く。

表1は2019年度前期、表2は2019年度後期に実施したアンケートの結果をまとめたものである。なお、表中の人数は延べ人数を示す。(回答者の延べ人数は、前期60人、後期19人だが、無答もあったので表中の数字と一致しない場合がある。)

評点は「とてもよかった」を5点、「よかった」を4点、「ふつう」を3点、「あまりよくなかった」を2点、「ぜんぜんよくなかった」を1点として、その質問項目の平均値を出したものである。「その他」は、アンケート回答者の自由記述であるが、記述の助詞の誤り等は直した。

表1 前期中級クラスの授業内容についてのアンケート結果

※ アンケート回答者数(総数): 60人
(日本語課外補講16人、総合日本語コース41人、不記入3人)

| 質問項目(回答者延べ数) | 評点 | 自由記述 |
|--|-----|--|
| 1. 授業内容 とてもよかった(40人) よかった(19人) ふつう(0人) あまりよくなかった(1人) ぜんぜんよくなかった(0人) | 4.6 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本人との会話が大好きでした。(聴解・会話 B1) ・良いです。(作文 B1) ・とても面白かった。(作文 B1) ・書き方を学んだため自分の作文の能力も上がりました。(作文 B1) ・作文だけではなく話す機会もあったので本当に良かった。(作文 B1) ・いろいろな話題で作文が出来て良かったと思います。(作文 B1) ・授業内容がとても豊富で、教科書以外の知識も学べた。 (文法・読解 B1) (作文 B1) ・文法の大事な点を習えてよかったと思います。(文法・表現 B1a) ・ゆっくり、詳しく教えてもらい本当に良かった。(文法・読解 B1) ・授業中もっと日本語の練習を沢山した方が良いと思います。 (文法・読解 B1) ・段落や文の接続詞を勉強したい、例えば「したがって」など。 (作文 B1) |
| 2. 授業のレベル ちょうどよかった(29人) よかった(24人) ふつう(4人) あまりよくなかった(3人) ぜんぜんよくなかった(0人) | 4.3 | <ul style="list-style-type: none"> ・学生の日本語のレベルが違うため、ディスカッションを行う時は時々上手くできませんでした。(作文 B1) ・レベルが優しいと思うが、その練習は良かったと思う。(文法・表現 B1a) ・言葉が難しいと思う。(作文 B1) |
| 3. 授業の進度 ちょうどよかった(34人) よかった(18人) ふつう(6人) あまりよくなかった(2人) { はやすぎた(1人) { おそすぎた(1人) ぜんぜんよくなかった(0人) | 4.4 | <ul style="list-style-type: none"> ・最初の時は早すぎだったが、後半は良くなった。(文法・表現 B1b) ・先生の話すスピードが少し早すぎました。(文法・表現 B1a) ・授業の速さは丁度良かったです。(文法・読解 B1) (作文 B1) ・もう少し早くてもよさそうです。(作文 B1) |

| | | |
|--|-----|--|
| <p>4. 教科書・プリント とてもよかった (39人) よかった (17人) ふつう (3人) あまりよくなかった (1人) ぜんぜんよくなかった (0人)</p> | 4.6 | <ul style="list-style-type: none"> ・この授業で新しい内容を学ぶだけでなく、復習もできたのでとてもよかったです。(文法B1) ・プリントが多すぎだと思う。(文法・表現B1a) ・フォントが時々読みにくかったです。(聴解・会話B1) ・良かったと思うが、プリントが少し多かった。(文法・表現B1a) ・作文に使う表現をもっと習いたいと思う。(作文B1) ・授業でのプリントが今後も役に立つと思う。(作文B1) ・説明が分かりやすく、例もはっきりしていた。(作文B1)(文法B1) ・内容や基本に関するプリントがもう少しあれば良かったと思う。(作文B1) |
| <p>5. 教え方 とてもよかった (46人) よかった (12人) ふつう (2人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人)</p> | 4.7 | <ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動はとても良かったです。普段の講義は3時間のためちょっと眠かったです。(文法・表現B1b) ・少し早く、分かりにくいところもあったが、先生の熱心さが好きでした。(聴解・会話B1) ・先生は様々な例を示したので、とても分かりやすかったです。またゆっくり教えてくれたのでわかりやすかったです。感謝しています。(文法・表現B1b)(文法B1)(作文B1)(文法・読解B1) ・とても聞きやすく、単語や声など適切で良かったです。(作文B1) ・先生は面白かったので授業の内容は理解しやすかったです。(文法・読解B1) ・先生は文法を説明する時とても分かりやすく、圧力がないためこの授業の雰囲気が良かったです。(文法・表現B1b) ・先生はとても真面目で優しく、本当に良い先生です。(作文B1) |
| <p>6. どのぐらい出席したか 80%～100% (46人) 60%～80% (7人) 40%～60% (4人) 20%～40% (3人) 0%～20% (0人)</p> | — | <p>出席率が80%以下の学生14人の欠席した理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門の授業やゼミがあったから (4人) ・アルバイトがあったから (0人) ・病気のため (8人) ・その授業に興味がなかったから (0人) ・その他 (2人) |
| <p>7. 予習・復習をしたか かなりした (22人) すこした (37人) ぜんぜんしなかった (1人)</p> | — | <ul style="list-style-type: none"> ・復習の為に重要な文法やルールなど一枚のプリントの中で書いてほしい。(作文B1) ・作文の構成について復習をしました。(作文B1) ・最初は授業の練習を一度復習しましたが、後半のクラスは作文を書くことが多かったので、復習はあまり必要じゃなかった。(作文B1) ・ペアフィードバックの時の時間が少し長い感じがしました。みんなが意見をそこまで出せなかったので元の時間より2分ぐらいか、それよりも少し短くなれば良いと考えました。(作文B1) |

その他

- ・この授業はとても役に立っし、もう一度授業の復習をすると印象強く残ると思う。授業内での練習は多くの進歩になった。本当にありがとうございました。(文法B1)(文法・表現B1a)
- ・最初の授業に作文を作成して、中間にまた同じ作文を行うのは素晴らしいと思う。自分の成長を見られる。(作文B1)
- ・先生が教育熱心で良かった。もっと簡単にゆっくり解説したらいいと思います。(聴解・会話B1)
- ・再テストをしてくれてありがとうございます。成績のためだけでなく、勉強のためにもなりました。(文法・表現B1b)
- ・一年間色々お世話になりました。先生の授業は大好きです。(作文B1)(文法・表現B1b)(文法B1)
- ・たくさんのことを学びました。先生の指導に感謝しています。(文法・表現B1b)(文法・読解B1)(文法・表現B1a)
- ・授業の内容は面白く、先生も優しく、グループで討論するのは楽しかったです。(作文B1)
- ・この授業はとてもいいと思う。日本人の学生と一緒に会話を練習するのは緊張感があるのでいいと思う。(聴解・会話B1)
- ・先生に感謝しています。いつもユーモアの方式で沢山の知識を学ぶことができた。(文法・読解B1)(文法・表現B1a)
- ・先生はとても優しく、欠席を時々してしまい本当にすいません。(文法・読解B1)
- ・授業の時間は長いので、会話の練習をしたことは良かった。でも、忙しくて、少し余裕がなかったと思う。(文法・読解B1)
- ・もう少し自然に練習したかった。同じ話を言わないようにすればいいと思う。でも先生は優しく、生徒のことをよく指導してくれたので良かった。ありがとうございました。(文法・表現B1a)

表2 後期中級クラスの授業内容についてのアンケート結果

※ アンケート回答者数（総数）：19人
（日本語課外補講 6人，総合日本語コース 13人，不記入 0人）

| 質問項目（回答者数） | 評点 | 自由記述 |
|---|-----|--|
| 1. 授業内容 とてもよかった（14人） よかった（4人） ふつう（1人） あまりよくなかった（0人） ぜんぜんよくなかった（0人） | 4.7 | ・なし |
| 2. 授業のレベル ちょうどよかった（10人） よかった（5人） ふつう（3人） あまりよくなかった（1人） ぜんぜんよくなかった（0人） | 4.3 | ・少し難しすぎた，授業行く前に本を読まなければなりません。（漢字B） ・もう学んだことを復習できたし，よくわからなかった事をちゃんと教えてもらえてよかったけど，もっと新しい表現とか文法を勉強したい。（聴解・会話B） ・難しすぎた。（漢字B） |
| 3. 授業の進度 ちょうどよかった（16人） よかった（3人） ふつう（0人） あまりよくなかった（0人） }はやすぎた（0人） }おそすぎた（0人） ぜんぜんよくなかった（0人） | 4.8 | ・なし |
| 4. 教科書・プリント とてもよかった（14人） よかった（5人） ふつう（0人） あまりよくなかった（0人） ぜんぜんよくなかった（0人） | 4.2 | ・復習シートをもらうことはとても良かったです。（漢字B） |
| 5. 教え方 とてもよかった（18人） よかった（1人） ふつう（0人） あまりよくなかった（0人） ぜんぜんよくなかった（0人） | 4.9 | ・優しくて簡単な日本語で説明してもらって，使い方が分かるようになっていきます。とても良かったです。（漢字B） |
| 6. どのぐらい出席したか 80%～100%（18人） 60%～80%（1人） 40%～60%（0人） 20%～40%（0人） 0%～20%（0人） | - | 出席率が80%以下の学生1人の欠席した理由 ・専門の授業やゼミがあったから（1人） ・アルバイトがあったから（0人） ・病気のため（0人） ・その授業に興味がなかったから（0人） ・その他（0人） |
| 7. 予習・復習をしたか かなりした（13人） すこした（5人） ぜんぜんしなかった（1人） | - | ・『Intermediate Kanji Book』は難しいと思います。（漢字B） |

その他

- ・会話より聴解に興味がありましたので，聴解の部分は少し少ないと感じました。それでも会話のおかげでよく勉強になり，特に「かす/かりる」のことは役に立つと思います。やりもらいどうしは私の短所でこの授業のおかげで「もらう」の使い方をついに把握したと感じます。（聴解・会話B）
- ・先生は熱心な教え方で良いと思います。私は文法を頑張って使いたいと思います。（文法B）
- ・この授業では日常的に使われている文法を沢山教えてもらいました。文法の知識を学び，収穫がありました。もっと語彙を練習する機会があればもっと良いと思います。（文法・表現Ba）
- ・授業を受ける前に各レベルの授業の学ぶ内容を具体的に説明してほしいです。レベルを選ぶことが難しかったです。会話と一緒に漢字や単語，文法を教えるほうがもっと良いと思います。学生の数が多くなると授業はもっと楽しめると思います。（聴解・会話B）

- ・聴解、会話のこの授業はとても良くて、いくつかの日常の中で使う日本語を練習して、いろいろな状況の下で練習できた。またいろいろな状況の下で日本語の表現方法を学ぶことができました。(聴解・会話B)
- ・ありがとうございました。(漢字B)

全体的に前期、後期ともに学生から高く評価されていることがうかがえる。自由記述のコメントもおおむね肯定的な記述が多い。ただし、「中級」というレベルの特性上、中級の前期から後期まで幅があり、そのような意味でレベルの異なる学生が混在していたことも事実ある。授業レベルや進度について、「速い」「遅い」・「易しい」「難しい」と相反して感じる学生もいて、指導する側にとっては教育現場での難しい直面する問題である。できるだけ細かく個々の学生に対応した授業が求められていると言える。また教員の情報交換など、さらなる連携も必要と言えるであろう。

日本語プログラム授業アンケート 上級クラス (2019年度)

濱田 美和

上級クラスは、2019年度前期と後期にそれぞれ9科目開講した。前期の開講科目は「読解 C1」, 「文法 C1a」, 「文法 C1b」, 「作文 C1」, 「聴解 C1」, 「会話 C1」, 「漢字 C1」, 「表現技術 C1」, 「日本文化 C1」, 後期は「読解 C2a」, 「読解 C2b」, 「文法 C2」, 「作文 C2」, 「聴解 C2」, 「会話 C2」, 「漢字 C2」, 「表現技術 C2」, 「日本文化 C2」である。前期は29人（日本語課外補講12人, 総合日本語コース17人）, 後期は52人（日本語課外補講25人, 総合日本語コース27人）が受講した。

各学期末に受講者に対して授業改善のためのアンケートを行った。アンケートは科目ごとに実施し、授業の内容、難易度、進度、教材、教え方について5段階評価と自由記述で回答を求めた。この他に、学生自身の出席状況と欠席理由、予習復習の状況について問うた。

以下、表1に2019年度前期、表2に2019年度後期の集計結果をまとめた。1人の学生が複数の授業科目に答えているため、括弧内の人数はいずれも延べ人数を表す。評点は5段階評価で、値が大きいほどよい評点であることを示す。「とてもよかった」を5点、「よかった」を4点、「ふつう」を3点、「あまりよくなかった」を2点、「ぜんぜんよくなかった」を1点として、その平均点を出したものである。

なお、自由記述の日本語の表記や助詞等の間違いは修正して掲載した。

表1 2019年度前期上級クラスの授業内容についてのアンケート結果 (回答者 84人)

| 質問項目 (回答者数) | 評点 | 自由記述 |
|--|-----|--|
| 1. 授業内容 とてもよかった(58人) よかった(26人) ふつう(0人) あまりよくなかった(0人) ぜんぜんよくなかった(0人) | 4.7 | <ul style="list-style-type: none"> ・先生の読解授業でいろいろなテーマについて話しましたので、とてもおもしろかったです。(読解 C1) ・文章を読んで、作者の主張を取り出し、自分の考えを引き出す形はすばらしいと思います。(読解 C1) ・中国語版があるので、すごく便利です。(文法 C1a) ・生活にも使える。(文法 C1a) ・とても助かりました。(文法 C1a) ・ちょっと難しいけど、わかりやすいと思う。(文法 C1b) ・文法の授業のおかげで、N1の試験のとき楽だった!(文法 C1b) ・作文の授業で、論文を書くために使う文体とか、論文の構成とかいろいろ勉強しました。私は修了レポートを書くとき、とても役に立ちました。(作文 C1) ・この授業で勉強、見た内容はとても役に立ったと思います。修了レポートを書くためだけでなく、日本語で書かなければならないレポートにもです。(作文 C1) ・聴解 C1の授業ではいろいろなテーマに関する課題を聞きました。また、先生は教材に工夫しました。それによって、私の聴解の能力がよくなっただけでなく、語彙の知識も深まりました。(聴解 C1) ・聴解の授業で幅広い題材の会話が聞けて、本当によかったと思います。能力試験を受ける人のニーズに合わせて、能力試験の問題をもっと入れたらと思います。(聴解 C1) ・聴解練習の予習のタイプは豊かです。(聴解 C1) ・新聞とか映画とか大好き。(聴解 C1) ・内容はいろいろ、おもしろい。(聴解 C1) ・最近人気がある番組を見るのはいいと思います。(聴解 C1) ・日本人と会話する機会がほしい。(会話 C1) ・日常的な会話の練習がたくさんあって、使いたいときちょうど使えます。(会話 C1) ・会話やスピーチの練習は本当にいっぱいあるから、話す能力はよくなったと思います。(会話 C1) ・会話の流れはとても大切な内容だと思います。(会話 C1) |

| | | |
|--|-----|--|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな日本語らしくて、自然な表現を身につけました。どうもありがとうございました。(会話C1) ・この授業を通して自分の表現能力が上がったと感じます。(表現技術C1) ・このクラスによって、日本語の表現の使い方が改善されて、もっと自然になりました。先生、どうもありがとうございました。(表現技術C1) ・日本語能力だけではなく、日本文化について勉強しました。よかったです。(日本文化C1) ・大変勉強になりました。(日本文化C1) ・「日本文化」の講義を通じて、日本の政治、近代の歩み、社会問題、日本国憲法といった極めて幅広い分野に触れるチャンスを与えてくれて、日本社会、日本文化に対する理解を深める上で、大きな役割を果たしたと考えます。(日本文化C1) ・この授業は難しいと思います。ついていけなくて、すみませんでした。内容全体はとてもよかったです。少し知識が増えた気がします。どうもありがとうございました。(日本文化C1) |
| <p>2. 授業のレベル ちょうどよかった(43人) よかった(37人) ふつう(3人) あまりよくなかった(1人) ぜんぜんよくなかった(0人)</p> | 4.5 | <ul style="list-style-type: none"> ・全部が難しい文章ではなく、易しい文章もあるので、気分転換になりました。(読解C1) ・難しい課題もたくさん出ましたが、授業の難しさが頑張らせる刺激だだと思います。(読解C1) ・テキストを読むのは大丈夫だったが、ディスカッションは難しかった。(読解C1) ・楽しい。(読解C1) ・私にとってときどき文法のルールを見てすぐ練習するのは難しかったです。(文法C1a) ・先生のおかげでわかりやすくなります。(文法C1a) ・私としてはN1はちょっと難しい。でも、頑張ったらうれしいです。(文法C1b) ・ちょうどいいと思います。そして、授業中に内容を勉強してから、すぐ練習する。内容をよく把握しました。(作文C1) ・私はN2レベルなので、あまりわからないこともありました。(聴解C1) ・番組でも日本人の話すスピードはかなり速いです。聴けない部分もあります。(聴解C1) ・レベルはちょっと高い。難しいことがある。(聴解C1) ・易しいけど、実際に役に立つ。(会話C1) ・上級なので、やはり難しかったが、よかったです。(漢字C1) ・私にとってメールの内容理解はちょっと難しかったです。(表現技術C1) ・私にとってちょっと難しい。(日本文化C1) ・私は発表やゼミで時間があまりなくて、よくわかりませんでした。(日本文化C1) ・私の日本語能力と少し合わなかったですが、難しかったおかげで新しいことを学んだと思います。(日本文化C1) |
| <p>3. 授業の進度 ちょうどよかった(45人) よかった(35人) ふつう(3人) あまりよくなかった(1人) ぜんぜんよくなかった(0人)</p> | 4.5 | <ul style="list-style-type: none"> ・先生がいろいろ配慮してくださって、いいスピードで進められました。(読解C1) ・ちょっと速いと思います。話題が70%ぐらいわかりました。(文法C1a) ・たくさん文法表現がありますが、先生のおかげで全部勉強しました。(文法C1a) ・速いと実感していたが、量も必要なので、帰ってまた復習すれば大丈夫だと思います。(文法C1b) ・速いスピードで知識を学生に押しつけるのではなく、1回の授業で1つのテーマを中心に勉強できるので、ちょうどいいスピードだと思います。(作文C1) ・1つの課でたくさん新しいことばが出ますので、復習ワークシートがちょっと難しいです。(漢字C1) ・早く教えるから、ちょっとわかりにくい。(日本文化C1) ・もうちょっと速くなり、定時に授業が終わったら、もっといいと思います。(日本文化C1) |

| | | |
|--|------------|--|
| <p>4. 教科書・プリント ちょうどよかった(57人) よかった(26人) ふつう(1人) あまりよくなかった(0人) ぜんぜんよくなかった(0人)</p> | <p>4.7</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・普段このタイプの文章を読むチャンスがなかなかないので、視野が広がられました。(読解C1) ・かなり難しいテキストですが、難しいからこそ読解力の成長を感じました。(読解C1) ・テキストのテーマは豊かです。生活に関する身近なテーマもあるし、哲学などの難しいテーマも読みました。ですから、いろいろな分野についての知識を身につけられ、非常に役立つと思います。(読解C1) ・おもしろい。(読解C1) ・文法の説明がわかりやすかったと思います。(文法C1a) ・中国語版, very good, やった!(文法C1a) ・ちょうどいい感じ。(文法C1a) ・『TRY! N2』はとてもよい教科書だと思います。説明のし方や各章で勉強した表現は文章での使い方を示したおかげで、どのように使うかよく理解できたと思います。(文法C1a) ・N1試験の準備にきちんと役立った。(文法C1b) ・いい教材です。(文法C1b) ・たくさん勉強しました。(文法C1b) ・あまり使わない文法も意味がわかる必要があります。(文法C1b) ・教科書はすばらしい。特に中国語版があるので、よかった。(文法C1b) ・復習しやすいプリントだったので、いいと思います。(作文C1) ・特に毎回配っていただいた原稿は役に立ったと思います。(聴解C1) ・以前注意しなかった問題についてよく勉強した。よかった。(聴解C1) ・内容は豊富で、詳細だ。(聴解C1) ・授業の聴解資料がほしいです。授業の中で1回だけ聞くので聞けない部分があります。何度か聞きたいです。(聴解C1) ・プリントが非常に役に立ちました。復習のときもとても便利です。(会話C1) ・理解しやすくて、大事なプリントがたくさんありましたら、役に立つと思います。(会話C1) ・先生が自分で作るプリントを使って、内容はおもしろい。そして、役に立つ。(会話C1) ・上級なので、やはり難しかったが、よかったです。(漢字C1) ・この教科書は漢字の書き方、読み方だけでなく、漢字の使い方を教えることを目標に設定しているのが好きです。(漢字C1) ・いろいろな日本文化を理解できる。(日本文化C1) ・プリントにいろいろな聞き取りにくい単語が書かれており、授業内容の理解に役に立ちました。(日本文化C1) |
| <p>5. 教え方 とてもよかった(66人) よかった(17人) ふつう(1人) あまりよくなかった(0人) ぜんぜんよくなかった(0人)</p> | <p>4.8</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・先生はおもしろくて、なかなかのいい先生だと思います。(読解C1) ・この授業を受けてよかったと思います。(読解C1) ・先生はやさしくて、先生の教え方も他の読解の先生のと全然違います。珍しくて、おもしろいと思います。先生のおかげで、読解の授業が楽しくなりました。(読解C1) ・先生の教え方はとてもわかりやすいけど、ちょっと速いと思います。(文法C1a) ・わかりやすい。(文法C1a) ・わかりやすい。(文法C1a) ・わかりやすく、勉強になりました。毎回の授業が始まるころに、自分が作った例文をCheckしていただいて、とてもよかったです。(文法C1b) ・先生やさしい!(文法C1b) ・先生もやさしくて、ときどきおもしろい話をして雰囲気をやわらげました。(作文C1) ・わかりやすい。(作文C1) ・先生の説明はとてもわかりやすかった。(聴解C1) ・やさしい。よかった。(聴解C1) ・先生はとてもやさしい人で、質問をしたときもいつでも学生の話きちんと聞き、いい答えを出しました。(会話C1) ・毎回詳しいコメントをいただき、本当にありがとうございました。(会話C1) ・いろいろ勉強になりました。先生の教え方はとてもよかったと思います。(会話C1) |

| | | |
|---|---|---|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・似ている意味がある言葉の違う点の説明はとても役に立ちました。(漢字C1) ・わかりにくい内容をわかりやすく説明してくれてありがとうございます。(表現技術C1) ・先生の教え方は本当に将来に役に立つと思います。(日本文化C1) ・先生に本当に感謝の気持ちで胸がいっぱいです。授業では、毎回豊富な資料を配付したり、ビデオ、日本人学生たちとの対話というクラス活動を設けたりして、充実した授業時間が過ごせ、大変勉強になりました。(日本文化C1) ・先生は知識豊富な人で、いろいろな日本文化や考え方を教えてくださいました。ありがとうございました。(日本文化C1) |
| 6. どのくらい出席したか 80%~100%(75人) 60%~80%(9人) 40%~60%(0人) 20%~40%(0人) 0%~20%(0人) | — | <p>欠席した理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門の授業やゼミがあったから(6人) ・アルバイトがあったから(0人) ・病気のため(2人) ・その授業に興味がなかったから(0人) ・その他(3人) : 朝寝坊してしまった(2人), 研究のため(1人) |
| 7. 予習・復習をしたか かなりした(41人) すこした(39人) ぜんぜんしなかった(4人) | — | <ul style="list-style-type: none"> ・すみませんが、復習はあまりしなかったです。(読解C1) ・この授業の予習や宿題は非常に多いです。時間がかかります。しかし、宿題をいつもちゃんとしています。(読解C1) ・予習やった。(読解C1) ・中間テストの前、復習した。(文法C1a) ・予習すれば、大変助かった。(文法C1b) ・ときどきスクリプトをもう一度読みました。(聴解C1) ・クラスで予習や復習をします。幸い？なことに宿題がありません。(聴解C1) ・聴解の予習や復習はちょっと…。(聴解C1) ・聴解の復習はちょっと…。(聴解C1) ・発音を練習し、会話の流れを復習し、日本人と話しやすくなります。(会話C1) ・日本文化についてやっぱり少し予習したほうがいい。(日本文化C1) ・難しい内容ですが、とても重要な文化知識です。(日本文化C1) |

その他

- ・グループの名前をつけるのが楽しかったので、これを通してグループへの帰属感ができました。ときどき問題について話し合うことのほかに、各国のことについても話し合うこともあったので、異文化理解に役に立ちました。(読解C1)
- ・先生、この半年間どうもありがとうございました！先生の授業が一番楽しいと思います。読解の授業が終わっても、読書を続けようと思います。(読解C1)
- ・この授業を通して、テキストの理解だけでなく、批判思考力、対話力なども学べます。読解のテストだけじゃなく、生活のいろいろな面に役立つと思います。特に、読書が好きな私にとって、先生の授業からの知識で、これから本を読むだけでなく、本を批判する、本について自分の主張もはっきりすることができると信じています。先生、ありがとうございました。(読解C1)
- ・お世話になりました。ありがとうございました。(読解C1)
- ・お世話になりました。ありがとうございます。お疲れ様です！(文法C1a)
- ・いろいろなこと教えていただいて、ありがとうございます！(文法C1a)
- ・今の日本語は上手とは言えません。でも、このクラスを通じて日本語が徐々に進歩しています。先生、ご指導に感謝します。ありがとうございます。(文法C1b)
- ・ありがとうございます！お疲れ様です！(文法C1b)
- ・文法はとても重要なもので、これからも繰り返し覚えていきたいと思います。(文法C1b)
- ・大変勉強になりました。ありがとうございます。(文法C1b)
- ・先生が丁寧にレポートの修正をしてくれて、非常にありがたいです。この1年間ありがとうございました。(作文C1)
- ・お世話になりました。ありがとうございます。(作文C1)
- ・あの恋愛ドラマはおもしろかったと思います。(聴解C1)
- ・この授業は楽しかったです。どうもありがとうございました。(聴解C1)
- ・この授業で見た内容から語彙を少しでも増やしたいと思います。(聴解C1)
- ・いろいろなことを教えていただいて、ありがとうございました！(聴解C1)
- ・大変勉強させていただきました。(聴解C1)
- ・お世話になりました。ありがとうございます。(聴解C1)
- ・お世話になりました。ありがとうございます。(会話C1)
- ・とても助かりました。いろいろなことを教えていただいて、ありがとうございます！(会話C1)
- ・どうもありがとうございました。(会話C1)
- ・この1年が速すぎて、もう1年富大で日本語を勉強したいです。(会話C1)
- ・お世話になりました。どうもありがとうございます。(表現技術C1)

- ・日本文化について、歴史に関する内容も勉強したいです。特に、明治維新や戦国時代や平家源氏などの物語に興味を持っている。(日本文化C1)
- ・いろいろなことを教えていただいて、ありがとうございます！(日本文化C1)
- ・お世話になりました。どうもありがとうございます！(日本文化C1)

表2 2019年度後期上級クラスの授業内容についてのアンケート結果(回答者110人)

| 質問項目(回答者数) | 評点 | 自由記述 |
|--|-----|---|
| 1. 授業内容 とてもよかった(53人) よかった(47人) ふつう(5人) あまりよくなかった(4人) ぜんぜんよくなかった(1人) | 4.3 | <ul style="list-style-type: none"> ・グループメンバーと交流するのは大切だと思います。(読解C2a) ・授業の内容のカテゴリーが幅広くて、興味がある内容である。(読解C2a) ・読解に関係ない。会話っぽい。(読解C2a) ・教材はちょうどいい。先生の話し方と教え方がわかりやすかった。(読解C2b) ・聴解力を高めるのに役立つ。(聴解C2) ・聴解能力を高めます。ある内容はそんなに難しくないと。(聴解C2) ・最初の内容は簡単な問題だったが、徐々に難しくなってきた。(聴解C2) ・促音、長音、短音の聞き取り練習は上級っぽくなかった。音の聞き取りよりニュースや会話を聞いて理解する練習があったほうがよかった。(聴解C2) ・N1の練習をやって、N1の試験を受けるから、N1に参加する生徒にとっていいです。(聴解C2) ・勉強になりました。(会話C2) ・わかりやすい。(漢字C2) ・とても役に立ちました。(表現技術C2) |
| 2. 授業のレベル ちょうどよかった(52人) よかった(47人) ふつう(5人) あまりよくなかった(4人) ぜんぜんよくなかった(2人) | 4.3 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分のレベルと大体同じでよかった。(読解C2a) ・ときどき難しかったが、自分の日本語のレベルがよくなったと思う。(読解C2b) ・難しすぎた。(作文C2) ・後半は少し難しくなりました。(聴解C2) ・日本語能力試験受験者向けの授業が欲しかった。(聴解C2) ・もっと上がっても大丈夫だと思います。(会話C2) ・易しすぎた。(会話C2) ・易しすぎた。上級っぽくない。強いて言うなら中級でした。(漢字C2) ・N2を取った私にとって授業のレベル、教材がとても適当だ。(漢字C2) ・易しすぎた。(日本文化C2) |
| 3. 授業の進度 ちょうどよかった(71人) よかった(28人) ふつう(9人) あまりよくなかった(2人) ぜんぜんよくなかった(0人) | 4.5 | <ul style="list-style-type: none"> ・大体よかったので、あっという間に終わってしまった。(読解C2a) ・2週に1つの文章を読むのは遅すぎます。(読解C2a) ・授業で本当のテストみたいに時間をはかって問題を解けていたので、とてもよかったです。(読解C2b) ・速すぎた。(漢字C2) |
| 4. 教科書・プリント とてもよかった(57人) よかった(43人) ふつう(5人) あまりよくなかった(4人) ぜんぜんよくなかった(1人) | 4.4 | <ul style="list-style-type: none"> ・宿題が多い。(読解C2a) ・上級日本語を勉強する外国人ではなく、日本人の小学生のために書かれた気がしました。読解よりも会話のための本でした。(読解C2a) ・教科書の文章は少し難しい。(読解C2a) ・この授業の教科書は私が1番好きな教科書になった。友達にも勧めた。(読解C2b) ・ちょうどいい。(読解C2b) ・N1の教科書でも例文はわかりやすい。(文法C2) ・ちょうどいい。(文法C2) ・作文を書いたとき、授業の教材は非常に役に立った。(作文C2) ・テーマがおもしろいです。(会話C2) ・授業名は「上級漢字」なのに使う本のタイトルはintermediate、つまり「中級」だ。(漢字C2) |

| | | |
|--|-----|--|
| <p>5. 教え方 とてもよかった(74人) よかった(29人) ふつう(5人) あまりよくなかった(2人) ぜんぜんよくなかった(0人)</p> | 4.6 | <ul style="list-style-type: none"> ・グループで一緒に頑張るのはとてもいいと思う。1人の場合は予習しなくてもいいという考えがあるが、グループでのディスカッションがあるから、ちゃんと予習しなければならない。また、自分のわからない部分も他人と相談できるので、安心した。さらに、友達もできてとてもうれしかった。(読解C2a) ・授業中先生の負担が少ない。積極的に新しい文型や言葉を教えない。(読解C2a) ・教え方はおもしろくて集中しやすかった。(読解C2b) ・事前に準備をしておいたほうがいい。(聴解C2) ・先生はとてもやさしい!(会話C2) ・先生は真面目で感動した。(会話C2) ・わかりやすい説明が多いから。(漢字C2) ・先生の説明はとても詳しいと思います。(漢字C2) |
| <p>6. どのぐらい出席したか 80%~100%(105人) 60%~80%(2人) 40%~60%(3人) 20%~40%(0人) 0%~20%(0人)</p> | - | <p>欠席した理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門の授業やゼミがあったから(4人) ・アルバイトがあったから(0人) ・病気のため(4人) ・その授業に興味がなかったから(0人) ・その他(0人) |
| <p>7. 予習・復習をしたか かなりした(45人) すこした(59人) ぜんぜんしなかった(3人) 無回答(3人)</p> | - | <ul style="list-style-type: none"> ・予習はするけど、復習することはほとんどしない。(読解C2a) ・疲れやすい。(読解C2a) ・予習する必要はありませんが、復習は大切です。(聴解C2) ・予習の必要がないと思うけど、復習しました。(聴解C2) ・宿題があったら、全部完成した。(聴解C2) ・いろいろな新しい単語を勉強した。(聴解C2) ・新しい単語があるので、しっかり勉強する。(聴解C2) ・おもしろかったです。(会話C2) ・予習と復習が必要だと思います。(漢字C2) ・いろいろ勉強になりました。(表現技術C2) ・復習したいが、なかなか時間がないです。(表現技術C2) |

その他

- ・先生がやさしいです。とても勉強になりました。(読解C2a)
- ・JLPTの勉強になる授業がほしかった。(読解C2a)
- ・今学期受けた日本語コースの中で最高の授業だった!(読解C2b)
- ・授業の中で大変勉強になりました。(聴解C2)
- ・この授業をやったら、いい勉強になりました。最後に、先生ありがとうございました。(聴解C2)
- ・頑張ります!(会話C2)
- ・人数が多いため、各人が話す機会は少なかったです。(会話C2)
- ・役に立たない授業。簡単すぎた。(会話C2)
- ・ありがとうございました!(漢字C2)
- ・先生の教え方がおもしろく、たくさん勉強になりました。授業を通じて漢字のレベルを高められると思います。(漢字C2)
- ・先生の授業の準備はとてもよかった。勉強しやすくなりました。感動しました。先生もとてもやさしいです。(表現技術C2)
- ・敬語についての内容、大変勉強になりました。(表現技術C2)
- ・クラスの雰囲気がとてもいい。(日本文化C2)

前期、後期ともにいずれの項目も4点以上となっており、概ねよい評価を得ていると言ってよいだろう。前期と後期の評点を比べると、授業内容4.7→4.3(前期→後期, 以下同様)、授業のレベル4.5→4.3、授業の進度4.5→4.5、教科書・プリント4.7→4.4、教え方4.8→4.6というように授業の進度以外は後期のほうが低くなっている。「よくなかった」と回答した人数を比べると、授業内容0→5、授業のレベル1→6、授業の進度1→2、教科書・プリント0→5、教え方0→2というようにいずれも後期のほうが多くなっている。

これまでは前期と後期を比べると、前期のほうが「よくなかった」という回答者が多くなる傾向にあり、その理由として9月末に来日した日本語・日本文化研修留学生や短期留学生のうち、来日時に中級クラスを受講した学生が4月から上級クラスの授業を受ける場合に、特に文法や作文の授業で困

難を感じていることが窺われた。これに対応するため、2019年度前期は上級クラスの文法の授業を2レベルに分け、一定の効果が見られた。しかし、2019年9月末に新たに来日した日本語・日本文化研修留学生と短期留学生については中級クラスを希望した学生はわずかで、大半の学生が上級クラスの受講となり、これにより後期上級クラスの受講者数が例年より増え、受講者間の習熟度の開きもある中でクラス運営が難しくなった科目が多かったことが理由の1つとして考えられる。さらに日本語・日本文化研修留学生の中に、日本語能力試験対策のための学習を強く希望していた学生がおり、その学生からの評価が全体的に低かったことも影響している。

全学的に非常勤講師の削減が求められ、開講科目を増やせない中、いかにクラス内の受講者の習熟度の開きやニーズの違いといった問題に対応していくかが大きな課題である。今後も継続的に授業アンケートを実施して学生のニーズの把握に努めながら改善策を探っていきたい。

日本語学習支援サイト RAICHO 報告 (2019年4月～2020年3月)

濱田 美和

1 日本語学習支援サイト RAICHO の概要

「日本語学習支援サイト RAICHO」(以下、「RAICHO サイト」, <http://www3.u-toyama.ac.jp/raicho/>) は、富山大学に在籍する留学生の日本語学習を総合的に支援するための一つの手段として、国際機構が運営しているサイトである。本サイトのねらいは、富山大学で学ぶ留学生の学習を支援するという点にあり、ターゲットを富山大学の留学生に限定することで、サイトに掲載する情報を絞り込み、利用者が必要な情報に容易にアクセスできるようにするという点に重点を置いている(サイト自体は学内外を問わず利用可)。本稿では、RAICHO サイトの2019年度の整備状況について報告し、今後の課題を述べる。

2 2019年度 RAICHO サイト整備状況

RAICHO サイトはセキュリティ上の問題点が生じたため、2013年12月より始めた外部サーバでの運用を2016年度末に一旦停止し、2017年度から学内の外部公開用サーバの利用に切り替えた。外部公開用サーバではMySQL(データベース)が利用できないため、日本語自己学習コンテンツの解答履歴の参照機能を外して、クイズ・テスト作成ソフト「THiNQ Maker」(ロゴスウェア株式会社)を用いて、新たにコンテンツを作り直す作業を2017年度より継続して行っている。2018年度はRAICHO サイトの一部をスマートフォン対応とするためのリニューアル作業を行い、年度末にリニューアルページを公開した。2019年度は日本語自己学習コンテンツの作り直しの作業を進めることにし、日本語プログラム中級、上級クラス「漢字」での使用教材『INTERMEDIATE KANJI BOOK 漢字1000PLUS』Vol.1, Vol.2(凡人社)の学習内容にあわせて、漢字の読みクイズを作成した。



図1 漢字読みクイズ(スマートフォン版)

また、富山大学令和元年度学長裁量経費（教育研究活性化等経費）「日本語教育推進法成立（6.21）を受けての、地域・外国人労働者むけ日本語公開講座の需要調査と試行」の助成を受けて開催した日本語公開講座で利用するため、情報提供の「日本語学習のためサイト・アプリ」のページを更新し、英語、中国語、インドネシア語、ベトナム語、ポルトガル語訳のページも新たに加えた。



図2 情報提供 中国語ページ



図3 情報提供 インドネシア語ページ



図4 情報提供 ベトナム語ページ



図5 情報提供 ポルトガル語ページ

3 今後の課題

2016年度末の外部サーバでの運用停止以降、3年をかけて新たな運用体制を徐々に整備してきた。しかし現在再公開できているのは2016年度までに公開していたコンテンツの一部である。今後も継続してコンテンツの作り直しの作業を進めていきたい。

3. 国際機構関連行事 (2019年4月～2020年3月)

2019年

- 4月 1日 (月) 2019年度前期日本語プログラム講師ミーティング
- 4月 2日 (火) 平成31年度4月入学新入外国人留学生のためのオリエンテーション
- 4月 4日 (木) 学部新入留学生のための時間制作成オリエンテーション
春期総合日本語コースオリエンテーション
- 4月 5日 (金) 前期日本語課外補講オリエンテーション
- 4月 8日 (月) 平成31年度学生生活オリエンテーション
- 4月10日 (水) ライデン大学短期日本語研修プログラム開講式・オリエンテーション
- 4月25日 (木) 第1回日本語・日本文化研修留学生プログラム検討WG
- 5月 8日 (水) 第1回国際機構運営会議外国人留学生奨学金等専門委員会及び
第1回同五福キャンパス部会
- 5月 8日 (水) 令和元年度チャールストンカレッジ英語研修プログラム参加者募集説明会
- 5月17日 (金) スタディーエクスカーション (五百羅漢・富山市民俗民芸村)
- 5月22日 (水) 第1回国際機構運営会議短期留学生修了論集編集専門委員会
- 5月27日 (月) 第2回国際機構運営会議外国人留学生奨学金等専門委員会及び
第2回同五福キャンパス部会
- 5月28日 (火) ～5月31日 (金) 第1回国際機構運営会議 (メール会議)
- 6月 5日 (水) 交換留学オリエンテーション
- 6月13日 (木) 第3回国際機構運営会議外国人留学生奨学金等専門委員会
- 6月19日 (水) 第3回国際機構教員会議
- 6月25日 (火) 第1回国際機構運営会議学生海外留学支援専門委員会
- 7月 4日 (木) ライデン大学短期日本語研修プログラム修了式
- 7月 4日 (木) 第2回日本語・日本文化研修留学生プログラム検討WG
- 7月11日 (木) 海外に渡航する富山大学生のための海外危機管理オリエンテーション
- 7月19日 (金) 第2回国際機構教員会議
- 7月24日 (水) 令和元年度春季短期派遣留学プログラム参加者募集説明会
- 7月24日 (水) 第2回国際機構運営会議短期留学生修了論集編集専門委員会
- 7月31日 (水) 第4回国際機構運営会議外国人留学生奨学金等専門委員会及び
第3回同五福キャンパス部会
- 8月 2日 (金) ～8月5日 (月) 第3回国際機構運営会議短期留学生修了論集編集専門委員会
(メール会議)
- 8月24日 (土) 富山大学・公益財団法人日本語教育学会主催講演・ワークショップ
「対話的評価活動を取り入れたクラス活動を考える
—内省型ルーブリックの作成を通して—」
- 9月18日 (水) 第3回国際機構教員会議
- 9月25日 (水) ～9月27日 (金) 第2回国際機構運営会議 (メール会議)
- 9月30日 (月) TOEFL-ITP実施
- 10月 1日 (火) 2019年度後期日本語プログラム日本語プログラム講師ミーティング

- 10月 1日 (火) 令和元年度後期全学チューター説明会
- 10月 2日 (水) 第5回国際機構運営会議外国人留学生奨学金等専門委員会
- 10月 3日 (木) 秋期総合日本語コースオリエンテーション
- 10月 4日 (金) 後期日本語課外補講オリエンテーション
- 10月 8日 (火) 第3回日本語・日本文化研修留学生プログラム検討WG
- 10月 9日 (水) 令和元年度10月入学新入外国人留学生のためのオリエンテーション
- 10月18日 (金) 第4回国際機構教員会議
- 10月31日 (木) ～11月8日 (金) 第2回国際機構運営会議学生海外留学支援専門委員会
(メール会議)
- 11月15日 (金) 第3回国際機構運営会議
- 11月20日 (水) 交換留学オリエンテーション
- 12月 6日 (金) 第5回国際機構教員会議
- 12月20日 (金) 海外に渡航する富山大学生のための海外危機管理オリエンテーション
- 12月24日 (火) 第6回国際機構教員会議

2020年

- 1月 8日 (水) TOEFL-ITP実施
- 1月 8日 (水) 第6回国際機構運営会議外国人留学生奨学金等専門委員会及び
第4回同五福キャンパス部会
- 1月29日 (水) 第7回国際機構教員会議
- 2月 8日 (土) 学長裁量経費「外国人労働者のための日本語クラス」
- 2月12日 (水) 国際機構主催国際交流セミナー「グローバルマインドの育成のために」
- 2月15日 (土) 学長裁量経費「日本語・日本文化公開講座」
- 2月20日 (木) 第8回国際機構教員会議
- 2月21日 (金) 第7回国際機構運営会議外国人留学生奨学金等専門委員会
- 3月 3日 (火) 第3回国際機構運営会議学生海外留学支援専門委員会
- 3月 4日 (水) ～3月9日 (月) 第4回国際機構運営会議学生海外留学支援専門委員会
(メール会議)
- 3月 9日 (月) 第4回国際機構運営会議短期留学生修了論集編集専門委員会
- 3月16日 (月) 第4回国際機構運営会議
- 3月19日 (木) 第4回日本語・日本文化研修留学生プログラム検討WG
- 3月26日 (木) 第8回国際機構運営会議外国人留学生奨学金等専門委員会及び
第5回同五福キャンパス部会
- 3月27日 (金) 第9回国際機構教員会議

2019 年度外国人留学生と地域との交流状況

| No. | 行 事 名 | 期 日 | 主 催 団 体 名 | 参加人数 (留学生) |
|-----|--------------------------------------|-----------|------------|---------------|
| 1 | 高岡の古い町並みを 散策しよう！ | 6月9日（日） | 富山市民国際交流協会 | 6 |
| 2 | ゆかた着付け教室 | 7月28日（日） | 富山市民国際交流協会 | 3 |
| 3 | 富山まつり 「越中おわら踊り」 | 8月3日（土） | 富山市民国際交流協会 | 7 |
| 4 | 富山市総合防災訓練 | 9月28日（土） | 富山市民国際交流協会 | 1 |
| 5 | 国際交流フェスティバル (各国のブース担当、踊り、 ゲーム) | 11月10日（日） | 富山市民国際交流協会 | 46 |
| 6 | 富山大学留学生と富山市立 老田小学生との文化交流 | 11月27日（水） | 富山昭和ライオンズ | 6 |
| 7 | 新春国際交流 フェスティバル 2020 | 1月19日（日） | 富山市民国際交流協会 | 8 |
| 8 | 国際教養講座 | 2月21日（金） | 志貴野高等学校 | 2 |

| | | |
|------------------|--|--|
| バハウ サイモン ピーター | 補「生活日本語 A1 a」(火曜 2 限) ⑦中級「特別指導 B1」(木曜 4 限) 教総合科目系「日本事情 / 自然社会」 (火曜 5 限) 教人文科学系「異文化理解」(水曜 2 限) ①「国際交流活動論」(集中講義) | |
| 濱田 美和 | 総補⑦中級「漢字 B1」(月曜 4 限) ⑦中級「特別指導 B1」(金曜 3 限) 総補上級「表現技術 C1」(月曜 3 限) 総補上級「漢字 C1」(火曜 2 限) 総補上級「文法 C1a」(木曜 1 限) 総補上級「文法 C1b」(木曜 2 限) 教外国語系「日本語リテラシーⅢ」 (火曜 4 限) 院人間発達科学研究科「言語環境特論」 (火曜 5 限) | 総補中級「作文 B2」(木曜 3 限) 総補中級「漢字 B2」(月曜 3 限) 総補上級「漢字 C2」(月曜 4 限) 総補上級「文法 C2」(木曜 2 限) 総補上級「表現技術 C2」(火曜 2 限) 教総合科目系「日本事情 / 芸術文化」 (火曜 5 限) |
| 田中 信之 | 補初級「文法 A1」(金曜 1 限) 補初級「文法 A1」(金曜 2 限) 総補⑦中級「作文 B1」(木曜 3 限) 総補⑦中級「文法 B1」(金曜 3 限) ⑦中級「特別指導 B1」(火曜 3 限) 総補上級「読解 C1b」(木曜 4 限) 教外国語系「日本語コミュニケーションⅠ」 (火曜 4 限) | 補初級「文法 A2」(水曜 1 限) 補初級「文法 A2」(水曜 2 限) 補初級「文法 A2」(金曜 1 限) 補初級「文法 A2」(金曜 2 限) 総補上級「読解 C2b」(火曜 3 限) 教外国語系「日本語コミュニケーションⅡ」 (火曜 4 限) |

【留学生指導および留学準備にかかるコンサルテーション等】

| | 前 期 |
|------------------|------------------------------------|
| バハウ サイモン ピーター | コンサルテーション (火曜 3 限・4 限)、(木曜 3 限) |

【学内委員等】

国際機構運営会議

国際機構フロント会議

国際機構運営会議留学生奨学金等専門委員会

同 五福キャンパス部会

国際機構運営会議海外留学支援専門委員会

国際機構運営会議短期留学生修了論集編集専門委員会

日本語・日本文化研修留学生プログラム検討WG

教養教育初修外国語日本語

富山大学生生活協同組合理事会

池田 真行 (議長)

門脇 真

田中 信之

門脇 真 (フロント長)

田中 信之 (委員長)

田中 信之 (委員長)

バハウ サイモン ピーター

濱田 美和

田中 信之

濱田 美和

濱田 美和 (代表)

バハウ サイモン ピーター (理事)

【その他業務分担】

国際機構紀要

国際機構ホームページ

田中 信之

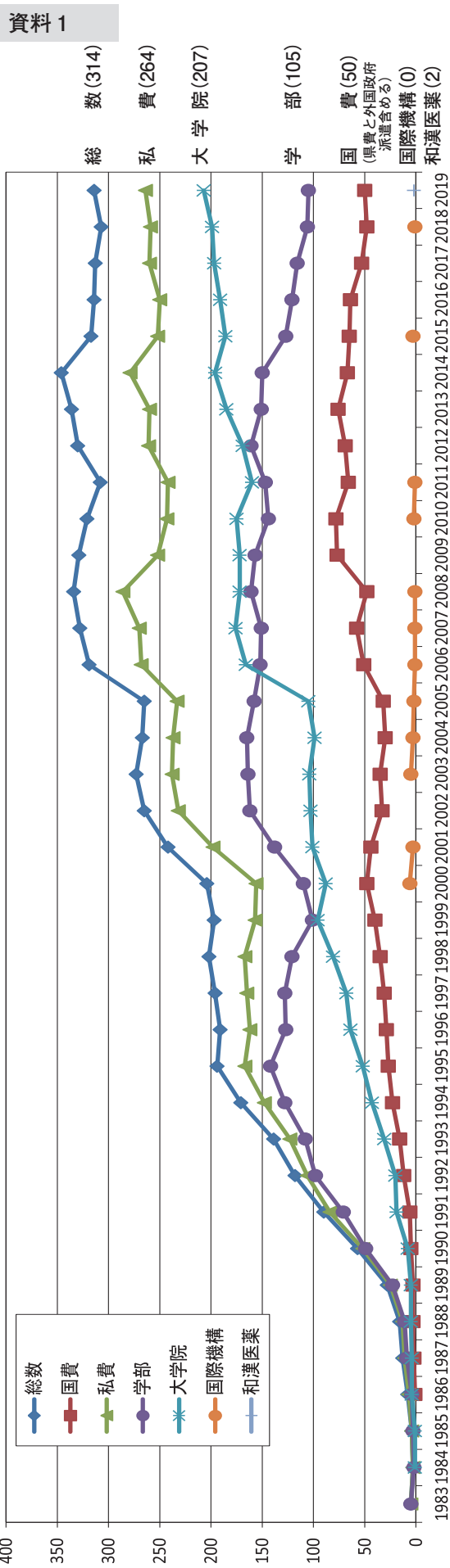
副島 健治



Ⅲ 資料

- 1 富山大学における年度別
外国人留学生数の推移
- 2 富山大学在籍外国人留学生数
- 3 富山大学国際機構規則
- 4 富山大学国際機構紀要投稿要項

富山大学における年度別外国人留学生数の推移



資料2

富山大学在籍外国人留学生数（2019年度）

1. 部局別

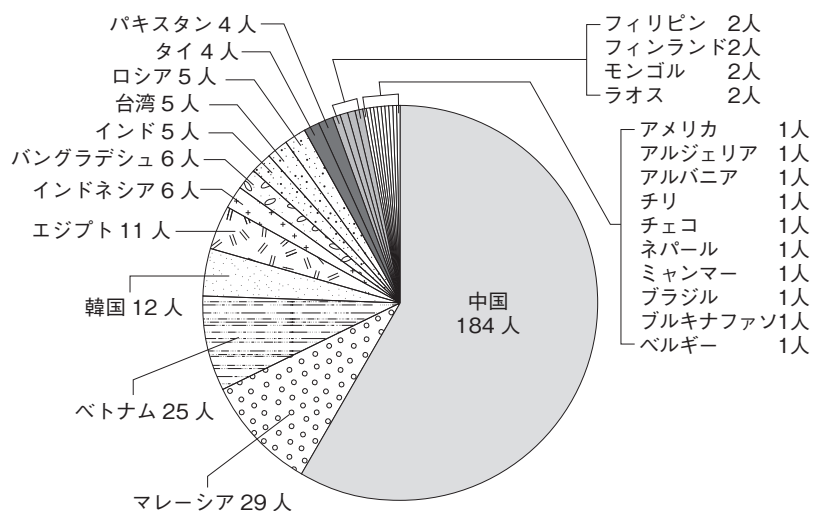
2019年5月1日現在

| | 学部 | 正規生 | | | | | 非正規生 | | | | 合計 |
|--|------------------|-----|----|------|-----|-----|------|----|----|----|-----|
| | | 国費 | 県費 | 外国政府 | 私費 | 小計 | 国費 | 県費 | 私費 | 小計 | 計 |
| | 人文学部 | | | | 8 | 8 | 2 | 1 | 13 | 16 | 24 |
| | 人間発達科学部 | | | 1 | 2 | 3 | 2 | | 4 | 6 | 9 |
| | 経済学部 | | | 2 | 5 | 7 | | | 12 | 12 | 19 |
| | 理学部 | | | | 2 | 2 | | | 1 | 1 | 3 |
| | 医学部 | | | | | 0 | | | | 0 | 0 |
| | 薬学部 | | | | | 0 | | | | 0 | 0 |
| | 工学部 | | | 18 | 18 | 36 | | 1 | 2 | 3 | 39 |
| | 芸術文化学部 | 1 | | | 4 | 5 | | | 2 | 2 | 7 |
| | 都市デザイン学部 | | | | 4 | 4 | | | | | 4 |
| | 小計 | 1 | 0 | 21 | 43 | 65 | 4 | 2 | 34 | 40 | 105 |
| | 大学院 (修士・博士前期) | | | | 7 | 7 | | 1 | 4 | 5 | 12 |
| | 人間発達科学研究科 | | | | 1 | 1 | | | 1 | 1 | 2 |
| | 経済学研究科 | | | | 35 | 35 | | | 4 | 4 | 39 |
| | 医学薬学教育部 | 2 | 4 | | 10 | 16 | | | 1 | 1 | 17 |
| | 理工学教育部（理学系） | | | | 9 | 9 | | | | | 9 |
| | 理工学教育部（工学系） | | 4 | | 30 | 34 | | | | | 34 |
| | 芸術文化学研究科 | | | | 5 | 5 | | | 1 | 1 | 6 |
| | 小計 | 2 | 8 | 0 | 97 | 107 | 0 | 1 | 11 | 12 | 119 |
| | 大学院 (博士・博士後期) | | | | 4 | 33 | | | | | 37 |
| | 医学薬学教育部 | 4 | | | 33 | 37 | | | | | 37 |
| | 生命融合科学教育部（五福） | 3 | | | 2 | 5 | | | | | 5 |
| | 生命融合科学教育部（杉谷） | 1 | | | 13 | 14 | | | | | 14 |
| | 理工学教育部（理学系） | 1 | | | 2 | 3 | | | | | 3 |
| | 理工学教育部（工学系） | 2 | | | 27 | 29 | | | | | 29 |
| | 小計 | 11 | 0 | 0 | 77 | 88 | 0 | 0 | 0 | 0 | 88 |
| | 国際機構 | | | | | | | | | | 0 |
| | 和漢医薬学総合研究所 | | | | | | | | 2 | 2 | 2 |
| | 合計 | 14 | 8 | 21 | 217 | 260 | 4 | 3 | 47 | 54 | 314 |

2. キャンパス別

| | |
|---------|-----|
| 五福キャンパス | 231 |
| 杉谷キャンパス | 70 |
| 高岡キャンパス | 13 |
| 合計 | 314 |

3. 国・地域別（計26ヶ国・地域）



富山大学国際機構規則

平成30年3月27日制定

令和元年9月27日改正

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人富山大学学則（以下「学則」という。）第11条の2第2項の規定に基づき、富山大学国際機構（以下「機構」という。）の組織及び運営に必要な事項を定める。

(目的)

第2条 機構は、学則第3条に規定する目的の実現に向け、富山大学（以下「本学」という。）における国際化に関する事業を統括し、本学の国際化を推進する。

(業務)

第3条 前条の目的を達成するため、機構は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 国際戦略（国際化の基本方針及び目標計画等を含む。）の策定及び国際交流の推進に関すること。
- (2) 海外学術交流協定校との連絡調整に関すること。
- (3) 外国人留学生の受入れ及び本学学生の海外派遣の支援に関すること。
- (4) 外国人研究者の受入れ及び本学職員の海外派遣の支援に関すること。
- (5) 外国人留学生の日本語教育に関すること。
- (6) 外国人留学生のキャリア支援に関すること。
- (7) 本学学生の留学及び国際キャリアのための英語能力の強化に関すること。
- (8) 外国人留学生と本学学生との交流推進に関すること。
- (9) 卒業・修了後の外国人留学生との連携・支援に関すること。
- (10) 国際交流に関する調査及び研究
- (11) 本学職員の英語能力の強化に関すること。
- (12) その他機構の目的を達成するために必要な業務に関すること。

第2章 組織

(グローバルフロント)

第4条 機構に、グローバルフロント（以下「フロント」という。）を置く。

2 フロントは、次に掲げる業務を行う。

- (1) 国際化に関する中期目標・計画，年度計画及び評価の立案に関すること。
 - (2) 機構事業推進に関わる部門間の連携に関すること。
 - (3) 部局等との連携・調整に関すること。
 - (4) 機構事業推進に関わる企画・立案，協定校等の開拓に関すること。
 - (5) 前各号に掲げるもののほか，機構の目的を達成するために必要な業務に関すること。
- 3 前項に掲げるもののほか，フロントに関し必要な事項は，別に定める。

(部門)

第5条 機構に，交流部門及び教育部門を置く。

- 2 交流部門は，次に掲げる業務を行う。
- (1) 海外学術交流協定校との連絡調整に関すること。
 - (2) 外国人留学生の受入れ及び本学学生の海外派遣の支援に関すること。
 - (3) 外国人研究者の受入れ及び本学職員の海外派遣の支援に関すること。
 - (4) 外国人留学生の就学支援体制の構築に関すること。
 - (5) 国際意識の学内普及に関すること。
 - (6) 外国人留学生のキャリア支援及び本学学生の海外インターンシップ実施協力等に関すること。
 - (7) 外国人留学生と本学学生との交流推進に関すること。
 - (8) 卒業・修了後の外国人留学生との連携・支援に関すること。
 - (9) 国際交流に関する調査及び研究
 - (10) 前各号に掲げるもののほか，機構の目的を達成するために必要な業務に関すること。
- 3 教育部門は，次に掲げる業務を行う。
- (1) 外国人留学生の日本語教育に関すること。
 - (2) 本学学生の留学及び国際キャリアのための英語能力の強化（教養教育院及び各学部が開設する英語関連の授業科目は除く）に関すること。
 - (3) 本学職員の英語能力の強化に関すること。
 - (4) 前各号に掲げるもののほか，機構の目的を達成するために必要な業務に関すること。
- 4 前各項に掲げるもののほか，部門に関し必要な事項は，別に定める。

第3章 職員

(職員)

第6条 機構に，次に掲げる職員を置く。

- (1) 機構長

- (2) 副機構長
 - (3) 部門長
 - (4) 主担当として配置される教員
 - (5) 兼務配置される教員
 - (6) フロントフェロー
 - (7) その他機構長が必要と認めた者
- 2 前項のほか、部門に、必要に応じて副部門長を置くことができる。

(機構長)

第7条 機構長は、機構の業務を統括する。

- 2 機構長は、学長が指名する理事をもって充てる。

(副機構長)

第8条 副機構長は、機構長を補佐する。

- 2 副機構長の選考は、機構長が推薦し、学長が行う。
- 3 副機構長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、推薦した機構長の在任期間を超えないものとする。
- 4 副機構長に欠員が生じた場合、後任の副機構長の任期は、前任者の残任期間とする。

(フロント長)

第9条 フロントに、フロント長を置く。

- 2 フロント長は、フロントの業務をつかさどる。
- 3 フロント長は、副機構長をもって充てる。

(部門長)

第10条 部門長は、担当する部門の業務をつかさどる。

- 2 部門長の選考は、機構長が推薦し、学長が行う。
- 3 部門長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、推薦した機構長の在任期間を超えないものとする。
- 4 部門長に欠員が生じた場合、後任の部門長の任期は、前任者の残任期間とする。

(副部門長)

第11条 副部門長は、部門の運営に当たり部門長を補佐する。

- 2 副部門長は、部門を担当する第6条第1項第4号又は第5号の職員のうちから機構長が指名する者をもって充てる。
- 3 副部門長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、指名した機構長の在任期間を超えないものとする。

4 副部門長に欠員が生じた場合、後任の副部門長の任期は、前任者の残任期間とする。

(主担当配置教員)

第12条 主担当として配置される教員(以下「主担当配置教員」という。)は、フロント又は部門の業務に従事する。

(兼務配置教員)

第13条 兼務配置される教員(以下「兼務配置教員」という。)は、フロント又は部門の業務に従事する。

- 2 兼務配置教員は、本人の承諾を得た上で機構長が申請し、学系長、学術研究部長の承認を経て、学長が命ずる。
- 3 兼務配置教員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、申請した機構長の在任期間を超えないものとする。
- 4 兼務配置教員に欠員が生じた場合、後任の兼務配置教員の任期は、前任者の残任期間とする。

(フロントフェロー)

第14条 フロントフェローは、各部門と協力して部局等と連携し、事業を推進する。

- 2 フロントフェローは、機構長が部局長等及び本人の承諾を得て指名する。
- 3 フロントフェローの任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、指名した機構長の在任期間を超えないものとする。

第4章 会議

(機構運営会議)

第15条 機構に、富山大学国際機構運営会議(以下「機構運営会議」という。)を置き、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 国際化に関する中期目標・計画、年度計画及び評価に関すること。
 - (2) 職員の配置に関すること。
 - (3) フロント及び部門の業務に関すること。
 - (4) 海外大学等との学術交流協定に関すること。
 - (5) 国際交流に係る地域連携に関すること。
 - (6) 外国人留学生の奨学金に関すること(受給者の選考を含む。)
 - (7) 学生の海外派遣に係る奨学金に関すること(受給者の選考を含む。)
 - (8) 国際交流会館の管理運営に関すること(入居者の選考を含む。)
 - (9) その他機構の目的達成に必要な事項
- 2 機構運営会議に、必要に応じて専門委員会を置くことができる。

3 専門委員会に関し必要な事項は、機構長が別に定める。

(構成員)

第 16 条 機構運営会議は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 機構長
- (2) 副機構長
- (3) 部門長
- (4) 学部から選出された教員 各 1 人
- (5) 教養教育院から選出された教員 1 人
- (6) 大学院生命融合科学教育部担当から選出された教員 1 人
- (7) 和漢医薬学総合研究所から選出された教員 1 人
- (8) 附属病院から選出された教員 1 人
- (9) 国際部の部長及び課長
- (10) その他機構長が必要と認めた者

2 前項第 4 号から第 8 号まで及び第 10 号の委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

ただし、任期の途中で委員の交替があった場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議の招集及び議長)

第 17 条 機構長は、機構運営会議を招集し、その議長となる。

2 議長に事故があるときは、副機構長がその職務を代行する。

(議事)

第 18 条 機構運営会議は、委員の過半数の出席により成立し、議事は出席者の過半数をもって決する。ただし、可否同数のときは、議長がこれを決する。

2 前項の規定にかかわらず、第 15 条第 1 項第 2 号の事項を審議する会議は、委員の 3 分の 2 以上が出席しなければ開会できない。議事は、出席者の 3 分の 2 以上をもって決する。

3 第 16 条第 1 項第 2 号から第 8 号及び第 10 号の委員のうち教授を除く委員並びに同条同項第 9 号の委員は、第 15 条第 1 項第 2 号の審議には加わらない。

(意見の聴取)

第 19 条 機構運営会議が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

第 5 章 雑則

(雑則)

第 20 条 この規則に定めるもののほか、機構の運営に関し必要な事項は、機構運営会議の意見を聴いて、機構長が別に定める。

(事務)

第 21 条 機構の事務は、国際部において処理する。

附 則

- 1 この規則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規則の施行後、最初に選出される第 16 条第 1 項第 4 号から第 8 号までの委員のうち人文学部、経済学部、医学薬学研究部の医学系、理工学研究部の工学系、大学院生命融合科学教育部担当及び附属病院から選出された委員の任期は、同条第 2 項の規定にかかわらず、平成 31 年 3 月 31 日までとする。

附 則

- 1 この規則は、令和元年 10 月 1 日から施行する。
- 2 この規則の施行日の前日において、改正前の第 13 条に規定する兼任教員であった者は、この規則により兼務配置教員に任命されたものとみなす。
- 3 この規則の施行日の前日において、研究部の各系から選出された委員については、理学部、医学部、薬学部、工学部及び都市デザイン学部から選出されたものとみなす。ただし、任期は第 16 条第 2 項の規定にかかわらず、人間発達科学部、芸術文化学部、理学部、薬学部及び都市デザイン学部から選出された委員は、令和 2 年 3 月 31 日までとし、人文学部、経済学部、工学部及び医学部から選出された委員は、令和 3 年 3 月 31 日までとする。

富山大学国際機構紀要投稿要項

1 目的

富山大学国際機構（以下「機構」という。）は、日本語・日本事情教育，異文化教育，留学生教育，国際交流等にかかる理論的・実践的研究に関する論文，研究資料等を発表するため，富山大学国際機構紀要（以下「機構紀要」という。）を発行する。

2 執筆者の資格

- (1) 機構の専任教員及び非常勤講師とする。
- (2) 編集委員会が特に認めた者
- (3) (1)(2)の者が筆頭著者となっている共著者については，制限しない。

3 原稿の内容

- (1) 投稿原稿は，未発表のものとする。
- (2) 原稿の種目は，論文，研究ノート（特定の主題に対する研究上及び教育上の提言，史・資料の紹介及び考察，又は萌芽的研究を記したものを指す。），研究資料（実践記録・調査結果，既成の知見の確認等研究上報告する価値のあるものを指す。），実践・調査報告，書評のいずれかとする。

4 原稿の長さ

原稿の長さは，1篇につき，図・表・写真等を含め，原則として刷り上がり20ページ以内とする。

5 原稿の体裁

富山大学国際機構紀要執筆要領（以下「執筆要領」という。）に従って，記述する。

6 編集委員会

機構紀要編集のため，国際機構長と機構の専任教員で構成される編集委員会を置く。編集委員長は国際機構長とする。

7 投稿手続き

- (1) 投稿カードに所定の事項を記入のうえ，原稿とともに国際機構長に提出する。
後日，原稿受領書を受け取る。
- (2) 提出された年月日をもって，受付年月日とする。
- (3) 原稿提出締切日は，別途定める。

8 原稿の採否

論文等の採否は、本要項及び執筆要領に基づいて、編集委員会が決定する。

9 発行回数

原則として、年1回とする。

10 その他

掲載された論文等の二次利用は、編集委員会に委ねるものとする。ただし、著者は自由に利用できるものとする。

附則

本要項の実施は、2018年4月1日から適用する。

執筆者一覧

副島 健治 富山大学国際機構 教授*

田中 信之 富山大学国際機構 准教授

バハウ サイモン ピーター 富山大学国際機構 教授*

濱田 美和 富山大学国際機構 教授

※2020年時点におけるもの

富山大学国際機構紀要 第3号

発行年月 / 2021年2月

編集・発行 / 国立大学法人 富山大学国際機構

〒930-8555 富山県富山市五福 3190

印刷所 / 中央印刷株式会社

Journal of the Organization for International Education and Exchange, University of Toyama

Vol.3
February
2021

Contents

| | | |
|------------|--|----|
| I | Research Papers | |
| | TANAKA Nobuyuki HAMADA Miwa SOEJIMA Kenji A Survey on Japanese Language Education for Foreign Workers in Toyama Prefecture | 1 |
| | HAMADA Miwa TANAKA Nobuyuki A Trial Japanese Language and Culture Seminar for Foreign Workers | 11 |
| | HAMADA Miwa Online Examinations for Remote Japanese Language Classes Using Moodle | 20 |
| II | Annual Reports (April 2019~March 2020) | |
| | 1. Report on Exchange Division | 31 |
| | 2. Report on Education Division | 38 |
| | Report on Extracurricular Japanese Language Program | 39 |
| | Report on Short-term Japanese Language Program for Leiden University Students | 46 |
| | Report on General Japanese Language Course | 52 |
| | Student Class Questionnaire Results: Elementary Level Classes | 59 |
| | Student Class Questionnaire Results: Intermediate Level Classes | 62 |
| | Student Class Questionnaire Results: Advanced Level Classes | 66 |
| | Development and Maintenance of Japanese Language Support Website "RAICHO" | 73 |
| | 3. Calendar Year Events and Meetings | 75 |
| | 4. List of Staff and Their Responsibilities at the OIEE | 78 |
| III | Data | 81 |

Journal of the Organization for International Education and Exchange,
University of Toyama